国際コミュニケーション学科

専門教育科目

講義科目名称： 国際コミュニケーション学科ゼミナール　　授業コード： 2011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
国際コミュニケーション学科専任教員			
ナンバリング：E31A01	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	立派な社会人になるための知識とマナーの習得、コミュニケーション能力向上のための演習を実施し、就職や今後の人生に備えて学習を積み重ねます。プロジェクト型学習（PBL ： Project Based Learning）、グループ活動を多く取り入れ、ひとつの目標に向かって仲間と協力しあうこと、PDCAサイクルをまわすことも学びます。 (授業目標) ○Ａ：グループワークで各メンバーの理解が深まるよう、主体的に責任を果たすことができる。 ◎Ｂ：グループ討議や、討議結果のプレゼンテーションなどにより、自分の主張を分りやすく伝えることができる。 Ｅ：分析加工した情報を効果的に伝える資料として作成できる。
授業計画	1　産学連携プロジェクト①(ボテフ)(グループワーク：グループに分かれての課題解決) グループを作成し、それぞれで課題を発見する グループ毎の課題を決定する 浮き彫りになった課題に対して、解決するための方策をグループで考える① 2　産学連携プロジェクト②(ボテフ)（プレゼンテーション） 課題成果発表会 グループ毎にプレゼンテーションを行い選考を行う。 3　TOITA Fesキックオフ／避難訓練(3学科共通) TOITA Fesについての概要説明 避難訓練を実施する 4　産学連携プロジェクト③(ボテフ)／地域探索プロジェクト「戸板の歩き方」①(高橋)(グループワーク：グループに分かれての課題解決) 浮き彫りになった課題に対して方策をグループで考え解決する② 大学または近郊で紹介したい場所や授業などを選択し、紹介することでより地域を理解する① 5　産学連携プロジェクト④(ボテフ)／地域探索プロジェクト「戸板の歩き方」②(高橋)(プレゼンテーション) 成果発表会。グループ毎にプレゼンテーションを行う 6　TOITA Fes（産学連携プロジェクト／地域探索プロジェクト）振り返り(ボテフ) 戸板祭（産学連携プロジェクト／地域探索プロジェクト）の振り返りを行い、反省点や今後の改善点を明確にする 7　PBL（松井）（グループワーク：グループに分かれての課題解決）（Goolge Classroomを通じて資料を提出する） プロジェクト型学習（PBL ： Project Based Learning） 8　PBL（松井）（グループワーク：グループに分かれての課題解決）（Goolge Classroomを通じて資料を提出する） プロジェクト型学習（PBL ： Project Based Learning） 9　特別講演（菊池桃子客員教授）（3学科共通） 女性の働き方・キャリアについて考える 10　PROG テスト（IR室） PROGテストを実施する 11　英語資格試験講座（高橋） 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 12　英語／ICT資格試験講座（高橋） 英語とICT資格対策として問題演習を行う 13　民法講座（ゲスト講師）（3学科共通） 民法に関する講義を聞く 14　PROGテスト解説（外部講師） PROGテストの解説を聞く 15　短大2年間の振り返り（松井） 短大生活2年間を振り返り、社会人としてどのような人生を歩むのかを考える。
学習成果・ 到達目標・基準	○Ａ：グループメンバーとしての発言ができる。 ◎Ｂ：用意したスライドを活用してプレゼンテーションができる。 Ｅ：ICTを活用して情報を収集することができる。
事前・事後学習	事前：各回のテーマとなる内容についてリサーチしてくる。特にPBLに関しては、プロジェクトの進捗状況を確認し、グループ内でのタスクを整理しておく。（約60分） 事後：次回までに進めておくべきことをリストアップし、必要に応じて更なるリサーチを行う。（約60分）

指導方法	各回の内容に応じて、講義、演習などさまざまな方法で実施します。 フィードバックの方法：Google Classroomを使用して授業内で評価を行い指導する場合と、後日評価内容に従って指導する場合がある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	Ａ：グループによるPBLの過程を評価する。 Ｂ：PBLの最終プレゼンテーションを評価する。 Ｅ：ICTを活用して作成された資料を評価する。 授業での発言やプレゼンテーション作成時の貢献度 40% プレゼンテーション 40% 課題 20%
テキスト	なし
参考書	授業で指示する。
履修上の注意	掲示される授業に関する指示に従い、毎回きちんと受講して下さい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Goolge Classroom

講義科目名称： Freshman English：Basic (U)　　授業コード： 2021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Daniel Gill			
ナンバリング：E12A02	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is designed to help students communicate fluently and confidently in English. It develops language skills through the use of vocabulary , grammar, topics and images. Learners will begin the topic with a video introduction to each unit. There will be exercises in speaking, listening, reading and writing. Students must practice using the language and grammar with each other in pair work and role play situations. To attain an A grade in this class students will be expected to show a high level of understanding of the language and grammar learnt and be able to demonstrate effective usage with each other and the teacher. (Goals) ◎Ｂ: This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○Ｅ: Students can make a presentation in about 90 words.
授業計画	1 Introduction to the text and course Classroom language, behavior and expectations. Asking for personal information / giving personal information / Asking follow up questions for extended conversation 2 Unit 1 - Talking about yourself Building vocabulary / Listening Practice / Conversation & Pair work 3 Unit 1 - Talking about other people Grammar: Simple Present Questions and answers / Communication practice 4 Unit 2 - Describing appearance Building vocabulary / Listening practice / Conversation & Pair work 5 Unit 2 - Describing people Grammar: "be" vs. "have" / Conversation about your family 6 Unit 3 - Talking about things you do every day Routines / Conversation and pair work (weekend plans) 7 Unit 3 - Talking about things you do every day Grammar: Adverbs of frequency / Group discussion / Reading 8 Review Units 1 - 3 Key grammar points / Vocabulary 9 Unit 4 - Describing things Responding to directions / Talking about your room 10 Unit 4 - Describing a place Grammar : Using prepositions / Talking about a special place for you 11 Unit 5 - Asking for and giving directions Listening for specific information / Using prepositions for directions 12 Unit 5 - Describing a shopping mall Grammar: Talking about locations / Talking about special events 13 Unit 6 - Talking about past events Listening for specific information / Talking about your weekend 14 Unit 6 - Grammar - Irregular verbs in the past tense Talking about the past / Telling someone about a trip you have taken 15 Review Units 4-6 Key grammar points and vocabulary
学習成果・ 到達目標・基準	The students will need to demonstrate a continued effort in class and to maintain a notebook with each lessons grammar and new vocabulary. Students need to demonstrate a basic usage of language for simple communication tasks. ◎Ｂ: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○Ｅ: Students will be able to make a presentation in about 55 words.
事前・事後学習	Students are expected to come to class having already previewed the vocabulary for the lesson. (45 minutes)After each class, students are expected to memorize the key phrases for each lesson. Students will be expected to bring a notebook to class in order to write new vocabulary and new phrases they learn in class.(45 minutes)
指導方法	Lessons are taught in English only. Key vocabulary and dialogs are translated in the book to avoid confusion. The main emphasis of each class will be conversation. Speaking will take up the majority

	of each lesson, however listening, reading and writing will also play a role. Students will receive on-the-spot feedback in class about their progress and also about their participation.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation 〇Ｅ: Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th Edition). Pearson.
参考書	Students should bring a Japanese / English dicitionary to class.
履修上の注意	As this is a conversation class all students are expected to participate in all activities. Students should be prepared to work in pairs or in small groups, as deemed necessary by the teacher, depending upon the activity.
アクティブ・ラーニング	Pair work, group work and role play will be the focus of this class. Oral level checks are designed to help keep students focused on the task at hand.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Freshman English: Basic (S)　　授業コード： 2022

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E12A02	B 対面＋Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成することを目的とする。特に話された英語を正確に聞き取って理解する訓練を行うことにより、英語運用力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) ◎B： 場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 ○E： 80語程度の英語を用いて、聞き手に向かって分かりやすいスピーチやプレゼンテーションをすることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2　Unit 1 Family （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 家族に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、英語で肯定的、否定的な応答のしかたを身につける。 3　Unit 2 Friends （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 友達に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、頻度を表す表現を身につける。 4　Unit 3 Culture （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 文化に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、すべきこと、すべきでないことについて話す際に用いる表現を身につける。 5　Unit 4 Education （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 教育に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、英語で意見を述べたり驚きを表したりする際に使う表現を身につける。 6　Unit 5 Sports （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） スポーツに関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、本音や願望を伝える時の表現を身につける。 7　Unit 1-5のまとめ （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話の発表） Unit1-5の語彙、表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を使ってペアで会話を作成し、クラスで発表する。 8　Unit 6 Work （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 仕事に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、過去、現在、未来の状況について話す際の表現を身につける。 9　Unit 7 Food （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 食べ物に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、機会や状況について話す際に用いる表現を身につける。 10　Unit 8 Studying English （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 英語学習に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、問題や目標について話す際に用いる表現を身につける。 11　Unit 9 Health （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 健康に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、病欠を取ったり、同情したりする際に用いる表現を身につける。 12　Unit 10 Clothes （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） 衣服に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、理由や条件を挙げる際に用いる表現を身につける。 13　Unit 6-10のまとめ （グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習） Unit6-10の語彙、表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を使ってペアで会話を作成し、クラスで発表する。 14　Final Presentation 準備 Final Presentationの原稿の作成と口頭練習を行う。 15　Final Presentation （プレゼンテーション: 与えられたトピックについて1分間のプレゼン発表） これまで扱ったトピックの中から1つ選び、1分間のプレゼンテーションを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎B： 大学生にとって身近な話題についての会話を聞き取ることができる。 ○E： 自分の家族や友人について50語程度の英語にまとめ、人前で伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習: 分からない語彙や表現を調べる。（約30分） 事後学習: 語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。（約60分）
指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、さまざまな問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や

	文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: 授業貢献度や統一単語テストの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 〇Ｅ: 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	English Listening and Speaking Patterns 2, Andrew E. Bennett, 南雲堂, 2017. Listening Breakthrough for the TOEIC TEST (『TOEICテストのリスニング攻略』), Terry O'Brien, Kei Mihara, Sakujiro Shuno and Hiroshi Kimura, 南雲堂, 2015.
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Freshman English：Basic (T)　　授業コード： 2023

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A02	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is to help EFL students communicate more fluently and confidently. It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit includes an actual classroom activity. Goals for grade A include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) ◎B: This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○E: At the end of the course, students will be able to make a presentation of about 70 words.
授業計画	1 Unit 0 Welcome to English Firsthand 1 Introduction to course. 2 Unit 1 It's nice to meet you (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Introduce yourself to a partner. 3 Unit 1 It's nice to meet you (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Exchange personal information. 4 Unit 2 Who are they talking about? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describe people in a picture. 5 Unit 2 Who are they talking about? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Exchange information about descriptions in order to identify someone. Describe people in your family. 6 Unit 3 When do you start? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Make plans with someone. 7 Unit 3 When do you start? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask and answer questions about schedules. Compare habits and routines with a partner. 8 Unit 4 Where does this go? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describe where things are in a room. 9 Unit 4 Where does this go? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask and answer questions about where things are. Compare where things are in a room. 10 Unit 5 How do I get there? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask for and give directions to a place. 11 Unit 5 How do I get there? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Identify places in your community. 12 Unit 6 What happened? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask about past events. 13 Unit 6 What happened? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talk about things you did at different times in the past. 14 Speaking practice and test 1 (グループワーク、ディスカッション) Rehearsing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 15 Speaking practice and test 2 (ペアワーク、プレゼンテーション) Rehearsing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor.
学習成果・ 到達目標・基準	Goals for the students include participation in all class activities to the best of their ability, being able to demonstrate a basic level of understanding and language use; achieving a score of 60-70% in the final test. ◎B: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○E: Students can make a presentation in about 40 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of assignments and of new vocabulary.

指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There are speaking, listening, reading and writing elements in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation ○Ｅ: Quizzes, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Presentation 15% Final Exam 30% ◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation ○Ｅ: Quizzes, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 1 Fifth Edition. Helgesen, Wiltshier, Brown. Pearson 2018.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. Discussion and role play. Presentation. Peer review.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video use. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称： Freshman English：Basic (R)　　授業コード： 2024

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12A02	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を解説しながら、主にスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきます。ほぼ毎回、口頭でのボキャブラリーテストを行います。自分の言いたいことを正確に伝えるためには正しい英文を身につけることが重要ですので、英語の一文やスピーチの暗唱を実施し、英語運用が少しでもスムーズになるよう指導します。 英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身に着けることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 〇E：リスニング力とスピーキング力を高めて、50words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概略説明、Google Classroomの使用について 2　Unit1: Welcome to the "Big Apple" (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「現在形」 3　Unit1: Welcome to the "Big Apple" (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 4　Unit2: What's the Boss like? (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「代名詞」 5　Unit2: What's the Boss like? (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 6　Unit3: Masa's First Day on the Job (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「前置詞」 7　Unit3: Masa's First Day on the Job (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 8　Unit4: Summer Fun (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「過去形」 9　Unit4: Summer Fun (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 10　Unit5: Hotel Guest Satisfaction (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「可算名詞・不可算名詞」 11　Unit5: Hotel Guest Satisfaction (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 12　Unit6: Brainstorming (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「進行形」 13　Unit6: Brainstorming (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 14　Unit7: Glad to be of Service (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「WH疑問文」, Wrap-Up Writing 15　Final Presentation (プレゼンテーション：全員が必ず発表する) これまでに学習した文法や英文をもとにスピーチを行う
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 〇E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、30words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。(30分) 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行う。Google Classroomを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。(60分)
指導方法	話す力と聴く力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにプレゼンテーションやスピーチも行います。 授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施 (Google Classroom)　②授業後における質疑対応

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Robert Hickling et al. English Missions! Basic, 金星堂、2019. 桐原書店編集部、HyperListening 10-minutes English Listening Training Elementary 3rd Edition, 桐原書店、2012.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Freshman English：Intermediate (U)　　授業コード：2031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Daniel Gill			
ナンバリング：E12A03	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course aims to help students communicate fluently and confidently in English. It develops language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit begins with a video introduction exercise. Students aiming for A/S grade results will have to demonstrate effective use of the language and grammar and confidence in speaking. Accurate listening skills will also be required in addition to high scores in quizzes and the final test. They should be able to explain ten cultural differences between Japan and the U.S.A. (Goals) ◎Ｂ: This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○Ｅ: Students will be able to make a presentation in about 200 words.
授業計画	1　Unit 7 －Talking about future jobs Grammar simple present Questions and answers 2　Unit 7 - Describing someone’s job Grammar: Talking about likes and dislikes / / Talking about your hobbies 3　Unit 8 - Talking about entertainment Listening for specific time details / Making plans for the evening 4　Unit 8 - Inviting someone out Verb patterns for invitations / Talking about going to a concert 5　Unit 9 - Plans and Activities Vocabulary building / Listening for vacation plans / Discussing summer plans 6　Unit 9 - Predicting the future Grammar: Uncertain future events / making predictions 7　Review Units 7-9 Key grammar points and vocabulary (Introduce presentation) 8　Unit 10 - Shopping Vocabulary building / Listening for prices / Going to a clothing store 9　Unit 10 - Grammar Comparative adjectives / Talking about going shopping 10　Unit 11 - Instructions Listening for general understanding / Discussing problems and giving instructions 11　Unit 11 - Talking about something you are passionate about Grammar: Sequence markers and imperatives 12　Unit 12 - Opinions Vocabulary building / Responding to music / asking about music 13　Unit 12 - Talking about your life Grammar: Simple past vs simple present 14　Review Units 10-12 Key grammar points and vocabulary (work on presentation) 15　Students presentations
学習成果・ 到達目標・基準	The students will be expected to participate to the best of their ability and understand the basics of the language and grammar studied. They should be able to use the basic structures to communicate with each other and be able to explain three cultural differences between Japan and the United States of America. ◎Ｂ: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○Ｅ：Students can make a presentation in about 120 words.
事前・事後学習	Students are expected to come to class already having previewed the vocabulary for the lesson. (45 minutes) After each class, students are expected to memorize the key phrases for each lesson. Students will be expected to bring a notebook to class in order to write new vocabulary and new phrases they learn in class. (45 minutes)
指導方法	Lessons are taught in English only. Key vocabulary and dialogs are translated in the book to avoid confusion. The main emphasis of each class will be conversation. Speaking will take up the

	majoirity of each lesson, however listening, reading and writing will also play a role. Students will receive on the spot feedback in class about their progress and also about their participation.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation 〇Ｅ：Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 1 (5th edition), Pearson
参考書	Students should bring a Japanese / English dicitionary to class.
履修上の注意	As this is a conversation class all students are expected to participate in all activities. Students should be prepared to work in pairs or in small groups, as deemed necessary by the teacher, depending upon the activity.
アクティブ・ラーニング	Pair work and group work and role play will be the focus of this class.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Freshman English: Intermediate (S)　　授業コード：2032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E12A03	B 対面＋Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成することを目的とする。特に話された英語を正確に聞き取って理解する訓練を行うことにより、英語運用力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを伝えるために、正確な文法知識を身につける。最終的に、自分自身や身近な話題について英語でスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。 (授業目標) ◎B：場面に応じた適切な語彙や表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 ○E：150語程度の英語を用いて、聞き手に向かって分かりやすいスピーチやプレゼンテーションをすることができる。
授業計画	1　オリエンテーション / 前期の復習 授業の進め方とテキストの説明を行う。また、前期に学んだ語彙や表現、文法を復習する。 2　Unit 11 Traveling （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 旅行に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、頻度の表現を使って会話練習をする。 3　Unit 12 Music （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 音楽に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、好きなもの、嫌いなものについての会話を練習する。 4　Unit 13 Movies （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 映画に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、比較や最上級表現を使って会話練習をする。 5　Unit 14 Shopping （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 買い物に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、コメントをしたり話題を変える際の表現を使って会話練習をする。 6　Unit 15 Internet （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） インターネットに関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、物事の変化を説明する際に用いる表現を使って会話練習をする。 7　Unit 11-15のまとめ （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話の発表） Unit11-15の語彙、表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を使ってペアで会話を作成し、クラスで発表する。 8　Unit 16 Weather （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 天気に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、頻度の表現を使って会話練習をする。 9　Unit 17 Feelings （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 感情に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、気分を表す表現を使って会話練習をする。 10　Unit 18 Government （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 政治に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、難しい質問に答える際に用いる表現を使って会話練習をする。 11　Unit 19 Art （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 芸術に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、丁寧な否定表現やとまどいを示す表現を使って会話練習をする。 12　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Unit 20 The Future （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話練習） 未来に関する語彙や表現を学び、会話の聞き取りや発話練習を行う。また、未来についての会話の練習をする。 14　Unit 16-20のまとめ （グループワーク：ペアあるいはグループでの会話の発表） Unit16-20の語彙、表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を使ってペアで会話を作成し、クラスで発表する。 15　Final Presentation （プレゼンテーション：与えられたトピックについて1分間のプレゼン発表会） これまで扱ったトピックの中から1つ選び、1分間のプレゼンテーションを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：　身近な話題についての会話を聞き取ることができる。 ○E：　音楽や将来について90語程度の英語にまとめ、人前で伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：分からない語彙や表現を調べる。（約30分） 事後学習：語彙や表現、文法を復習し、授業で扱った英文をスムーズに読めるようになるまで音読する。（約60分）

指導方法	ディクテーションやロールプレイングなどさまざまな演習を行うことにより、基本的なリスニング力とスピーキング力の養成を目指す。また、さまざまな問題演習を通して、コミュニケーションに必要な基本的な語彙や文法知識を身につける。毎回確認のための小テストを実施する。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③1分間プレゼンテーションの実施とそれに対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: 授業貢献度やTOEICの成績、プレゼンテーションの完成度で評価する。 〇Ｅ: 小テストや定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP (Listening Section) 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	English Listening and Speaking Patterns 2, Andrew E. Bennett, 南雲堂, 2017. Listening Breakthrough for the TOEIC TEST (『TOEICテストのリスニング攻略』), Terry O'Brien, Kei Mihara, Sakujiro Shuno and Hiroshi Kimura, 南雲堂, 2015.
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを毎回実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Freshman English：Intermediate (T)　　授業コード：2033

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A03	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	The aim of this course is to help improve EFL students communication and confidence. This course builds on the work done in the first semester. Goals for grade A include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) ◎B: Each lesson will cover a different topic that provides context for learning about the English language and other cultures. ○E: Students can make a presentation in about 100 words.
授業計画	1 Unit 7 I'd love that job (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask and answer questions about jobs and job skills. 2 Unit 7 I'd love that job (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talk about jobs you would like or would not like, and give reasons. 3 Unit 8 What's playing? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Discuss your opinions. 4 Unit 8 What's playing? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Make plans with a partner. Talk about entertainment options. 5 Unit 9 What are you going to do? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask and answer questions about future plans and activities. 6 Unit 9 What are you going to do? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Discuss goals. 7 Unit 10 How much is this? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask and answer questions about shopping. 8 Unit 10 How much is this? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Negotiate prices. 9 Unit 11 How do you make it? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Give steps in instructions. 10 Unit 11 How do you make it? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Teach someone a skill. 11 Unit 12: Listen to the music (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listen and give opinions. 12 Unit 12: Listen to the music (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Express your thoughts about music. 13 Review General review of textbook. 14 Rehearsal and speaking tests 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Rehearsing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 15 Rehearsal and speaking tests 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Rehearsing in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor.
学習成果・ 到達目標・基準	Goals for the students include participation in all class activities to the best of their ability, being able to demonstrate a basic level of understanding and language use; achieving a score of 60-70% in the final test. ◎B: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○E: Students can make a presentation in about 60 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of assignments and of new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited

	and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There are speaking, listening, reading and writing elements in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation 〇Ｅ：Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC (Listening Section) 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 1 Fifth Edition. Helgesen, Wiltshier, Brown. Pearson 2018.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. Discussion and role play. Presentation. Peer review.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video use. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称： Freshman English：Intermediate (R)　　授業コード：2034

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12A03	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を解説しながら、主にスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきます。ほぼ毎回、口頭でのボキャブラリーテストを行います。自分の言いたいことを正確に伝えるためには正しい英文を身につけることが重要ですので、英語の一文やスピーチの暗唱を実施し、英語運用が少しでもスムーズになるよう指導します。 英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身に着けることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 〇E：リスニング力とスピーキング力を高めて、70words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit8: Socializing wih Co-Workers（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「動名詞・不定詞」 2　Unit8: Socializing with Co-Workers (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 3　Unit9: Vacation Spots（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「未来形」 4　Unit9: Vacation Spots (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 5　Unit10: Sports Talk（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation,Breaking Down the Grammar「比較級・最上級」 6　Unit10: Sports Talk (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 7　Unit11: Tour Day（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「助動詞」 8　Unit11: Tour Day (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 9　Unit12: Party Time!（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「現在完了形」 10　Unit12: Party Time! (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 11　Unit13: Office Meeting（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「関係詞」 12　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Unit14: A Bit of History（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） Getting Ready, Conversation, Breaking Down the Grammar「受動態」 14　Unit14: A Bit of History (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) Grammar Checking, Reading, Wrap-Up Writing 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） これまでに学習した文法や英文をもとにスピーチを行う
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 〇E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、40words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。（30分） 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行う。Google Classroomを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。（60分）
指導方法	話す力と聴く力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにプレゼンテーションやスピーチも行います。 授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施（Google Classroom）　②授業後における質疑対応

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP（リスニングセクション）20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Robert Hickling et al. English Missions! Basic, 金星堂、2019. 桐原書店編集部、HyperListening 10-minutes English Listening Training Elementary 3rd Edition, 桐原書店、2012.
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Freshman English Writing：Basic (U)　　授業コード：2041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
ナンバリング：E12A04	B 対面＋Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	使えるための英語表現力を身につけられるよう、学生にとって身近なテーマに関する英文を読むことで、リスニング力からリーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。TOEICリーディング対策も行う。 （授業目標） ○Ｄ：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎Ｅ：一定のテーマについて、90語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1　Orientation Self-introduction in English 2　Cultural shock (Group discussion about the topic) Cultural differences 3　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening and Reading Sections 4　Gum: something to chew on (1)　(Group discussion about the topic) Chewing for a better grade 5　Gum: something to chew on　(2)　(Group discussion about the topic) A sticky problem 6　Reviews on Unit 1 and 2 Review Articles and Present simple questions 7　Today's technology (1)　(Group discussion about the topic) Profcasts 8　Today's technology (2)　(Group discussion about the topic) CD vs Vinyl 9　Urban life (1)　(Group discussion about the topic) World's apart 10　Urban life (2)　(Group discussion about the topic) Living in the city 11　Reviews Unit 3 Review Present simple and present progressive 12　Reviews Unit 4 Adverbs of frequency 13　They body beautiful (1)　(Group discussion about the topic) Beautiful people have better lives 14　They body beautiful (1)　(Group discussion about the topic) Big labels small prices 15　Writing a final essay Write a final essay of at least 55 words
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：イギリス人、アメリカ人、台湾人、メキシコ人の国民性、いずれかについて英語で書くことができる。 現代のテクノロジーの一つであるMP3について、自分の意見を書くことができる。 ◎Ｅ：一定のテーマについて、55語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べ、分からない点について、あらかじめまとめておくこと。（約45分） 事後学習については単語の復習およびFinal Essayの準備を行うこと。（約60分）
指導方法	各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。その後、内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading 2, Jackie McAvoy　　Macmillan Language House Everyday Vocabulary Quizzes、佐藤誠司　　南雲堂
参考書	授業の時に指示する。
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。 毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。 コロナ感染対策のため、対面授業とオンライン授業が交互になりますので、間違えないように確認してください。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroom　power point資料

講義科目名称： Freshman English Writing：Basic (S)　　授業コード：2042

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A04	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	The purpose of this class is to help students develop English proficiency, especially basic reading and writing skills. It will help students Improve their English vocabulary and reading comprehension by reading conversations and texts about recent topics that are familiar to students. In addition, it will help students learn important expressions used in various situations and acquire practical writing skills. (Goals) ○Ｄ: There will be activities on grammar, vocabulary, spelling, and editing ◎Ｅ: Students will be able to write a paragraph in about 80 words.
授業計画	1 Introduction to course Expectations and goals of course 2 Unit 1 Sports and Obsession (Pair work) Focus on Reading An Interview with Travis Binns 3 Unit 1 Sports and Obsession (Group Work) Focus on Reading High School Star Hospitalized for Eating Disorder 4 Unit 1 Sports and Obsession (Discussion) Focus on Writing An Amazing Performance Modals of Ability 5 Unit 2 The Consequences of Fraud (Pair work) Focus on Reading Types of Fraud 6 Unit 2 The Consequences of Fraud (Group Work) Focus on Reading Identity Theft 7 Unit 2 The Consequences of Fraud (Discussion) Focus on Writing Phony Doctor Gets 12 Years in Prison Simple Past and Past Progressive 8 Unit 3 Exploring the Red Planet (Pair work) Focus on Reading One Family's "Vacation" to Mars 9 Unit 3 Exploring the Red Planet (Group Work) Focus on Reading Timeline for a Mission to Mars 10 Unit 3 Exploring the Red Planet (Discussion) Focus on Writing Why People Join Mars One Infinitives of Purpose 11 Unit 4 Language and Power (Pair work) Focus on Reading Gender Differences in Language 12 Unit 4 Language and Power (Group Work) Focus on Reading The Questions of Global English 13 Unit 4 Language and Power (Discussion) Focus on Writing Contrastive Paragraph Comparative Adverbs 14 Review of Material Overall review of textbook material covered during semester 15 Final Paragraph (Pairwork) Peer review of written essays
学習成果・ 到達目標・基準	Goals for the students include participation to the best of their ability and display of basic understanding of material, demonstrated through assignments in each unit.

	○D: To help learners improve their basic writing skills and to increase their vocabulary. ◎E: Students will be able to write a paragraph in 50 words.
事前・事後学習	Students are expected to do approximately 45 min. preparation for class per week. They are also expected to do approximately 45 min. review of the lesson each week. This includes writing and revising ideas from class.
指導方法	Class instruction will be primarily done in English. Students will be expected to work in pairs or small groups as instructed. Although it is a reading/writing class, students will be expected to share their opinions about material. Students will participate actively in class and assist each other students when necessary. Students will be evaluated based on participation, assignments, and a final exam.
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：Participation, Vocabulary Test ◎E：Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Writing Assignment 15% Final Exam 30%
テキスト	North Star 3 Reading & Writing, Fifth Edition. Laurie Barton and Carolyn Dupaquier, Pearson, 2019.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice written communication in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. Discussion and role play. Peer review.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video use. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称： Freshman English Writing：Basic (T)　　授業コード：2043

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
Daniel Gill			
ナンバリング：E12A04	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is a first step for students to develop and master academic writing skills.It is designed to help students form basic sentences.There will be activities and exercises on sentence structure, grammar, vocabulary, spelling and editing. A/S grade goals are for students to actively participate in all classes and can show a high level of understanding through written work.Students must get test scores in the top 10% of the class. (Goals) ○D: There will be activities and exercises on grammar, vocabulary, spelling and editing. ◎E: Students can write an essay in about 70 words.
授業計画	1 Introduction Introduction to the course Classroom language / Behaviour and expectations of students 2 Unit 1 Sentences and word order 3 Unit 1 Sentences and punctuation 4 Unit 2 Learn about Nouns 5 Unit 2 Pair work, edit and check your classmates writing(Pair Work, Peer Editing) Writing about your friends 6 Unit 3 Simple present tense 7 Unit 3 Review test Units 1 to 3. Peer marked in class(Pair Work, Peer Editing) Writing about activities 8 Unit 4 Adjectives 9 Unit 4 Pair work, peer editing. (Pair Work, Peer Editing) Writing about places 10 Unit 5 Verbs Simple present of to be 11 Unit 5 Writing about two cities 12 Unit 6 Pronouns 13 Unit 6 Writing about people and their jobs 14 Peer editing of written exercises (Pair Work, Peer Editing) 15 Free writing and Review of Semester 1
学習成果・ 到達目標・基準	Goals for the students include participation to the best of their ability and to show a basic understanding, demonstrated through written work in each unit. ○D: To help advanced learners to improve writing skills and to increase their vocabulary. ◎E: Students can write an essay in about 40 words.
事前・事後学習	Students will be expected to do approximately 45 minutes per week preparation for the class. They are also expected to do approximately 45 minutes per week review of the lesson. This will include writing and rewriting ideas from the class.
指導方法	Lessons will be taught in English Only. Students will be expected to work in pairs or small groups accordingly. Although it is a writing class, students will be called upon to voice their opinions with regards to topics that are being written about. Students will take an active role in class, helping other students if possible. Students will receive a grade based on participation, writing

	assignments, attendance and a final exam.
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: Participation, Vocabulary Test ◎E: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Great Writing Foundations. Keith S. Folse. Cengage.
参考書	Students will be expected to bring a English/Japanese dictionary to class. Proper notebook will be needed.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in class. Students should try to speak out and voice their opinion during the lessons. It is their opportunity to communicate with a native teacher, they should take advantage of it.
アクティブ・ラーニング	Pair work and small group work.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Freshman English Writing: Basic (R)　　授業コード：2044

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E12A04	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎力を養うことを目的とする。身近な最近の話題についての会話文や文章を読み、英語の語彙力と読解力の向上を図る。また、様々な場面で使用される重要表現を学び、実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) ○D: まとまった内容の英文を読み、その内容に関する知識を深めることができる。 ◎E: 身近な話題について、50語程度の英語の文章を正確に書くことが出来る。
授業計画	1　オリエンテーション、Unit 1 Self-Introduction （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 授業の進め方やテキストについて概説する。be動詞・一般動詞について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 2　Unit 2 My Family, My Friends （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 名詞の単数・複数、冠詞、形容詞について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 3　Unit 1 & 2のまとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 1と2の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 4　Unit 3 My Room （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） there構文・前置詞について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 5　Unit 4 Everyday Activities （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 現在形・現在進行形について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 6　Unit 3 & 4のまとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 3と4の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 7　Unit 5 Recipes （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 他動詞・自動詞について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 8　Unit 6 Introducing My Town （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 副詞・比較級・最上級について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 9　Unit 5 & 6のまとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 5と6の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 10　Unit 7 Asking Questions （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） wh疑問文について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 11　Unit 8 Diary （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 5文型・過去形について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 12　Unit 7 & 8のまとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 7と8の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 13　Unit 9 Making a Reservation （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 未来形、would like toの表現について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 14　Unit 10 Writing a Postcard （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 受動態について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 15　Unit 9 & 10のまとめ(ペアワーク: お互いの英作文を添削する) Unit 9と10の語彙や表現、文法事項の確認を行う。ままた、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。
学習成果・ 到達目標・基準	○D: 身近な話題について書かれた英文を読み、その概要を理解することができる。 ◎E: 自分自身について、30語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習: 本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習: 語句や表現、文法を復習し、会話文やパッセージの音読を行う。(45分)

指導方法	身近な最近の話題に関する会話文や文章の読み、文中に出てきた重要な語句や表現、基本的な文法事項の確認を行う。また、学んだ語彙や表現を用いて実際に英文を書く訓練を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	New English Composition Workbook (『新・発信型英作文』), Kazuyo Murata and Mami Otani, 金星堂, 2020.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Freshman English Writing：Intermediate (U) 授業コード：2051

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
ナンバリング：E12A05	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Freshman English Writing: Basicで学んだ使えるための英語表現力をさらにアップするため、学生にとって身近なテーマに関する英文を読むことで、リスニング力からリーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。 （授業目標） ○D：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎E：一定のテーマについて、200語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1 The Piracy business (1) (Group discussion) Big labels small prices 2 The Piracy business (2) (Group discussion) Copy cats 3 Accessories of life (1) (Group discussion) Doing without 4 Accessories of life (2) (Group discussion) First generation gadgets 5 Fashion (1) (Group discussion) Fusion? Confusion! 6 Fashion (2) (Pair work) Splitting hairs 7 Reviews Unit 7 and 8 Possibility/necessity in the past, Used to 8 Cybernauts (1) (Group discussion) Virtual reality 9 Cybernauts (2) (Group discussion) A worldwide audience 10 Skincare (1) (Pair work) Marked for life 11 Skincare (2) (Group discussion) Are you metrosexual? 12 Reviews Unit 9 and 10 The infinitive or gerund, Future plans and predicitions 13 From cover to cover (1) (Group discussion) What's that you're reading? 14 From cover to cover (2) (Group discussion) A sudden death 15 Writing a final essay Write a final essay of at least 120 words
学習成果・ 到達目標・基準	○D：アメリカと日本の服装の違いについて英語で書くことができる。スキンケアの大切さについて理解し、自分の意見を書くことができる。 ◎E：一定のテーマについて、120語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時の指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べ、分からない点について、あらかじめまとめておくこと。（約40分）（約45分） 事後学習については単語の復習並びにFinal essayの準備をすること。（約60分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。その後、内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC (Reading Section) 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading 2, Jackie McAvoy　Macmillan Language House Everyday Vocabulary Quizzes、佐藤誠司　南雲堂
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroom　power point資料

講義科目名称： Freshman English Writing：Intermediate (S) 授業コード：2052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12A05	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is a follow from last semester for students to develop English proficiency, especially basic reading and writing skills. It will help students Improve their English vocabulary and reading comprehension by reading conversations and texts about recent topics that are familiar to students. In addition, it will help students learn important expressions used in various situations and acquire practical writing skills. (Goals) ○D: There will be activities on grammar, vocabulary, spelling, and editing ◎E: Students will be able to write a paragraph in about 150 words.
授業計画	1 Orientation Review of previously covered material Expectations of course 2 Unit 5 Careers of the Future (Pair Work) Focus on Reading Ask Danny: Advice for People Wanting to Work 3 Unit 5 Careers of the Future (Group Work) Focus on Reading Great Jobs for the Twenty-first Century 4 Unit 5 Careers of the Future (Discussion) Focus on Writing Jobs and Careers in the the United States (1900-2000) Future Time Clauses 5 Unit 6 What is Ecotourism? (Pair Work) Focus on Reading Tourists in a Fragile Land 6 Unit 6 What is Ecotourism? (Group Work) Focus on Reading A Travel Journal 7 Unit 6 What is Ecotourism? (Discussion) Focus on Writing An Opinion Essay "Because" and "Even Though" 8 Unit 7 Capital Punishment (Pair Work) Focus on Reading Fact Sheet 9 Unit 7 Capital Punishment (Group Work) Focus on Reading Charts: Global Facts About Capital Punishment 10 Unit 7 Capital Punishment (Discussion) Focus on Writing Why I Personally Oppose the Death Penalty Adverb Clauses of Concession 11 Unit 8 Is Our Climate Changing? (Pair Work) Focus on Reading Global Climate Change 12 Unit 8 Is Our Climate Changing? (Group Work) Focus on Reading Solving the Problems of Global Change 13 Unit 8 Is Our Climate Changing? (Discussion) Focus on Writing The Global Climate Coalition Future Modals 14 Review of Material Overall review of textbook material covered during the semester 15 Final Essay (Pairwork) Peer review
学習成果・ 到達目標・基準	The goals for the students are the same as in the first semester. ○D：To help learners improve their writing skills and to increase their vocabulary.

	◎Ｅ：Students will be able to write a paragraph in 90 words.
事前・事後学習	Students are expected to do approximately 45 min. preparation for class per week. They are also expected to do approximately 45 min. review of the lesson each week. This includes writing and revising ideas from class.
指導方法	Class instruction will be primarily done in English. Students will be expected to work in pairs or small groups as instructed. Although it is a reading/writing class, students will be expected to share their opinions about material. Students will participate actively in class and assist each other students when necessary. Students will be evaluated based on participation, assignments, and a final exam.
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：Participation, TOEIC ◎Ｅ：Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC (Reading Section) 20% Writing Assignment 15% Final Exam 30%
テキスト	North Star 3 Reading & Writing, Fifth Edition. Laurie Barton and Carolyn Dupaquier, Pearson, 2019.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice written communication in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. Discussion and role play. Peer review.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video use. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称： Freshman English Writing：Intermediate (T) 授業コード：2053

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Daniel Gill			
ナンバリング：E12A05	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is a follow on from last semester for students to develop and master academic writing skills.It is designed to help students form basic paragraphs.There will be activities and exercises on sentence structure, grammar, vocabulary, spelling and editing. The goals for A/S grade are the same as in the first semester. (Goals) ○Ｄ: There will be activities and exercises on grammar, vocabulary, spelling and editing. ◎Ｅ: Students can write an essay in about 100 words.
授業計画	1 Unit 7 The conjunction Vocabulary and spelling 2 Unit 7 Write about your schedule Peer editing 3 Unit 8 Articles: "a", "an", "the".... 4 Unit 8 Writing about food preparation 5 Unit 9 Prepositions Vocabulary and spelling 6 Unit 9 Writing about tourism in Tokyo 7 Unit 10 Using "and", "but" and "so" Vocabulary and spelling 8 Unit 10 Writing about a job or hobby Peer editing 9 Unit 11 Simple past tense 10 Unit 11 Writing about an important event in the past 11 Unit 12 Using "before", "after", "when", "if" Vocabulary and spelling 12 Unit 12 Writing about an important day in your life 13 Unit 13 Adverbs Vocabulary and spelling 14 Peer editing of written exercises 15 Free writing and Review of Semester 1
学習成果・ 到達目標・基準	The goals for the students are the same as in the first semester. ○Ｄ: To help advanced learners to improve writing skills and to increase their vocabulary. ◎Ｅ: Students can write an essay in about 60 words.
事前・事後学習	Students will be expected to do approximately 45 minutes per week preparation for the class. They are also expected to do approximately 45 minutes per week review of the lesson. This will include writing and rewriting ideas from the class.
指導方法	Lessons will be taught in English Only. Students will be expected to work in pairs or small groups accordingly. Although it is a writing class, students will be called upon to voice their opinions with regards to topics that are being written about. Students will take an active role in class, helping other students if possible. Students will receive a grade based on participation, writing

	assignments, attendance and a final exam.
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: Participation, Vocabulary Test ◎E: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC (Reading Section) 20% Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Great Writing Foundations. Keith S. Folse. Cengage.
参考書	Students will be expected to bring a English/Japanese dictionary to class. Proper notebook will be needed.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in class. Students should try to speak out and voice their opinion during the lessons. It is their opportunity to communicate with a native teacher, they should take advantage of it.
アクティブ・ラーニング	Pair work and small group work.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Freshman English Writing: Intermediate (R) 授業コード：2054

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E12A05	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎力を養うことを目的とする。身近な最近の話題についての会話文や文章を読み、英語の語彙力と読解力の向上を図る。また、様々な場面で使用される重要表現を学び、実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) ○D: まとまった内容の英文を読み、その内容に関する知識を深めることができる。 ◎E: 大学生にとって身近な話題について、70語程度の英語の文章を正確に書くことが出来る。
授業計画	1 前期の復習、Unit 11 Job-Hunting （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 前期に学んだ語彙や表現、文法を復習する。また、助動詞のcanとbe able toについて学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 2 Unit 12 Writing a Letter （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） to 不定詞について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 3 Unit 11 & 12 まとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 11と12の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 4 Unit 13 Giving Advice （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 助動詞（should/must/had better/might(may)/could(can)）について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 5 Unit 14 Invitation （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 助動詞wouldについて学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 6 Unit 13 & 14 まとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 13と14の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 7 Unit 15 Notice （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 使役について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 8 Unit 16 My History （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 完了形について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 9 Unit 15 & 16 まとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 15と16の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 10 Unit 17 Introducing Japanese Culture （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 関係代名詞について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 11 Unit 18 If I were... （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 仮定法について学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 12 Unit 17 & 18 まとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 17と18の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。 13 Unit 19 Expressing Your Opinion （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 節・間接疑問文について学ぶ。会文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 14 Unit 20 Directions （グループワーク: パッセージの内容をグループでまとめ発表） 接続詞/transitional adverbについて学ぶ。文章（会話）の内容理解、問題演習を通して文法知識の定着を図る。 15 Unit 19 & 20 まとめ （ペアワーク: お互いの英作文を添削する） Unit 19と20の語彙や表現、文法事項の確認を行う。また、学んだ文法知識を用いてエッセイを書き、ペアで添削する。
学習成果・ 到達目標・基準	○D: 身近な話題について書かれた英文を読み、その概要を理解することができる。 ◎E: 自分の身近な話題について、40語程度の英語の文章で書くことができる。
事前・事後学習	事前学習: 本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(45分) 事後学習: 語句や表現、文法を復習し、会話文やパッセージの音読を行う。(45分)
指導方法	身近な最近の話題に関する会話文や文章の読み、文中に出てきた重要な語句や表現、基本的な文法事項の確認

	を行う。また、学んだ語彙や表現を用いて実際に英文を書く訓練を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP (Reading Section) 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	New English Composition Workbook (『新・発信型英作文』), Kazuyo Murata and Mami Otani, 金星堂, 2020.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Sophomore English：Basic (U)　　授業コード：2061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E22A06	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	This course is to help EFL students communicate more fluently and confidently. It develops English language skills through the use of vocabulary, grammar, topics and images. Each unit includes an actual classroom activity. Goals for grade A/S include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) ◎B: This course is designed to help students improve their English language ability so they can communicate more confidently and fluently. ○E: At the end of the course, students will be able to make a presentation of about 320 words.
授業計画	1 Introduction to course Expectations and goals of course. 2 Unit 0. Welcome to English Firsthand 2 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Find someone who... 3 Unit 1. Have you two met? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Introductions and relationships. 4 Unit 1. Have you two met? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Exchange information about your hobbies and interests. 5 Unit 2. You must be excited (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Describe your feelings. 6 Unit 2. You must be excited (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask about your partner's feelings. Express empathy. 7 Unit 3. Where should I go? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talk about a trip. 8 Unit 3. Where should I go? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Make recommendations. 9 Unit 4. I love that (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Express agreement and disagreement. 10 Unit 4. I love that (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Share your opinions. Ask about your partner's opinions. 11 Unit 5. What's your excuse? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Make requests. 12 Unit 5. What's your excuse? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Make excuses. Accept and refuse offers. 13 Unit 6. What's it like there? (ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション) Talk about the symbols and traditions of your country. 14 Unit 6. What's it like there? (ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション) Ask about the symbols and traditions of your partner's country. 15 Review. Review of all material covered during the semester. Preparation for final exam.
学習成果・ 到達目標・基準	Goals for the students include participation in all class activities to the best of their ability, being able to demonstrate a basic level of understanding and language use; achieving a score of 60-70% in the final test. ◎B: Students will be able to study and practice useful vocabulary and grammar and learn how to use it to communicate effectively. ○E: Students can make a presentation in about 190 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of writing assignments and of new vocabulary.

指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There are speaking, listening, reading and writing elements in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation 〇Ｅ: Quizzes, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. Discussion and role play. Presentation. Peer review.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video use. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称： Sophomore English: Basic (S)　　授業コード：2062

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A06	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を再確認しながら、アウトプットに必要なスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきますが、スピーキングスキルを身につけ英語運用がスムーズにできるように毎回様々なトピックでスピーキング練習を行い、毎回の単語テストで単語力を身につけて行きます。また実社会に身近なトピックをもとに批判的思考力を身につけて行きます。英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身につけることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 〇E：リスニング力とスピーキング力を高めて、250 words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概略説明、スピーキングプラクティスについて 2　Unit 1: Business and Marketing - How important is it to keep up with current trends? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking, 3　Unit 1: Business and Marketing - How important is it to keep up with current trends? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening Skill 2 4　Unit 1: Business and Marketing - How important is it to keep up with current trends? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Work with the Video, Speaking Skill: Drawing attention to main ideas 5　Unit 2: Psychology - How can colors be useful? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking 6　Unit 2: Psychology - How can colors be useful? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening SKill 2 7　Unit 2: Psychology - How can colors be useful? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Work with the Video: Color Branding, Speaking Skill: Asking for and giving examples 8　Unit 3:Social Psychology - Why are social skills important? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking 9　Unit 3:Social Psychology - Why are social skills important? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening SKill 2 10　Unit 3:Social Psychology - Why are social skills important? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Work with the Video: Making Small Talk, Speaking Skill: Giving advice and making recommendations 11　Unit 4: Technology - How does technology affect our relationships? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking 12　Unit 4: Technology - How does technology affect our relationships? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening SKill 2 13　Unit 4: Technology - How does technology affect our relationships? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Work with the Video: Living in 1927,Speaking Skill: Using eye contact, facial expressions, and body language 14　Presentation 1 (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) Preparation for the presentation 15　Group Presentation 2 (プレゼンテーション) 各自で選んだトピックについてプレゼンテーションを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。

	○Ｅ：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、150words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のスピーキングプラクティス用の原稿の準備をする。（45分） 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習、単語テストの復習を実施するのでその準備を行う。（30分）
指導方法	英語で話すこと、聞くことに慣れるため、授業は原則英語で行います。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッション、グループワークを積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト　②授業後における質疑対応　③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Margaret Brooks: Q: Skills for Success Listening and Speaking 2 Third Edition　Oxford University Press 2020
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	必ず辞書を持参すること。(電子辞書あるいは本の辞書、出版年が古くても可) 毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。毎回のスピーキングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Powerpoint, Google Classroom　インターネットでの情報取得、動画の活用

講義科目名称： Sophomore English：Basic（T）　　授業コード：2063

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
玉川明日美			
ナンバリング：E22A06	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業では英語におけるコミュニケーションの力、特に話す・聴くことの基礎を学ぶ授業です。使用テキストにおける各UnitのConversation Focus（重要単語・熟語を含む短い会話文のリスニング、及び内容理解と会話練習）、Language Focus(会話で頻出する文法・構文の学習)、Talk Time（Unitのテーマに沿って、学習した会話表現を実践）に沿って授業を進めます。また、適宜、学習したテーマに関連するアクティビティを行い、より実践的に会話練習を行います。授業内ではペアワーク、ロールプレイ、スピーチを行います。また、習熟度を確認するため、毎回、提出課題と宿題を課します。 （授業目標） ◎Ｂ：会話の状況や対話する相手に応じて、敬意表現や専門的な語彙を混じえて適切な表現を選択しながら英語で会話できる。 ○Ｅ： 正確な英語の発音、イントネーションで150語程度の分量でスピーチができる。
授業計画	1　Introduction / Unit 1 Welcome to the Office（ペアワーク） 授業の内容、目標、授業形式の説明 Conversation Focus: テキストの会話文(初対面の相手との会話)をモデルに自己紹介(ペアワーク) 2　Unit1 Welcome to the Office（ペアワーク） Language Focus（予定の表現） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） 3　Unit2 What Time Do You Close? Conversation Focus / Language Focus（営業時間等の問い合わせへの電話対応） Language Focus（所在地や時間に関する表現、質問/応答の表現） 4　Unit2 What Time Do You Close?（ペアワーク） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） Extra Activity（Unit内で学習した表現を応用したグループアクティビティ） 5　Unit3 I’d Like to Change an Order Conversation Focus（取引先からの電話対応） Language Focus（丁寧表現：要望、依頼の表現） 6　Unit4 May I Take a Message?（ペアワーク） Conversation Focus（電話での伝言預かり） Language Focus（丁寧表現：申し出の表現） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） 7　Unit5 Shall I Ring That Up for You? Conversation Focus（店頭でのレジ(精算)対応、接客会話） Language Focus（形状や用途の説明に関する表現） 8　Unit5 Shall I Ring That Up for You?（ペアワーク） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） Extra Activity（Unit内で学習した表現を応用したグループアクティビティ） 9　Unit6 This Way, Please.（ペアワーク） Conversation Focus（来客対応、道案内や場所の紹介） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） 10　Unit7 I’d like to Make a Complaint Conversation Focus（クレームの表現、謝罪対応の表現） Language Focus （クレームの表現、仮定表現） 11　Unit7 I’d like to Make a Complaint（ペアワーク） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） Extra Activity（Unit内で学習した表現を応用したグループアクティビティ） 12　Unit8 Could You Fill in the Form? Conversation Focus（書類の内容の説明、順序立てた説明） Language Focus （命令・依頼表現、順序に関する表現） 13　Preparation for the Final Presentation 最終発表（ペアでの会話実演）に向けて、原稿の最終確認と修正、リハーサルを行う 14　Final Presentation①（ペアワークまたはグループワーク） テキストで学習したそれぞれのシチュエーションに合わせて会話を組み立て、ペア（あるいは少人数グループ）で発表を行う。 15　Final Presentation②（ペアワークまたはグループワーク） テキストで学習したそれぞれのシチュエーションに合わせて会話を組み立て、ペア（あるいは少人数グループ）で発表を行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｂ：会話の内容を聞き、大まかな内容や状況を把握できる。 ◎Ｂ：カジュアルな表現(友人や家族相手)と丁寧表現の違いを見分け、状況に合わせてどちらがふさわしいか自分で判断できる。 ○Ｅ：90語程度で正確な発音、イントネーションで自分の思ったことをスピーチできる。

事前・事後学習	事前学習: 次回の範囲を確認し、Conversation Focus(Activity1)やTalk Timeのモデル会話を読み、意味が分からない単語や表現があったら辞書で調べておく。(約60分) 事後学習: 復習用小テストの範囲を復習する。会話文中、重要構文の含まれている文章を読み聴きしてすぐに意味が把握できるようになるまで単語や構文を学習する。また、発音の改善のためにも必ず音読を行う。（約60分）
指導方法	習熟度を確認するため、授業中に行った学習内容、あるいはアクティビティに関連する課題提出があります。また、試験対策のリスニング問題に関する宿題を課します。課題、宿題に関しては、提出後に内容を確認した上でコメントを付して返却します。質問があった際には、個別での対応、あるいは、授業内で共有するべき事項には翌週の授業で回答します。（直接の提出、Google Classroom経由での提出でも同様）課題の達成度によっては再提出になる場合もあるので、しっかりと取り組むこと。 英語で話すことに慣れるため、授業中にはモデル会話で練習を行った後、応用した会話をペアワークやグループアクティビティで強化します。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度（ワークやアクティビティへの参加、ワークシート課題の提出）、最終発表、統一単語テスト 〇Ｅ：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Michael P. Critchley. Business Encounters. (南雲堂, 2013) 薮下知子、Ryan Smithers. Listening Upgrade for the TOEIC Test.(金星堂, 2018)
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	意味のわからない単語や表現に出会った際、すぐに調べられるように辞書を持参してください。 授業中の居眠りや不要な出入り、指示のしていない電子機器（スマホやタブレット等）の操作など、授業やペア・グループワークの妨げとなるよな行為があった際には減点対象とします。授業中は共に参加しているクラスメイトとのコミュニケーションを大切にしてください。 辞書機能やリサーチが必要なためスマホ等を使用したい場合、必ず、その都度講師に許可を得るようにしてください（必要性を判断した上で、指示します）。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク（ロールプレイ、タスク解決） ・グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Sophomore English：Basic (R)　　授業コード：2064

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E22A06	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語を使ってどのような行動がどの程度できるのかを常に意識しながら、英語を学習します。使用するテキストに掲載されている例文や練習問題は実生活を反映した対話や表現になっています。文法を正しく使ってスピーキングとリスニングの力を向上できるように授業を展開します。 英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身に着けることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、80words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit1: I'm an education major.(1)（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 場所を確認したり、自分の専攻について話す 2　Unit1: I'm an education major.(2)（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） 場所を確認したり、自分の専攻について話す 3　Unit2: She looks like your twin!（1）（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 人数を確認したり、友人について詳しく説明する 4　Unit2: She looks like your twin!（2）（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） 人数を確認したり、友人について詳しく説明する 5　Unit3: Have you ever been there?（1）（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） どのような場所かを詳しく説明したり、経験を尋ねる 6　Unit3: Have you ever been there?（2）（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） どのような場所かを詳しく説明したり、経験を尋ねる 7　Unit4: How was your weekend?（1）（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 週末や休暇の感想を尋ね、会話を広げる工夫をする 8　Unit4: How was your weekend?（2）（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） 週末や休暇の感想を尋ね、会話を広げる工夫をする 9　Unit5: I'd like the grilled salmon, please.（1）（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） レストランでの注文のやりとりをし、メニューについて質問する 10　Unit5: I'd like the grilled salmon, please.（2）（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） レストランでの注文のやりとりをし、メニューについて質問する 11　Unit6: Hiking is my favorite way to relax.（1）（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） 余暇に何をするかを尋ね、夢中になっているものについて語る 12　Unit6: Hiking is my favorite way to relax.（2）（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） 余暇に何をするかを尋ね、夢中になっているものについて語る 13　Unit7: Who's the guy sitting on that bench?（1）（ペアワーク：各ペアで会話を発表する） スポーツについての会話を行い、興味のあるスポーツについて話す 14　Unit7: Who's the guy sitting on that bench?（2）（Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る） スポーツについての会話を行い、興味のあるスポーツについて話す 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） これまで学習した文法や英文をもとにペアでの会話を発表する
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、過去形や現在形、未来形を使い分けてコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力とリスニング力を向上させてこれからの予定について50words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。単語や文法の予習をあらかじめ調べておくこと。（30分） 事後学習：リスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行うこと。Google Classroomを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。（60分）
指導方法	スピーキング力とリスニング力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語の小テストをします。英語を話すことに慣れる

	ためにペアワークやグループワークを使用した発表も行います。授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施（Google Classroom）　②授業後における質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Shigeyo Yamamoto, et al. Taking Action: Communication with Fluency and Accuracy (Kinsei-do, 2018) 桐原書店編集部編、HyperListening 10-minute English Listening Training Pre-Intermediate（桐原書店、2016）
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Sophomore English：Intermediate (U)　　授業コード：2071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E22A07	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	The aim of this course is to help improve EFL students communication and confidence. This course builds on the work done in the first semester. Goals for grade A/S include active participation in all class activities and demonstrating a high level of understanding and use of target language. Students will need to gain a top 10% score in the final test. (Goals) ◎B：Each lesson will cover a different topic that provides context for learning about the English language and other cultures. ○E：Students can make a presentation in about 450 words.
授業計画	1 Introduction to course Reintroduction to course Review of expectations and goals 2 Unit 7. Do you remember when? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Talk about your past experiences. 3 Unit 7. Do you remember when? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask about your partner's past experiences. 4 Unit 8. Let's have a get-together (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Make plans with a partner. 5 Unit 8. Let's have a get-together (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Discuss having get-together in different cultures. 6 Unit 9. What should I do? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Give advice to your partner. 7 Unit 9. What should I do? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask your partner for advice. 8 Unit 10. Tell me a story! (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Tell your partner a story. 9 Unit 10. Tell me a story! (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Ask questions about your partner's story. Discuss your dreams. 10 Unit 11. In my opinion (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) State your opinion. 11 Unit 11. In my opinion (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Agree or disagree with your partner's opinion. Discuss a controversial issue. 12 Unit 12. It's my dream (ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション) Talk about your future goals and plans. 13 Unit 12. It's my dream (ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション) Ask your partner about her goals and plans for the future. 14 Rehearsal and speaking tests 1 Rehearsing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor. 15 Rehearsal and speaking tests 2 Rehearsing for the speaking test in pairs, followed by timed speaking tests assessed by the instructor.
学習成果・ 到達目標・基準	The expectations for the students will be the same as in the first semester. ◎B：Lessons cover different topics that provide context for learning about language and culture. ○E：Students can make a presentation in about 270 words.
事前・事後学習	Some exercises from the text will be set as homework to do before class. (30 mins) After class, students will be expected to review the key language and grammar at the end of each unit in preparation for unit quizzes (60 mins). Students will also be expected to keep records of writing assignments and of new vocabulary.
指導方法	All students receive ongoing personal feedback in class about participation. Students will check, mark and receive scores of all their work in class. Written assignments will be collected, edited

	and returned with grade and comment. Lessons are taught mainly in English. Students are expected to work in pairs and small groups. Each unit in the text will be covered in two lessons. There is a speaking, listening, reading and writing element in each lesson. Fun tasks and activities will provide students the chance to practice the target language in pairs/groups in class.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Participation, Vocabulary Test, Presentation 〇Ｅ：Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC (Listening Section) 20% Presentation 15% Final Exam 30%
テキスト	English Firsthand 2, Fifth Edition. M. Helgesen, J. Wiltshier, S. Brown. Pearson, 2018.
参考書	Instructions will be given in class.
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and be prepared to work in pairs and small groups. Students are expected to do their best without being shy. Students should enjoy the chance to practice communicating in English.
アクティブ・ラーニング	Group work, pair work. Discussion and role play. Presentation. Peer review.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video use. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称： Sophomore English: Intermediate (S)　　授業コード：2072

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A07	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語でのアウトプットのために必要な重要文法事項を確認しながら、アウトプットに必要なスピーキングとリスニングの練習を繰り返していきますが、スピーキングスキルを身につけ英語運用がスムーズにできるように毎回様々なトピックでスピーキング練習を行い、毎回の単語テストで単語力を身につけて行きます。また実社会に身近なトピックをもとに批判的思考力を身につけて行きます。英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身につけることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、スムーズな意思疎通を図ることができる。 〇E：リスニング力とスピーキング力を高めて、350 words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit 5 Sociology - What does it mean to be part of a family? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking, 2　Unit 5 Sociology - What does it mean to be part of a family? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening Skill 2 3　Unit 5 Sociology - What does it mean to be part of a family? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Work with the Video: Nadiya's Family Speaking Skill: Expressing Opinions 4　Unit 6: Behavioral Science - How can playing games be good for you? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking, 5　Unit 6: Behavioral Science- How can playing games be good for you? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening Skill 2 6　Unit 6: Behavioral Science- How can playing games be good for you? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Work with Video: Is Gaming the Future Education?, Speaking Skill: Giving Instructions 7　Unit 7: Environmental Science - How do people survive in extreme environments? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking, 8　Unit 7: Environmental Science - How do people survive in extreme environments? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening Skill 2 9　Unit 7: Environmental Science - How do people survive in extreme environments? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Speaking Skill :Summarizing 10　Unit 8: Public Health - How important is cleanliness? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Listening 1, Critical Thinking, 11　Unit 8: Public Health - How important is cleanliness? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Say What You Think, Listening Skill 2 12　Unit 8: Public Health - How important is cleanliness? (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Speaking Skill: Expressing emotion 13　Discussion and Presentation 1 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Getting ready for the final presentation 14　Discussion and Presentation 2 (ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション) Getting ready for the final presentation 15　Final Presentation (プレゼンテーション) 全員一人ずつプレゼンテーションを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、英語で自己紹介など簡単なコミュニケーションをとることができる。 〇E：スピーキング力を向上させて疑問詞を使用した質問文を使うことができ、210words程度の分量で自分の

	意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のスピーキングプラクティス用の原稿の準備をする。（45分） 事後学習：授業内で行ったリスニングの復習、単語テストの復習を実施するのでその準備を行う。（30分）
指導方法	英語で話すこと、聞くことに慣れるため、授業は原則英語で行います。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。英語を話すことに慣れるためにプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッション、グループワークを積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト　②授業後における質疑対応　③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 〇Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP （リスニングセクション） 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Margaret Brooks Q: Skills for Success Listening and Speaking 2 Third Edition　Oxford University Press 2020
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	必ず辞書を持参してください。(電子辞書あるいは本の辞書、出版年が古くても可) 毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。毎回のスピーキングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション、グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用 Zoom, Powerpoint, GoogleClassroomなど

講義科目名称： Sophomore English：Intermediate（T）　　授業コード：2073

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
玉川明日美			
ナンバリング：E22A07	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	前期に引き続き、英語におけるコミュニケーションの力、特に話す・聴くことの基礎を強化します。使用テキストにおける各UnitのConversation Focus（重要単語・熟語を含む短い会話文のリスニング、及び内容理解と会話練習）、Language Focus(会話で頻出する文法・構文の学習)、Talk Time（Unitのテーマに沿って、学習した会話表現を実践）に沿って授業を進めます。また、適宜、学習したテーマに関連するアクティビティを行い、より実践的に会話練習を行います。授業内ではペアワーク、ロールプレイ、プレゼンを行います。また、習熟度を確認するため、毎回、提出課題と宿題を課します。 （授業目標） ◎Ｂ： 会話の状況や対話する相手に応じて適切な表現を選択しながら英語で会話できる。 ○Ｅ：正確な英語の発音、イントネーションで200語程度の分量でスピーチができる。
授業計画	1　Introduction / Unit9 Welcome to the Japan！ 授業の内容、目標、授業形式の説明 Conversation Focus（海外からのゲストを出迎える） 2　Unit9 Welcome to Japan！ Language Focus（必要/不要の表現、所在の表現） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） 3　Unit10 What’s Your Background? Conversation Focus（経歴、経験についての会話） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） Extra Activity（Unit内で学習した表現を応用したグループアクティビティ） 4　Unit11 Here’s Your Schedule Conversation Focus（スケジュールに関する会話） Language Focus（時系列順に説明する表現） Talk Time （学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） 5　Unit12 I’ll See You Tomorrow Conversation Focus（別れの挨拶、面会の約束についての会話） Language Focus（招待の表現、断りの表現） 6　Unit13 Welcome to the Presentation Conversation Focus（新商品企画に関するプレゼンテーション） Language Focus（条件表現） 7　Unit13 Welcome to the Presentation Talk Time（モデル文を使用したショートプレゼンテーションの練習(グループワーク)） ※最終グループプレゼンの概要、今後のプロジェクトの進行についての説明 8　Unit14 Would You Use This Product? Conversation Focus（新商品サンプルに関するアンケート、街頭インタビュー） Language Focus（仮定表現） 9　Unit14 Would You Use This Product? Talk Time（学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） Group Activity（リサーチ結果についてディスカッション） 10　Unit15 I Think People Will Love This! Conversation Focus（商品の改善、問題解決のためのディスカッション） Language Focus（提案、譲歩の表現） 11　Unit15 I Think People Will Love This! Talk Time（学習した会話表現を使用し、ロールプレイ（ペアワーク）） Group Activity（グループ内発表、改善点のディスカッション） 12　Unit16 Our Social Media Strategy Conversation Focus（SNSを使用した宣伝戦略に関するディスカッション） Language Focus（SNSへの投稿を想定した説明表現） 13　Preparation for the Final Presentation 最終プレゼン（グループプレゼン）の原稿の最終確認、プレゼンで使用する視覚資料（パワーポイントを使用したスライド等)の編集 14　Final Presentation① ベストセラー商品/イベントに関するグループプレゼン 15　Final Presentation② ベストセラー商品/イベントに関するグループプレゼン
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｂ：会話の内容を聞き、大まかな内容や状況を把握できる。 ◎Ｂ：カジュアルな表現(友人や家族相手)と丁寧表現の違いを見分け、状況に合わせてどちらがふさわしいか自分で判断できる。 ○Ｅ：120語程度で正確な発音、イントネーションで自分の思ったことをスピーチできる。

事前・事後学習	事前学習: 次回の範囲を確認し、Conversation Focus(Activity1)やTalk Timeのモデル会話を読み、意味が分からない単語や表現があったら辞書で調べておく。(約60分) 事後学習: 復習用小テストの範囲を復習する。会話文中、重要構文の含まれている文章を読み聴きしてすぐに意味が把握できるようになるまで単語や構文を学習する。また、発音の改善のためにも必ず音読を行う。（約60分）
指導方法	習熟度を確認するため、授業中に行った学習内容、あるいはアクティビティに関連する課題提出があります。また、試験対策のリスニング問題に関する宿題を課します。課題、宿題に関しては、提出後に内容を確認した上でコメントを付して返却します。質問があった際には、個別での対応、あるいは、授業内で共有するべき事項には翌週の授業で回答します。（直接の提出、Google Classroom経由での提出でも同様）課題の達成度によっては再提出になる場合もあるので、しっかりと取り組むこと。 英語で話すことに慣れるため、授業中にはモデル会話で練習を行った後、応用した会話をペアワークやグループアクティビティで実践して表現力を強化します。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度（ワークやアクティビティへの参加、グループプレゼンテーションの作業に伴う課題と発表、ワークシート課題の提出）、TOEIC成績で評価します。 〇Ｅ：小テスト・定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC (Listening Section) 20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Michael P. Critchley. Business Encounters. (南雲堂, 2013) 薮下知子、Ryan Smithers. Listening Upgrade for the TOEIC Test.(金星堂, 2018)
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	意味のわからない単語や表現に出会った際、すぐに調べられるように辞書を持参してください。 授業中の居眠りや不要な出入り、指示のしていない電子機器（スマホやタブレット等）の操作など、授業やペア・グループワークの妨げとなるよな行為があった際には減点対象とします。授業中は共に参加しているクラスメイトとのコミュニケーションを大切にしてください。 辞書機能やリサーチが必要なためスマホ等を使用したい場合、必ず、その都度講師に許可を得るようにしてください（必要性を判断した上で、指示します）。
アクティブ・ラーニング	・ペアワーク（ロールプレイ、タスク解決） ・グループディスカッション ・グループプレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Sophomore English：Intermediate (R)　　授業コード：2074

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E22A07	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語を使ってどのような行動がどの程度できるのかを常に意識しながら、英語を学習します。使用するテキストに掲載されている例文や練習問題は実生活を反映した対話や表現になっています。文法を正しく使ってスピーキングとリスニングの力を向上できるように授業を展開します。 英語でのコミュニケーションのために正確な英語を身に着けることを目標とします。 (授業目標) ◎B：英語でのコミュニケーション力を高めて、積極的に英語を運用し、意思疎通を図ることができる。 ○E：リスニング力とスピーキング力を高めて、100words程度の正確な英語を話すことができる。
授業計画	1　Unit8: You should go back to your dorm and rest. (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 相手の様子をみて体調を尋ね、～したほうがいいと助言する 2　Unit8: You should go back to your dorm and rest. (2) (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) 相手の様子をみて体調を尋ね、～したほうがいいと助言する 3　Unit9: I was caught in a traffic jam. (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 交通手段について話し、交通の状況について説明する 4　Unit9: I was caught in a traffic jam. (2) (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) 交通手段について話し、交通の状況について説明する 5　Unit10: It's about seven minutes by bike. (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 自分の住まいについて説明し、住まいの環境を説明する 6　Unit10: It's about seven minutes by bike. (2) (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) 自分の住まいについて説明し、住まいの環境を説明する 7　Unit11: What are you going to do? (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 休暇の過ごし方を尋ね、会話を展開する 8　Unit11: What are you going to do? (2) (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) 休暇の過ごし方を尋ね、会話を展開する 9　Unit12: What's the most interesting place to visit? (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) おすすめの場所や行き方について尋ね、行先を検討する 10　Unit12: What's the most interesting place to visit? (2) (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) おすすめの場所や行き方について尋ね、行先を検討する 11　Unit13: I'm looking for a suit that looks good. (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) 店で店員に探している商品を伝え、商品を手に取って会話を広げる工夫をする 12　Preparation for TOEIC IP Review TOEIC Listening & Reading Sections 13　Unit14: I want to work for a company where... (1) (ペアワーク：各ペアで会話を発表する) これからの仕事内容や職場の様子について話す 14　Unit14: I want to work for a company where... (2) (Google Classroom:小テストで前回授業の理解度を測る) これからの仕事内容や職場の様子について話す 15　Final Presentation (プレゼンテーション：全員が必ず発表する) これまで学習した文法や英文をもとにペアでの会話を発表する
学習成果・ 到達目標・基準	◎B：英語コミュニケーション力を高め、過去形や現在形、未来形を使い分けてコミュニケーションをとることができる。 ○E：スピーキング力とリスニング力を向上させてこれからの予定について60words程度の分量で自分の意見を話すことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。単語や文法の予習をあらかじめ調べておくこと。 (30分) 事後学習：リスニングの復習並びにプレゼンテーションの準備を行うこと。Google Classroomを使用して、小テストを実施するのでその準備を行う。 (60分)

指導方法	スピーキング力とリスニング力をバランスよくつけるために教科書を2冊毎回使用します。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語の小テストをします。英語を話すことに慣れるためにペアワークやグループワークを使用した発表も行います。授業課題のフィードバックの方法：①小テストの実施（Google Classroom）　②授業後における質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ○Ｅ：小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP（リスニングセクション）20% プレゼンテーション 15% 定期試験 30%
テキスト	Shigeyo Yamamoto, et al. Taking Action: Communication with Fluency and Accuracy (Kinsei-do, 2017) 桐原書店編集部編、HyperListening 10-minute English Listening Training Pre-Intermediate（桐原書店、2016）
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Sophomore English Writing：Basic (U)　　授業コード：2081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
ナンバリング：E22A08	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	使えるための英語表現力を身につけられるよう、学生が興味を持ちそうなテーマについての英文を読むことで、リーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。 （授業目標） ○Ｄ：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎Ｅ：授業で学んだテーマについて、320語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1　Orientation Self Introduction 2　Personality (1)　(Pair work) Is it in your blood? 3　Personality (2)　(Group discussion) Horoscopes 4　Punishment (1)　(Pair work) An unpunished crime 5　Punishment (2)　(Group discussion) The Death of Ikemefuna 6　Reviews on Unit 1 Articles 7　Reviews on Unit 2 Present simple questions 8　Extensive reading (1)　(Pair work) Simply read 9　Extensive reading (2)　(Group discussion) What is extensive reading? 10　Money (1) (Pair work) The good life? 11　Money (2)　(Group discussion) Money matters 12　Reviews Unit 3 Present simple and present progressive 13　Reviews Unit 4 Adverbs of frequency 14　Love　(Group discussion) The six styles of love 15　Writing a final essay Write a final essay of at least 190 words
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：少なくとも、自分の血液型や星座の特性について英語で書くことができる。テキストを通して、「罰」には効果的な罰とそうではない罰があることを理解する。 ◎Ｅ：授業で学んだテーマについて、190語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べ、分からない点について、あらかじめまとめておくこと。（約45分） 事後学習については単語の復習並びにFinal essayの準備をすること。（約50分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。内容把握のための練習問題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント

アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E：ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading Second Edition Level 3, Series Editor Scott Miles, Macmillan Language House
参考書	授業の時に指示する。
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroom　power point資料

講義科目名称： Sophomore English Writing：Basic (S)　　授業コード：2082

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
Daniel Gill			
ナンバリング：E22A08	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is designed for students who have some knowledge of written and spoken English. It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. The requirements for students to achieve A/S grade include active participation in all class activities and being able to demonstrate a high level of understanding through written work. Students will score in the top 10% of the class in the final test. (Goals) 〇Ｄ:It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 250 words.
授業計画	1　Unit 1 - Sentence Basics Elements of Great Writing What Is a Sentence? Avoiding Fragments 2　Unit 1 - Sentences with the Verb "Be" Grammar: Expressing Place and Time Grammar: There Is/There Are + Prepositional Phrase 3　Unit 1 - Beginning and Ending a Sentence Mechanics: Using Capital Letters with Proper Nouns Building Better Vocabulary Building Better Sentences 4　Unit 2 - Paragraph Basics Elements of Great Writing What Is a Paragraph? Mechanics: The Title of a Paragraph 5　Unit 2 - Parts of a Paragraph Parts of a Paragraph: The Topic Sentence Parts of a Paragraph: Supporting Sentences Grammar: Adjective + Noun Grammar: Linking Verb + Adjective Sequence Words and Phrases 6　Unit 2 - Grammar Grammar: Subject and Object Pronouns Grammar: Possessive Adjectives Parts of a Paragraph: The Concluding Sentence Building Better Vocabulary Building Better Sentences 7　Review Units 1 and 2 8　Unit 3 - Writing about the Present Elements of Great Writing Using the Simple Present Grammar: The Simple Present Affirmative 9　Unit 3 -Grammar Grammar: The Simple Present Negative Grammar: Simple and Compound Sentences 10　Unit 3 - Grammar Grammar: Using A and An or Ø Grammar: Using The Building Better Vocabulary Building Better Sentences 11　Unit 4 - Writing about the Past Elements of Great Writing 12　Unit 4 - Using the Simple Past Grammar: The Simple Past Affirmative 13　Unit 4 - Grammar Grammar: Past Time Words and Phrases Grammar: The Simple Past Negative Grammar: Adverbs of Manner 14　Unit 4 - Grammar

	Grammar: Complex Sentences with Time Clauses Building Better Vocabulary Building Better Sentences 15 Review Units 3 and 4
学習成果・ 到達目標・基準	The students need to participate in all class activities to the best of their ability and demonstrate a basic level of understanding in their written work. Students must score 60-70% in their final test. 〇D:You will increase your vocabulary and practice writing using grammar and vocabulary learnt. ◎E:Students can write an essay in about 150 words.
事前・事後学習	Students will be expected to do approximately 45 minutes per week of preparation of the class. Students will be also expected to do approximately 45 minutes per week review of the lesson. This will include writing and rewriting ideas from class.
指導方法	Lessons will be taught in English Only. Students will be expected to work in pairs or small groups accordingly. Although it is a writing class, students will be called upon to voice their opinions with regards to topics that are being written about. Students will take an active role in class, helping other students if possible. Students will receive a grade based on participation, writing assignments, attendance and a final exam.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	〇D: Participation, Vocabulary Test ◎E: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% Vocabulary Test 20% Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Great Writing 1: Great Sentences for Great Paragraphs 5th edition. Keith S. Folse, Cengage
参考書	Students will be expected to bring a English/Japanese dictionary to class. Proper notebook will be needed.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in class. Students should try to speak out and voice their opinion during the lessons. It is their opportunity to communicate with a native teacher, they should take advantage of it.
アクティブ・ラーニング	Work in pairs or small groups
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Sophomore English Writing: Basic (T)　　授業コード：2083

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A08	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業は英語でのコミュニケーション力、特に読むことと書くことの基礎を学ぶ授業です。たくさん読むことで文章に慣れ、書く練習をして行きます。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生に身近なテーマで批判的思考力を身につけながら読む力、書く力を養って行きます。また毎回の単語テストで単語力を身につけて行きます。 (授業目標) ○Ｄ：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。 ◎Ｅ：日常的なトピックについて150words程度の文章を書くことができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概略説明、ライティングプラクティスについて 2　Unit 1:The Sentence and the Paragraph（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Stimulating Ideas 3　Unit 1:The Sentence and the Paragraph（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Developing a Paragraph 4　Unit 1:The Sentence and the Paragraph（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Unity and Coherence 5　Unit 1:The Sentence and the Paragraph（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Editing/Timed Writing 6　Unit 2: Descriptive Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Stimulating Ideas 7　Unit 2: Descriptive Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Brainstorming and Outlining 8　Unit 2: Descriptive Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Developing Your Ideas Editing/Stimulating Ideas 9　Unit 2: Descriptive Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Editing/ Timed Writing 10　Unit 3:Example Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Stimulating Ideas 11　Unit 3:Example Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Brainstorming and Outlining 12　Unit 3:Example Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Developing Your Ideas 13　Unit 3:Example Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Editing/Timed Writing 14　Reading and Writing Workshop 1（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Book Report 15　Reading and Writing Workshop 2（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Book Report
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：日常的な場面、身近なテーマで使用する基本的な単語やフレーズ、慣用表現をを理解することができる。 ◎Ｅ：日常的なトピックについて90words程度の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のライティングプラクティス用の原稿の準備をする。（45分） 事後学習：授業内で行ったリーディングの復習、単語テストやフレーズの復習を実施するのでその準備を行う。（30分）
指導方法	英語で読むこと、書くことに慣れるため、たくさん読んでたくさん書くことをします。授業は原則英語で行いますが、時に日本語でも指導をします。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。また重要文法事項も復習して行きます。ディスカッション、グループワークを

	積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト　②授業後における質疑対応　③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。④ライティングの課題
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ◎Ｅ：ライティング課題、小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Effective Academic Writing. Alice Savage, Masoud Shafiei, Second Edition, Oxford University Press, 2012
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。毎回のライティングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom、 インターネットでの情報取得、動画の活用。

講義科目名称： Sophomore English Writing：Basic (R)　　授業コード：2084

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E22A08	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎を強固にすることを目的とする。Model Emailとその返信を教材とし、英語の語彙力と読解力の向上を図る。また各々の場面で頻繁に使用される重要表現を学び、実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) ○D：様々な状況の英語のメールを読み、その内容を正確に理解することができる。 ◎E：授業で学んだ語彙や表現を使って、80語程度の英文で自分の意図を明確に表現することができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方とテキストの説明を行う。 2　Unit 1 Let me introduce myself（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 初めての相手へのメールとその返信を読む。主語や目的語を意識して英文を読む訓練をする。 3　Unit 2 Would you do me a favor?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 留学生からのお願いのメールとその返信を読む。依頼表現を学ぶ。 4　Unit 3 Please give me some advice（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 旅行についてのアドバイスを求めるメールとその返信を読む。アドバイスを求めるときの表現を学ぶ。 5　Unit 4 How about going to the museum?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 旅行を計画中の友人へのアドバイスをするメールとその返信を読む。アドバイスや提案をするときの表現を学ぶ。 6　Unit 5 Let's decide when to meet（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） テニスサークル仲間に送ったメールとその返信を読む。約束の日を決めるやり取りに使われる表現を学ぶ。 7　Unit 6 I have to apologize to you（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 友人の自転車をパンクさせてしまった男性のメールとその返信を読む。謝罪の表現を学ぶ。 8　Unit 1-6のまとめ（ペアワーク：お互いの英作文を添削する） Unit 1-6で学んだ表現の確認を行ったうえ、扱ったトピックからひとつ選んでメールを書く。 9　Unit 7 Room for two?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 海外のホテルへの問い合わせのメールとその返信を読む。様々な日にちの表し方について学ぶ。 10　Unit 8 I have a problem（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） インターネットで買い物した女性の苦情のメールとその返信を読む。苦情を伝える際の表現やhaveの意味の広さについて学ぶ。 11　Unit 9 We would like top invite you to a party（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 友人にパーティへ招待するメールとその返信を読む。招待する際の表現やcomeとgoの使い分けについて学ぶ。 12　Unit 10 How to get to his place?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 道案内をするメールとその返信を読む。場所を説明する表現や感覚動詞について学ぶ。 13　Unit 11 This is just a reminder（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 大切な約束を相手が忘れないように知らせるメールとその返信を読む。リマインダーの表現や注意すべき否定に関して学ぶ。 14　Unit 12 Thank you for the invitation, but...（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） お誘いに対する断りのメールとその返信を読む。相手に事情を説明する際の表現を学ぶ。 15　Unit 7-12のまとめ（ペアワーク：お互いの英作文を添削する） Unit 7-12で学んだ表現の確認を行ったうえ、扱ったトピックからひとつ選んでメールを書く。
学習成果・ 到達目標・基準	○D：英語で書かれた謝罪や苦情のメールの内容を理解することができる。 ◎E：依頼や予約をする際のメール文章を50語程度の英語で書くことができる。

事前・事後学習	事前学習: 本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(60分) 事後学習: 語句や表現、文法を復習し、本文の音読を行う。(60分)
指導方法	テキストのModel Mailとその返信を精読し、その場面で頻繁に使用される重要表現を学ぶ。また語彙や文法事項の確認も行う。最後に学んだ語彙や表現を元に実際にメールを書いてみる。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度と統一単語テストの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% 統一単語テスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Write Me Back Soon!, Keiko Naruoka et al., 金星堂, 2013.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Sophomore English Writing：Intermediate (U)　　授業コード：2091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
佐藤美保			
ナンバリング：E22A09	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	Sophomore English Writing：Basicで学んだ使えるための英語表現力をさらにアップできるよう、学生が興味を持ちそうなテーマについての英文を読むことで、リーディング力、およびライティング力を学習できる授業構成となっている。また、単語テストを毎回行うことで単語力アップを図る。 (授業目標) ○Ｄ：日本人と外国人との国の違いによって生じる意見の相違を学び、異文化理解を深める。一定のテーマについての知識を深める。 ◎Ｅ：授業で学んだテーマについて450語程度の英語の文章を書くことができる。
授業計画	1 The Internet (1) (Pair work) Is Netspeak harming the English language? 2 The Internet (2) (Group discussion) Formal request email etiquette Group work 3 Language (1) (Pair work) Is younger always better? Group discussion 4 Language (2) (Group discussion) Language and the world Group work 5 Populations in peril (1) (Pair work) Endangered populations Group discussion 6 Populations in peril (2) (Group discussion) A happy, married life? Pair work 7 Reviews on Unit 7 Grammar: The...the... 8 Review on Unit 8 Present simple and present perfect 9 West meets East (1) (Pair work) It's all about glocal! Group discussion 10 West meets East (2) (Group discussion) Expat in Asia Group work 11 Review on Unit 10 Grammar: Exemplification 12 Media (1) (Pair work) Consumer beware: advertising techniques Group discussion 13 Media (2) (Group discussion) Images of Asian in Hollywood Pair work 14 Success (Pair work) For an effective interview Group work 15 Writing a final essay Write a final essay of at least 270 words
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：Netspeakやアジアの文化について、説明する文章を英語で書くことできる。 ◎Ｅ：一定のテーマについて、270語程度の英語の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前の学習については授業時に出された指示に従い行うこと、翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べ、分からない点について、あらかじめまとめておくこと。（約45分） 事後学習については単語の復習並びにFinal essayの準備をすること。（約50分）
指導方法	まず各課に出てくる重要単語を学び、話題への理解と単語力の強化を目指す。その後、実際のテキストを英文和訳にこだわらず、大切な情報を迅速に読み取り、要点を要約できるよう指導する。内容把握のための練習問

	題を解き、ライティングの練習や基本的な文法事項を確認することで、英語力、単語力、読解力、そして思考力を身につけられるような授業を行う。 フィードバックの方法: ①小テストの実施とその結果についてのコメント・質疑対応②ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC (Reading Section) 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Essential Reading Second Edition Level 3, Series Editor Scott Miles, Macmillan Language House
参考書	授業の時で指示する。
履修上の注意	毎週予習として単語テストの準備をし、それを踏まえて分からない箇所に関しては授業の際に必ず質問するなど、積極的に授業に参加すること。また、復習として確認テストをすること。毎回授業には必ず辞書を持参すること。なお、プリントを使用しての授業も行うので、休んだ場合は、プリントを使用したかどうか必ず確認すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Sophomore English Writing：Intermediate (S)　　授業コード：2092

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
Daniel Gill			
ナンバリング：E22A09	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is for students who have some knowledge of written and spoken English.It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. The goals for grade A/S students remain the same as in Sophomore English Writing: Basic. (Goals) 〇Ｄ:It will acquaint students with the basic skills required for good writing and help them become confident writers in English. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 350 words.
授業計画	1 Unit 5 - Writing about the Future Elements of Great Writing Using Be Going to and Will Grammar: Be going to Grammar: Will 2 Unit 5 - Grammar Grammar: Future Time Expressions Grammar: Complex Sentences about the Future Grammar: If Clauses Grammar: Reason Clauses 3 Unit 5 - Building Better Vocabulary Building Better Sentences Writing Editing 4 Unit 6 - Sentence Variety Elements of Great Writing The Importance of Sentence Variety Grammar: Adjective Clauses 5 Unit 6 - Grammar Grammar: Subject Adjective Clauses Grammar: Object Adjective Clauses Grammar: Using Modals to Add Meaning 6 Unit 6 - Building Better Vocabulary Building Better Sentences Writing Editing 7 Review Units 5 and 6 8 Unit 7 - Reader Response Elements of Great Writing Listing 9 Unit 7 - Responding to Ideas Grammar: Opinion Verbs + That Clauses 10 Unit 7 - Building Better Vocabulary Building Better Sentences Writing Editing 11 Unit 8 - Putting It Together Elements of Great Writing Reviewing Paragraph Basics 12 Unit 8 - Building Better Vocabulary Building Better Sentences Writing Editing 13 Unit 7 and 8 review 14 Additional Topics for Writing Writer’s Handbook 15 Course review, final assignment preparation

学習成果・ 到達目標・基準	The goals and requirements for the students remain the same as in the first semester of this course. 〇Ｄ:You will increase your vocabulary and practice writing using grammar and vocabulary learnt. ◎Ｅ:Students can write an essay in about 210 words.
事前・事後学習	Students will be expected to do approximately 45 minutes per week of preparation of the class. Students will be also expected to do approximately 45 minutes per week review of the lesson. This will include writing and rewriting ideas from class.
指導方法	Lessons will be taught in English Only. Students will be expected to work in pairs or small groups accordingly. Although it is a writing class, students will be called upon to voice their opinions with regards to topics that are being written about. Students will take an active role in class, helping other students if possible. Students will receive a grade based on participation, writing assignments, attendance and a final exam.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	〇Ｄ: Participation, Vocabulary Test ◎Ｅ: Essay Writing, Quiz, Final Exam Participation 20% Quiz 15% TOEIC(Reading Section) 20% Essay Writing 15% Final Exam 30%
テキスト	Great Writing 1: Great Sentences for Great Paragraphs 5th edition. Keith S. Folse, Cengage
参考書	Students will be expected to bring a English/Japanese dictionary to class. Proper notebook will be needed. Students are expected to actively participate in class. Students should try to speak out and voice their opinion during the lessons. It is their opportunity to communicate with a native teacher, they should take advantage of it.
履修上の注意	Students are expected to actively participate in class. Students should try to speak out and voice their opinion during the lessons. It is their opportunity to communicate with a native teacher, they should take advantage of it.
アクティブ・ラーニング	Work in pairs or small groups
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： Sophomore English Writing: Intermediate (T)　　授業コード：2093

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E22A09	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業は英語でのコミュニケーション力、特に読むことと書くことの基礎を学ぶ授業です。たくさん読むことで文章に慣れ、書く練習をして行きます。実際に使える英語表現力を身につけられるよう、学生に身近なテーマで批判的思考力を身につけながら読む力、書く力を養って行きます。いくつかのライティングのテキストスタイルも学びます。また毎回の単語テストで単語力を身につけて行きます。 (授業目標) ○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する重要な単語やフレーズ、慣用表現を網羅的に習得することができる。 ◎E：日常的なトピックについて200words程度の文章を書くことができる。
授業計画	1　Unit 4:Process Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Stimulating Ideas 2　Unit 4:Process Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Brainstorming and Outlining 3　Unit 4:Process Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Developing Your Ideas 4　Unit 4:Process Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Editing/Time Writing 5　Unit 5: Narrative Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Stimulating Ideas 6　Unit 5: Narrative Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Brainstorming and Outlining 7　Unit 5: Narrative Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Developing Your Ideas 8　Unit 5: Narrative Paragraphs（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Editing/Time Writing 9　Unit 6: Urban Studies（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Stimulating Ideas 10　Unit 6: Urban Studies（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Brainstorming and Outlining 11　Unit 6: Urban Studies（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Developing Your Ideas 12　Unit 6: Urban Studies（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Editing/Time Writing 13　Reading and Writing Workship 1（ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション） Writing: Summarizing 14　Reading and Writing Workshop 2（グループワーク、ディスカッション） Writing: Lunch Box Activity 15　Reading and Writing Workshop 3 Writing and Sharing: Lunch Box Activity
学習成果・ 到達目標・基準	○D：日常的な場面、身近なテーマで使用する基本的な単語やフレーズ、慣用表現をを理解することができる。 ◎E：日常的なトピックについて120words程度の文章を書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。授業内で扱う単語や文法の予習をあらかじめ調べる。授業内のライティングプラクティス用の原稿の準備をする。新聞を読むこと（45分） 事後学習：授業内で行ったリーディングの復習、単語テストやフレーズの復習を実施するのでその準備を行う。（30分）
指導方法	英語で読むこと、書くことに慣れるため、たくさん読んでたくさん書くことをします。授業は原則英語で行いますが、時に日本語でも指導をします。単語力をつけることが、英語力アップのためにはとても大切なので、ほぼ毎回単語テストをします。また重要文法事項も復習して行きます。スピーチ、ディスカッション、グループワークを積極的に行います。 授業課題のフィードバックの方法：①単語テスト　②授業後における質疑対応　③毎回行う自己評価シートでの振り返りに個別に対応する。④ライティングの課題

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度、統一単語テスト、プレゼンテーションで評価します。 ◎Ｅ：ライティング課題、小テスト、定期試験で評価します。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEICテスト 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Effective Academic Writing. Alice Savage, Masoud Shafiei, Second Edition, Oxford University Press, 2012
参考書	授業中に指示します。
履修上の注意	毎回の授業で分からないところがあったら、その場ですぐに質問すること。また、分からない単語は事前に辞書で確認しましょう。ミスを恐れずに積極的に英語を使ってください。なお、毎回授業には必ず辞書を持参すること。毎回のライティングプラクティス用の原稿は必ず準備をしましょう。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom、 インターネットでの情報取得、動画の活用。

講義科目名称： Sophomore English Writing：Intermediate (R)　　授業コード：2094

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E22A09	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	この授業では、英語運用力、特にリーディングとライティングの基礎を強固にすることを目的とする。Model Emailとその返信を教材とし、英語の語彙力と読解力の向上を図る。また各々の場面で頻繁に使用される重要表現を学び、実用的かつ実践的なライティングスキルを習得する。 (授業目標) ○D：様々な状況の英語のメールを読み、その内容を正確に理解することができる。 ◎E：授業で学んだ語彙や表現を使って、100語程度の英語で自分の意図を明確に表現することができる。
授業計画	1　前期の復習 前期に扱った語彙や文法事項を確認する。 2　Unit 13 Good luck!（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） スピーチコンテストを控えた友人へのメールとその返信を読む。励ます際の表現を学ぶ。 3　Unit 14 Congratulations!（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） スピーチコンテストで優勝した友人へのメールとその返信を読む。お祝いとそれに対する返答の表現を学ぶ。 4　Unit 15 It would be appreciated if...（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 推薦状をお願いする先生へのメールとその返信を読む。目上の相手に対する改まった依頼表現を学ぶ。 5　Unit 16 Can I make an offer?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 遠方から来る友人に案内を申し出るメールとその返信を読む。何かを申し出る際の表現を学ぶ。 6　Unit 17 Thank you!（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） お礼のメールとその返信を読む。感謝の意を述べるときの表現とnotの位置について学ぶ。 7　Unit 18 You know what?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 大学に合格したことを知らせるメールとその返信を読む。相手に何かを報告するときの表現を学ぶ。 8　Unit 13-18のまとめ（ペアワーク：お互いの英作文を添削する） Unit 13-18で学んだ表現の確認を行ったうえ、扱ったトピックからひとつ選んでメールを書く。 9　Unit 19 Get well soon!（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 怪我をした友人へのメールとその返信を読む。お見舞いの気持ちを述べるときの表現を学ぶ。 10　Unit 20 Anybody interested?（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 最近知り合った留学生へのメールとその返信を読む。募集する際の表現について学ぶ。 11　Unit 21 Season's Greetings!（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） ホストファミリーへのクリスマスカードのメッセージとその返信を読む。季節の挨拶に用いる表現を学ぶ。 12　Unit 22 I would like to apply for a position（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） ボランティアに応募するためのメールとその返信を読む。応募内容の伝え方や自分をアピールするための表現を学ぶ。 13　Unit 23 Inquiry about scholarship（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 留学を希望している大学の奨学金についての問い合わせのメールとその返信を読む。問い合わせの表現について学ぶ。 14　Unit 24 Sorry for your loss（グループワーク：パッセージの内容をグループでまとめ発表） 叔父を亡くした友人へのメールとその返信を読む。相手を励ますときの表現を学ぶ。 15　Unit 19-24のまとめ（ペアワーク：お互いの英作文を添削する） Unit 19-24で学んだ表現の確認を行ったうえ、扱ったトピックからひとつ選んでメールを書く。
学習成果・到達目標・基準	○D：英語で書かれた報告や問い合わせのメールの内容を理解することができる。 ◎E：感謝やお見舞いなどの挨拶のメール文章を60語程度の英語で正しく書くことができる。
事前・事後学習	事前学習：本文中の分からない語句を調べ、テキストの設問に取り組む。(60分) 事後学習：語句や表現、文法を復習し、本文の音読を行う。(60分)
指導方法	テキストのModel Mailとその返信を精読し、その場面で頻繁に使用される重要表現を学ぶ。また語彙や文法事項の確認も行う。最後に学んだ語彙や表現を元に実際にメールを書いてみる。

	フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ライティング課題の提出と課題に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D: 授業貢献度とTOEICの成績で評価する。 ◎E: ライティング課題の完成度、小テストと定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度 20% 小テスト 15% TOEIC IP (Reading Section) 20% ライティング課題 15% 定期試験 30%
テキスト	Write Me Back Soon!, Keiko Naruoka et al., 金星堂, 2013.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Practical English A (U)　　授業コード：2241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12C10	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEIC Testのスコアアップのための基礎演習を行う。初めてTOEIC L&R Testに挑戦しようとしている学生に対して、繰り返し問題を解くことで目標スコア（本授業では650）を達成できるように、基礎的な演習、とくにリーディングパートを中心として授業を展開する。 TOEICテストのスコアアップを目標とする授業である。 (授業目標) 〇D:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction / Mini-test テキストの説明および授業に関する説明　実力確認テストの実施 2　Unit 1: 人物の動作表現　(Google Classroomを使用しての小テスト) Listening Section: Part 1を中心に人物写真について、情報の関連付けの練習を行う 3　Unit 1: 品詞・代名詞（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 5を中心に品詞・代名詞の用法を確認する 4　Unit 2: 疑問詞で始まる疑問文（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 2を中心に疑問詞で始まる文章について練習を行う 5　Unit 2: 態・分詞（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 5を中心に態・分詞の用法を確認する 6　Unit 3: 店・ホテルでの会話（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 3を中心に会話の場所、会話のトピック、人物の職業を推測する練習を行う 7　Unit 3: 読解問題基礎編（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 7を中心に長文の書かれた目的と詳細を読み取る練習を行う 8　Unit 4: 説明文（留守番電話）（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 4を中心に留守番電話と自動応答メッセージの具体的な情報を聞き取る練習を行う 9　Unit 4: 詳細情報を特定する（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 7を中心に必要な情報を素早く読み取る練習を行う 10　Unit 5: モノに関する描写（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 1を中心にモノや風景に関する描写の表現を学習する 11　Unit 5: 長文の展開を読み取る（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 7を中心に段落や文単位で話の展開を正確に理解する 12　Unit 6: Yes/No 疑問文・選択疑問文（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 2を中心に疑問文の内容を聞き取る練習を行う 13　Unit 6: 接続詞・前置詞（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 5を中心に前置詞の意味と文法的な働きを学習する 14　Unit 7: 日常生活における会話（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 3を中心に日常生活の会話表現を学習する 15　Unit 7: 内容把握問題にチャレンジする（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 7を中心に本文の正確な理解ができるように取り組み、同義語問題についても学習する
学習成果・ 到達目標・基準	〇D：TOEICテストで出題される語彙、最低135語を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのリーディングセクションの構成、特にPart 5/6の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。翌週の授業で扱う表現について辞書で調べること（45分） 事後学習：単語の復習並びに配布されたプリントの問題演習を行うこと（45分）
指導方法	毎回、授業の冒頭でGoogle Classroomを使って単語テストを行い、語彙量の増加を目指す。そしてリスニング問題とリーディング問題をバランスよく演習しながら、授業を展開する。また演習の不足している文法項目に関しては、適宜プリントを配布し対応していく。フィードバック方法：①Google Classroomを使用しての小テスト実施　②授業後に質疑応答を行う
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	〇D：授業への貢献度、単語テストで評価する ◎E：TOEIC、定期試験で評価する 授業への貢献度：30%

	単語テスト：20% TOEIC：10% 定期試験：40%
テキスト	Koji Hayakawa. Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One Advanced. (桐原書店、2019) 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』(アルク、2016)
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	授業には必ず辞書を持参すること。TOEIC対策の授業なので、積極的に試験を受験してください。スコアアップの学生には平常点を加算するので、教員に報告すること。自費にて試験を受験することを推奨します。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Practical English A (S)　　授業コード：2242

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E12C10	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	TOEIC L&R Testに挑戦しようとする学生に対して、TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点をあてスコアアップのための基礎演習を行う。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学ぶ。また単語力強化のため毎回単語テストを行う。 (授業目標) ○Ｄ：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎Ｅ：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答することができる。
授業計画	1　Introduction/Overview of TOEIC L&R Test テキストの説明及び、授業に関する説明　TOEIC L&R TESTの概要 2　Lesson 1 文のはじめの５Ws&Howを聴き取る　（グループワーク・ペアワーク） Part 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 3　Lesson 2 be動詞の直後の「動作」「状態」を写真中に確認する（グループワーク・ペアワーク） Part 1を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 4　Lesson 3写真と矛盾した要素を探す（グループワーク・ペアワーク） Part 1を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 5　Lesson 4「許可」「依頼」「提案」「申し出」は質問・応答の典型をセットで学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 6　Lesson 5 各問いかけごとの「よくある」「ありえない」応答を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part ２を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 7　Lesson 6「意味」だけでなく「形」から学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 5を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 8　Lesson 7「動作」と「状態」の違いを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 1を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 9　Lesson 8キーワードを探して正しい時制を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part ５＆６を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 10　Lesson 9 品詞を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part ５を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 11　Lesson 10 to do形、ing形、ed/en形の使われるパターンを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part ５を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 12　Lesson 11「音」の流れを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 1 & 2を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 13　Lesson 12 典型的な設問と３問の流れを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 3 & 4を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 14　Lesson 13 会話の全体構造を理解する（グループワーク・ペアワーク） Part 3 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 15　Lesson 14 ミニテスト ミニ模試にチャレンジする
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：TOEICテストで出題される語彙、最低120ワードを理解することができる。 ◎Ｅ：TOEICテストのリーディングセクションの構成、特にPart5/6の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約45分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。授業で行った単語、フレーズの書写作業。（約45分）
指導方法	毎回単語テストを行う。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開する。一方的な講義でなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：単語テストの実施及び、学生からのコメントに対し随時フィードバックを行う。定期的な書写ノート提出の際、ノートの方にフィードバックを行う。 学生の学習の状況を把握し、フィードバックをおこなうためGoogle Classroomを利用する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：TOEIC、定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	石井洋佑、Karl Rosvold, Michael McDowell はじめてのTOEIC(R)L&Rテストきほんのきほん　(スリーエーネットワーク　2017) 一杉　武史　改訂版　キクタン　TOEIC(R) TEST　SCORE ５００　(アルク　2016)
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。毎回の事後学習の書写を行って次回の授業にのぞむこと。 *自費にて公式TOEICテストを受験することを勧めます。受験した場合は教員に報告すること。 連絡はすべてGoogleClassroomで行うので必ず確認をすること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, GoogleClassroom, Powerpointなど

講義科目名称： Practical English A (T)　　授業コード： 2243

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
内藤貴子			
ナンバリング：E12C10	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストとミニ模試を毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction、TOEICの基礎知識1 教科書、授業内容と進め方、授業の準備、評価方法の説明　及び音読トレーニングについて TOEIC公式ホームページや英語動画などを使用した自己学習について リスニング・リーディング問題の形式、頻出パターン、時間配分などについての講義 力試しの模試1 2　TOEICの基礎知識2、Part.1～7の総合演習入門 力試しの模試2 スコア分析・スコアアップの為の英語自己学習についての指導 Part.1～7の総合演習入門 3　語彙演習／リスニングPart.１（写真）／リーディングPart.5-1（品詞1）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト1／ミニ模試1 4　語彙演習／リスニングPart.2（応答）／リーディングPart.5-2（品詞2）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト2／ミニ模試2 5　語彙演習／リスニングPart.3（会話）／リーディングPart.5-3（動詞1）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト3／ミニ模試3 6　語彙演習／リスニングPart.4（説明文）／リーディングPart.5-4（動詞2）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト4／ミニ模試4 7　語彙演習／リスニングPart.1～4（類題演習１）／リーディングPart.5-5（接続詞・前置詞1）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト5／ミニ模試5 8　語彙演習／リスニングPart.1～4（類題演習2）／リーディングPart.5-6（前置詞2・代名詞）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト6／ミニ模試6 9　語彙演習／リスニングPart.1～4（類題演習3）／リーディングPart.5-7（関係詞・語彙）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト7／ミニ模試7 10　語彙演習／リスニングPart.1～4＆リーディングPart.5（類題演習4）／リーディングPart.6-1（穴埋め1）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト8／ミニ模試8 11　語彙演習／リスニングPart.1～4＆リーディングPart.5（類題演習5）／リーディングPart.6-2（穴埋め2）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト9／ミニ模試9 12　語彙演習／リスニングPart.1～4＆リーディングPart.5（類題演習6）／リーディングPart.7-1（読解1）（グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト10／ミニ模試10 13　語彙演習／リスニングPart.1～4＆リーディングPart.5（類題演習7）／リーディングPart.7-2（読解2）（グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト11／ミニ模試11 14　Part.1～7の総合演習まとめ1（ペア／グループワーク） 力試しの模試1

	Part.1～7の総合演習まとめ1 15　Part.1～7総合演習まとめ2／スコアアップのアドバイス（ペア／グループワーク） 力試しの模試2 Part.1～7の総合演習まとめ2 スコア分析・スコアアップの為の英語自己学習についての指導
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：TOEICテストにおいてどのようなアプローチを行えば、スコアアップが図れるのかを理解し、自分で学習する際に役立てることができる。 ◎Ｅ：TOEICテストのListening とReading Sectionを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強。Vocabulary Marathonノートの作成と音読。（約40分） 事後学習：授業の復習、リスニング・リーディングの類題演習。授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	毎回単語テストとミニ模試を行います。習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。 フィードバックの方法:①単語テスト・授業内模試・ノートへの評価記載と返却　②音読課題への個別指導 ③習熟度の自己分析に関するコメント　④授業前後やメール等での質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度　30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	富岡恵『TOEIC L&Rテスト 書き込みノート 全パート攻略編』（学研プラス、2017） 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』（アルク、2020）
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、ピア・ティーチング
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得・問題演習、動画の活用、Google Classroom、Google Forms、Zoom

講義科目名称： Practical English A (R)　　授業コード：2244

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12C10	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction 教科書、授業内容と進め方、授業の準備、評価方法の説明　及び音読トレーニングについて TOEIC公式ホームページや英語動画などを使用した自己学習について 2　TOEICの基礎知識／語彙力テスト リスニング・リーディング問題の形式、頻出パターン、時間配分などについての講義 語彙力テスト 3　TOEIC　模試 TOEIC形式ミニ模試（Pre-test） 4　語彙演習／文法演習　品詞問題１／リスニング　Part 1（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 5　語彙演習／文法演習　品詞問題２　修飾語（形容詞、副詞、前置詞＋名詞）／リスニング　Part 1（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 6　語彙演習／文法演習　品詞問題３／リスニング　Part ２（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 7　語彙演習／文法演習　品詞問題　応用１／リスニング　Part ２（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 8　語彙演習／文法演習　品詞問題　応用２／リスニング　Part ２（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 9　語彙演習／文法演習　動詞問題１　主述の一致／リスニング　Part ３（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 10　語彙演習／文法演習　動詞問題２　時制　／リスニング　Part ３（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 11　語彙演習／文法演習　動詞問題３　能動態と受動態　／リスニング　Part ４（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 12　語彙演習／文法演習　動詞問題４　現在分詞と過去分詞／リスニング　Part ４（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 13　語彙演習／文法演習　動詞問題　応用１　／リスニング　Part ４（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読演習 14　語彙演習／文法演習　動詞問題　応用２　／リスニング　Part ４（グループワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 グループ問題演習 15　リスニング　Part 1～４　＆　リーディング　Part ５　総合演習　／スコアアップの為の英語自己学習について 語彙・文法確認テスト／Part1～5の総合演習 スコアアップの為の英語学習についての指導や参考文献の紹介
学習成果・ 到達目標・基準	○D：TOEICテストで出題される語彙、最低90語を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのReading Sectionの構成、特にPart5の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：授業の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）

指導方法	毎回単語テストを行います。習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	「改訂版　キクタンTOEIC TEST SCORE 500」 一杉武史 著　（アルク　2020） Primary Trainer for the TOEIC L&R Test. Junnosuke Hamasaki. National Geographic Learning. 2019
参考書	
履修上の注意	授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 （自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom、Google Classroom。

講義科目名称： Practical English B (U)　　授業コード：2251

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E12C11	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Practical English : Basic Aに引き続きTOEIC Testのスコアアップのための基礎演習を行う。前期にTOEICを一度経験し、スコアアップを目指し挑戦しようとしている学生に対して、基礎的な問題を解き、文法力やリスニング力を高めることで目標スコア（本授業では650）を達成できるように授業を展開していく。とくにリーディングパート、文法理解を中心として授業を進める。 TOEICテストのスコアアップを目標とする授業である。 (授業目標) ○D:TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E:TOEICテストの全Partを時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Unit 8: アナウンス・宣伝 Listening Section: Part 4を中心にアナウンスや宣伝の内容を聞き取る練習を行う 2　Unit 8: 語彙問題（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 5を中心に語彙問題の解法の練習を行う 3　Unit 9: ステートメント・不可疑問（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 2を中心に報告や情報伝達である「ステートメント」を解く練習を行う 4　Unit 9: 時制・代名詞・語彙（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 6を中心に複数の文章の関連付けの練習を行う 5　Unit 10: オフィスでの会話①（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 3を中心にオフィスでの会話の中で必要な情報を正確に特定する練習を行う 6　Unit 10: マルチプルパッセージ（２つの文書）（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 7を中心に2つの文章の関連付けの練習を行う 7　Unit 11: 会議・イベントでのトーク（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 4を中心に会議やイベントでの連絡事項を聞き取る練習を行う 8　Unit 11: Part 5総練習（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 5の総合的な演習を行う 9　Unit 12: オフィスでの会話②（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 3を中心にオフィスで起こる問題や心配事の聞き取り練習を行う 10　Unit 12: つなぎ語・文選択（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 6を中心に文のつなぎ語（接続語）を文脈に応じて選択する練習を行う 11　Unit 13: ニュース・ラジオ放送（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 4を中心にビジネスニュースやゲスト紹介の内容理解の練習を行う 12　Unit 13: マルチプルパッセージ（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: Part 7を中心に3つの文章の関連付けの練習を行う 13　Unit 14: 図表問題（Google Classroomを使用しての小テスト） Listening Section: Part 3を中心に発言内容と図表を関連させる練習を行う 14　Unit 14: Part 6/7総練習（Google Classroomを使用しての小テスト） Reading Section: 長文パートであるPart 6と7を制限時間を意識しながら解く練習を行う 15　Unit 15:実践対策演習 テキストを使って、リスニングの最終確認を行いながら、プリントを使って、Part 5/6/7のリーディング練習も行う
学習成果・ 到達目標・基準	○D：TOEICテストで出題される語彙、最低135語を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのリーディングセクションの構成、特にPart 7の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。翌週の授業で扱う表現について辞書で調べること（45分） 事後学習：単語の復習並びに配布されたプリントの問題演習を行うこと（45分）
指導方法	毎回、授業の冒頭でGoogle Classroomを使用し単語テストを行い、語彙量の増加を目指す。そしてリスニング問題とリーディング問題をバランスよく演習しながら、授業を展開する。また演習の不足している文法項目に関しては、適宜プリントを配布し対応していく。フィードバック方法：①Google Classroomを使用しての小テストを実施　②授業後に質疑応答を行う
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○D：授業への貢献度、単語テストで評価する ◎E：TOEIC、定期試験で評価する 授業への貢献度：30% 単語テスト：20%

	TOEIC：10% 定期試験：40%
テキスト	Koji Hayakawa. Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One Advanced. (桐原書店、2019) 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』(アルク、2016)
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	授業には必ず辞書を持参すること。TOEIC対策の授業なので、積極的に試験を受験してください。スコアアップの学生には平常点を加算するので、教員に報告すること。自費にて試験を受験することを推奨します。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Practical English B (S)　　授業コード： 2252

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E12C11	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	TOEIC L&R Testに挑戦しようとする学生に対して、TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点をあてスコアアップのための基礎演習を行う。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学ぶ。また単語力強化のため毎回単語テストを行う。 (授業目標) ○Ｄ：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎Ｅ：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答することができる。
授業計画	1　Lesson 14 会話の全体構造を理解する（グループワーク・ペアワーク） Part 4を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 2　Lesson 15 典型的な問題文と答えのヒントとなるフレーズを学ぶ　（グループワーク・ペアワーク） Part 7 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 3　Lesson 16　Part7の頻出トピック・文書形式を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 7 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 4　Lesson 17 代名詞を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 5 & 6 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 5　Lesson 18 形容詞節を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 5 & 6 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 6　Lesson 19 相関語句から学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 5 & 6を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 7　Lesson 20 接続詞のある問題を学ぶ　（グループワーク・ペアワーク） Part 5 & 6 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 8　Lesson 21 Scanningを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 7 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 9　Lesson 22 図表問題を学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 3 & 4 中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 10　Lesson 23 Multiple Passageを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 7 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 11　Lesson 24 文章展開パターンを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part ６を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 12　Lesson 25 代名詞や限定詞　について学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 7 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 13　Lesson 26 文脈を読み取る（グループワーク・ペアワーク） Part 3 ＆ 4, 7を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 14　Lesson 27 口語的なやりとりを学ぶ（グループワーク・ペアワーク） Part 3, 7 を中心に練習を行う。音読・聴き取りトレーニング 15　Lesson 27 ミニ模試トレーニング ミニ模試にチャレンジする
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：TOEICテストで出題される語彙、最低120ワードを理解することができる。 ◎Ｅ：TOEICテストのリーディングセクションの構成、特にPart 7の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約45分） 事後学習：単語の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。授業で学んだ単語、フレーズの書写を行う。（約45分）
指導方法	毎回単語テストを行う。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開する。一方的な講義でなくペアワーク、グループワークなども積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：単語テストの実施。授業後のコメントに対しては随時フィードバックを行う。定期的な書写ノート提出の際、ノートの方にフィードバックを行う。 学生の学習の状況を把握し、フィードバックをおこなうためGoogle Classroomを利用する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度、単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：TOEIC、定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	石井洋佑、Karl Rosvold, Michael McDowell はじめてのTOEIC(R)L&Rテストきほんのきほん　(スリーエーネットワーク　2017) 一杉　武史　改訂版　キクタン　TOEIC(R) TEST　SCORE ５００　(アルク　2016)
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。事後学習の書写は必ず行い次週の授業に臨むこと。 *自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。受験した場合は教員に報告すること。 連絡はGoogleClassroomで行うので必ず確認をすること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Powerpointなど

講義科目名称： Practical English B (T)　　授業コード：2253

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
内藤貴子			
ナンバリング：E12C11	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Practical English Aに引続き、TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストとミニ模試を毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction、前期の復習1（ペアワーク） 教科書、授業内容と進め方、授業の準備、評価方法の説明　及び音読トレーニングについて リスニング・リーディング問題の形式、頻出パターン、時間配分などについての講義 力試しの模試1 2　前期の復習2（ペアワーク） 力試しの模試2 スコア分析・アドバイス Part.1～7の総合演習 3　語彙演習／リスニングPart.１（写真）／リーディングPart.5（類題演習a・文法復習）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト1、ミニ模試1 4　語彙演習／リスニングPart.2（応答）／リーディングPart.5（類題演習b・文法復習）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト2、ミニ模試2 5　語彙演習／リスニングPart.3（会話）／リーディングPart.5（類題演習c・文法復習）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト3、ミニ模試3 6　語彙演習／リスニングPart.4（説明文）／リーディングPart.5（類題演習d・文法復習）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト4、ミニ模試4 7　語彙演習／リスニングPart.1～4（類題演習1）／リーディングPart.5（重要項目まとめ）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト5、ミニ模試5 8　語彙演習／リスニングPart.1～4&リーディングPart.5（類題演習2）／リーディングPart.6（穴埋め）（ペアワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト6、ミニ模試6 9　語彙演習／リスニングPart.1～4&リーディングPart.5～6（類題演習3）／リーディングPart.7（読解）（グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト7、ミニ模試7 10　語彙演習／リスニングPart.1～4&リーディングPart.5～7（類題演習4）（ペア／グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト8、ミニ模試8 11　語彙演習／リスニングPart.1～4&リーディングPart.5～7（類題演習5）（ペア／グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト9、ミニ模試9 12　語彙演習／リスニングPart.1～4&リーディングPart.5～7（類題演習6）（ペア／グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト10、ミニ模試10 13　語彙演習／リスニングPart.1～4&リーディングPart.5～7（類題演習7）（ペア／グループワーク） 語彙演習／リスニング演習／リーディング演習／ペア音読演習 単語テスト11、ミニ模試11

	14　Part.1～7の総合演習まとめ1（ペア／グループワーク） 力試しの模試1 Part.1～7の総合演習まとめ1 15　Part.1～7の総合演習まとめ2／スコア分析／スコアアップの為の英語自己学習について（ペア／グループワーク） 力試しの模試2 Part.1～7の総合演習まとめ2 スコア分析・スコアアップの為の英語学習についての指導
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：TOEICテストにおいてどのようなアプローチを行えば、スコアアップが図れるのかを理解し、自分で学習する際に役立てることができる。 ◎Ｅ：TOEICテストのListening とReading Sectionを、解法のポイントをおさえて解くことができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強。Vocabulary Marathonノートの作成と音読。（約40分） 事後学習：授業の復習、リスニング・リーディングの類題演習。授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約60分）
指導方法	毎回単語テストとミニ模試を行います。習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。 フィードバックの方法:①単語テスト・授業内模試・ノートへの評価記載と返却　②音読課題への個別指導 ③習熟度の自己分析に関するコメント　④授業前後やメール等での質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度　30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	関正生『世界一わかりやすいTOEIC L&Rテスト総合模試１[600点突破レベル]新形式完全対等Vol.1』（KADOKAWA、2020（第5版）） 一杉武史『改訂版キクタンTOEIC TEST SCORE 500』（アルク、2020）
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	辞書を使用するので持ってくること。授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、ピア・ティーチング
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得・問題演習、動画の活用、Google Classroom、Google Forms、Zoom

講義科目名称： Practical English B (R)　　授業コード：2254

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E12C11	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Practical English Aに引き続き、TOEICテストの各パートの特徴理解と解法の修得に焦点を当てた授業です。 リスニング力や文章読解力向上のために、単語テストを毎回行います。TOEICテストの問題演習を通して、身近な日常生活における基礎的な英語表現を、リスニングとリーディングを通して学びます。 (授業目標) ○D：TOEICテストの全Partの問題の特徴と解法のポイントを理解することができる。 ◎E：TOEICテストの全Partの問題を時間内に効率よく正確に解答する力をつけることができる。
授業計画	1　Introduction 教科書、授業内容と進め方、授業の準備、評価方法の説明　及び音読トレーニングについて 2　前期の復習　語彙、品詞、動詞 語彙演習／文法問題演習 3　語彙演習／文法演習　代名詞問題１ 語彙演習／文法問題演習 4　語彙演習／文法演習　代名詞問題２　／リスニング　Part 1（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 5　語彙演習／文法演習　前置詞問題　１／リスニング　Part ２（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 6　語彙演習／文法演習　前置詞問題　１／リスニング　Part ２（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 7　語彙演習／文法演習　接続詞問題　１／リスニング　Part ３（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 8　語彙演習／文法演習　関係代名詞問題　１／リスニング　Part ４（ペアワーク） 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト／リスニング演習 ペア音読練習 9　語彙演習／文法演習　関係代名詞問題　２ 語彙演習・テスト／文法問題演習・テスト 10　語彙演習／リーディング　Part ７ 語彙演習・テスト／Part ７　演習 11　語彙演習／リーディング　Part ７ 語彙演習・テスト／Part ７　演習 12　語彙演習／リーディング　Part ７ 語彙演習・テスト／Part ７　演習 13　語彙演習／リーディング　Part ７（グループワーク） 語彙演習・テスト／Part ７　演習 問題演習グループワーク 14　語彙演習／リーディング　Part ６ 語彙演習・テスト／Part ６　演習 15　Part １～７総合演習　／スコア分析　／個別アドバイス 語彙・文法確認テスト／Part1～7の総合演習 各自のスコア分析・個別アドバイス
学習成果・ 到達目標・基準	○D：TOEICテストで出題される語彙、最低90語を理解することができる。 ◎E：TOEICテストのReading Sectionの構成、特にPart 6の構成を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：単語テストの勉強と、翌週の授業範囲の単語等の意味を調べた上で、英文を音読する。（約60分） 事後学習：授業の復習並びに授業で扱った英文をスムーズに読めるまで音読する。（約30分）
指導方法	毎回単語テストを行います。習熟度を段階的にかつ具体的に自己分析していきながら、英語力の向上を目指します。実戦形式の問題演習を通して、TOEICテストの問題の特徴と解法のポイントを解説し、考えながら英語を学ぶ主体的な学習に焦点をあてて授業を展開します。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：単語テスト、授業時の問題演習、定期試験で評価する。 ◎Ｅ：定期試験で評価する。 授業への貢献度 30% 単語テスト 20% TOEIC 10% 定期試験 40%
テキスト	「改訂版　キクタンTOEIC TEST SCORE 500」 一杉武史 著　（アルク　2020） Fast Pass for the TOEIC L&R Test. R. Uenaka, S. Korechika. National Geographic Learning 2019.
参考書	授業内で紹介する。
履修上の注意	授業では、課題の発見、疑問点の解決、取り組む演習問題の内容に対する理解と関心を深めるなど、主体的に考えながら授業に参加することが求められます。 （自費にてTOEICテストを受験することを勧めます。）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom、Google Classroom。

講義科目名称： News through Internet　　授業コード：2121　2122　2123

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
高橋大樹、玉川明日美			
ナンバリング：E12B12	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	英語とインターネットにおけるリテラシー能力を相乗効果的に伸ばし、各自の関心に基づくプレゼンテーションを行う能力を身につけます。 授業では英米のニュースサイトを通して、英語で書かれた情報を理解し、まとめ、発信できることを目標とします。 (授業目標) ○D：英語のウェブサイト、とりわけニュースサイトの内容を、ポイントを理解して要約した上で、自分の意見や考えをまとめることができる。 ◎E：英語とICTスキルを駆使して論理的かつ説得力のあるプレゼンテーション（3分）をすることができる。
授業計画	1　Introduction 授業概要説明 インターネットの利用上の注意 2　インターネットと英語 インターネット用語（英語表現）を学ぶ サーチエンジンの翻訳サイトを使い問題点を理解する SNSの利点および問題点を理解する 3　英字新聞の読み方：基礎編（1） 英米の大衆紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方を理解する 4　英字新聞の読み方：基礎編（2） 英米の大衆紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方を理解する 5　英字新聞の読み方：応用編（1） 英米の高級紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方、大衆紙との表現の違いを理解する 6　英字新聞の読み方：応用編（2） 英米の高級紙のニュースサイトを使用して、英字新聞の読み方、大衆紙との表現の違いを理解する 7　Preparation for mid-term presentation Power point－スライドの作成 プレゼンテーションの基礎的な英語表現・効果的な資料作成のポイントを学ぶ 8　Mid-term presentation（プレゼンテーション：全員が発表する） 興味あるニュース記事を一つ選び、その内容について英語でまとめて発表を行う 9　Articles on Movie Search Engineの活用(1) 英語ニュースサイトに書かれた映画のレビューを調べ、映画の内容や評価についてまとめて紹介する 10　Articles on Art Search Engineの活用(2) 英語圏の芸術に関するニュース記事を検索し、どのような企画・展示があるか等をまとめて紹介する 11　Articles on Sports Search Engineの活用(3) 英語ニュースサイトに書かれたスポーツ記事を検索し、興味のある内容をまとめて紹介する 12　Articles on Travel and World Heritage Search Engineの活用(4) 英語ニュースサイトに書かれた世界遺産や観光に関する記事を検索し、興味のある世界遺産についてまとめて紹介する 13　Preparation for final presentation (1) Power point－スライドの作成 プレゼンテーションの応用的な英語表現・効果的な資料作成のポイントを学ぶ 14　Preparation for final presentation (2) Power point－スライドの作成 プレゼンテーションの応用的な英語表現・効果的な資料作成のポイントを学ぶ 15　Final Presentation（プレゼンテーション：全員が発表する） 自らの関心に基づいたウェブサイトの内容について、英語でプレゼンテーションを行う
学習成果・ 到達目標・基準	○D：英語のウェブサイト、とくにニュースサイトの概要をおおまかに理解してまとめることができる。 ◎E：基礎的な英語とICTスキルに基づいて、1分程度の英語でのプレゼンテーションをすることができる。
事前・事後学習	事前学習：指示されたウェブサイトについてあらかじめ目を通して概要をまとめておく。（45分） 事後学習：授業で学んだ英語表現を踏まえて、資料を作成しプレゼンテーションの準備をする。（45分）

指導方法	PC教室にてインターネットおよびパワーポイントを使用しながら授業を展開します。各自が興味のあるテーマに基づいて、インターネットを利用した情報収集と処理を行い、英語でプレゼンテーションをしてもらいます。フィードバック方法：①小テスト実施　②課題発表への教員による授業内でのコメント　③授業後におけるコメントへの質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：授業への貢献度、および課題で評価します。 ◎Ｅ：プレゼンテーション、定期試験で評価します。 授業への貢献度 30% 提出課題 20% プレゼンテーション 20% 定期試験 30%
テキスト	なし（必要に応じて担当教員が資料を配布します）
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	インターネットを通じてさまざまな英語に向き合いますが、その分、使われている英語が難しくなります。辞書を忘れないようにしましょう。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： English through Films　　授業コード：2151　2152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、内藤貴子			
ナンバリング：E22B13	B 対面＋Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	1998年のアカデミー賞で11部門にノミネートされた、レオナルド・ディカプリオ主演の映画『タイタニック』を教材として用い、総合的な英語運用能力の向上を目指す。重要語彙や表現、聞き取りのポイントを学んだうえで映画を視聴し、内容の確認を行う。また、ディクテーション、ロールプレイング、ディスカッションなどのさまざまな演習を行う。 (授業目標) ○Ｂ：場面に応じた適切な語彙や文法、表現を用いて、英語で十分に意思疎通を図ることができる。 ◎Ｅ：字幕なしで映画内の会話を正確に聞き取り、理解することができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方、テキストの説明を行う。 2　Unit 1 The Woman in the Picture （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 分詞の確認とつながる音について学ぶ。 3　Unit 2 Back to Titanic （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 助動詞の確認と音の同化について学ぶ。 4　Unit 3 Leaving Port （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 受動態の確認と音の脱落について学ぶ。 5　Unit 4 Don’t Do It （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 仮定法の確認と[nt]の発音について学ぶ。 6　Unit 5 Do you Love Him? （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 進行形の確認と音の強弱について学ぶ。 7　Unit 6 I Can’t See You （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 関係詞thatの確認とcan/can’tの発音について学ぶ。 8　Unit 7 I’m Flying （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 関係副詞の確認と音の連結について学ぶ。 9　Unit 8 Iceberg Right Ahead! （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 完了形の確認と母音にはさまれた[t]の発音について学ぶ。 10　Unit 9 An Honest Thief （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 使役動詞の確認とhaveの強形、弱形の発音について学ぶ。 11　Unit 10 Goodbye, Mother （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 未来形の確認と短縮形の発音について学ぶ。 12　Unit 11 Get in the Boat （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 名詞の確認と機能語の発音について学ぶ。 13　Unit 12 Two Tragic Bullets （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 動名詞の確認とingの発音について学ぶ。 14　Unit 13 Promise Me （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 不定詞の確認と助動詞の発音について学ぶ。 15　Unit 14 Rose’s Secret （グループワーク：ペアあるいはグループで視聴した場面の会話練習） 否定の確認と文アクセントについて学ぶ。
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｂ：授業で学んだ英語表現を用いて会話をすることができる。 ◎Ｅ：テキストで取り上げた『タイタニック』の場面について、日本語の字幕なしで映画の概要を把握することができる。
事前・事後学習	事前学習：　視聴場面に出て来る重要語彙の意味を確認しておく。(30分) 事後学習：　視聴場面の内容の要約をし、関連する英文の読解を行う。(60分)
指導方法	重要語句や会話表現、聞き取りのポイントを確認したうえで、毎回10分程度映画の視聴を行う。視聴後、ディクテーション、ロールプレイング、ディスカッションなど様々な演習を行い、内容の把握と英語運用力の向上を図る。 フィードバックの方法：①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ペアあるいはグループによる会話演習に対するコメント

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｂ：ペアワークやグループワークの積極性で評価する。 ◎Ｅ：小テストや定期試験の成績、課題の完成度で評価する。 授業貢献度：30% 小テスト：30% 定期試験：40%
テキスト	Learn English with TITANIC（『映画「タイタニック」で学ぶ総合英語』），角山照彦，Simon Capper著，成美堂，2017.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループでの演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。授業開始時に毎回復習のための小テストを実施する。また必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Teaching English to Children 1　　授業コード：2161　2162

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
松井恵美子、Ivan Botev			
ナンバリング：E12B14	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	児童は具体的な経験を通して言語を体得する。そのため、児童に英語を教える際には視覚教材や身体的活動を取り入れることが有効とされる。この授業では、様々な教育実践例を考察することにより、児童英語教育の現状を把握することを目的とする。また、児童に英語を教える際に必要となる英語の基本表現を学ぶ。 （授業目標） ○Ｂ:児童に英語を教える際に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 ◎Ｄ:英語の授業を行う際に必要な英語表現を身につける。
授業計画	1　オリエンテーション、授業の目標、評価基準についての説明 児童に英語を教えることについて考える。 2　Warm Up （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 授業のはじめと終わりに使う表現を学ぶ。 3　Classroom Commands （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 授業を遂行する際に必要な表現を学ぶ。 4　Performance Activities （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 指導を行うときに使う英語表現を学ぶ。 5　Interactions with ALT （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） ALTとコミュニケーションをとる際に使う表現を学ぶ。 6　Games （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） すごろくやビンゴ、カードゲームなどを行う際に使う教室英語を学ぶ。 7　Total Physical Response （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） TPRの教授法を学ぶ。 8　Coloring, Drawing, Making （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 描いたり、作ったりする際に使う英語表現を学ぶ。 9　Festivals and Events （グループワーク、プレゼンテーション: グループでまとめ、全員が発表する） 子供が関係する行事で使う単語や表現を学ぶ。子供に紹介したいお祭りについてまとめてグループでプレゼンテーションを行う。 10　School Life （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 学校生活に関する英語を学ぶ。 11　Play （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 遊びに関する表現を学ぶ。 12　Sports （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） スポーツに関する英語を学ぶ。ダンスの振りなどを指導する際に使う表現を学ぶ。 13　Animals and Insects （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 動物や昆虫に関する単語と表現を学ぶ。動物に関する歌を歌う。 14　Birds & Creatures Living in the Sea and River （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 鳥や、海や川に住む生き物に関する単語と表現を学ぶ。自然に関する歌を歌う。 15　Daily Life of Children （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 子供たちの日常生活に関する表現を学ぶ。子供たちのアクティビティについて学ぶ。
学習成果・ 到達目標・基準	この授業では、児童英語教育の基礎とその具体的な実践方法を学ぶことで、将来子供に英語を教える際に留意する点や心掛ける点についてきちんと理解し、効果的な授業運営方法を身につける。また、子供に英語を教えるためには確実な英語力が要求されるため、自分自身の英語力を磨く必要がある。 ○Ｂ:年齢に応じた児童英語教育法を理解し、児童の年齢に応じたコミュニケーションをとることができる。 ◎Ｄ:児童英語の授業を開始・終了するための英語表現を駆使することができる。

事前・事後学習	事前学習：対象となっている教科書のユニットの予習を行い、分からない語句は事前に辞書で調べておくこと。（30分） 事後学習：単語の復習ならびに指示された課題に取り組むこと。（60分）
指導方法	授業の初めに、前回の授業で習った小テストを実施する。その後、子供に英語を教える際に必要な英語表現を学び、問題演習を通して知識の定着を図る。また、英語のアクティビティ、ゲーム、歌などを体験し、英語教育指導法の基礎を学ぶ。 フィードバックの方法: ①小テストの実施と採点評価、②リアクションペーパーにコメントを記載し返却、③採点評価やコメントに関する質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｂ:授業内のグループワークの成果で評価する。 ◎Ｄ:小テストおよび定期試験の成績で評価する。 授業貢献度、課題、プレゼンテーション　30% 小テスト 30% 定期試験　40%
テキスト	Bright and Early（カレイラ松崎順子著、南雲堂、2020年） その他英語の歌や、塗り絵、ゲーム、工作などのアクティビティのプリントを配布する。
参考書	授業の際に指示する。 本学の図書館にもたくさん英語の絵本があるので、積極的に活用することを推奨する。
履修上の注意	テキストや辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、度重なる場合は減点対象とする。 頻繁に図書館に行き、日本語、英語の絵本にふれること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用。 Zoom, Google Classroom, Powerpoint等。

講義科目名称： Teaching English to Children 2　　授業コード：2171　2172

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
松井恵美子、Ivan Botev			
ナンバリング：E22B15	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業では、実際に児童に英語を教える際に必要となる知識や技術を習得することを目指す。小学校を舞台とした実践的な場面を想定したテキストを使い、英語の指示表現のみならず、授業展開方法や学校生活全般についても学ぶ。近隣の小学校の英語の授業の見学も行う。 （授業目標） ○Ｂ:児童に英語を教える際に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。 ◎Ｄ:英語の授業を行う際に必要な英語表現を身につける。
授業計画	1　ALT's First Visit to Minami Elementary School （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） ALTと一緒に小学校に初訪問するときに使う英語表現を学ぶ。 2　Getting to Know Each Other （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） ALTとコミュニケーションをとる際に使う英語表現を学ぶ。 3　School Lunch （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 学校給食でつかう英語表現を学ぶ。 4　Play Time （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 休み時間につかう英語表現を学ぶ。 5　The First English Class （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 最初の授業で使う英語表現を学ぶ。 6　Teaching Numbers 1 （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 数を教えるときに使う英語表現を学ぶ。 7　Teaching Numbers 2 （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 数に関する英語表現を学ぶ。 8　Reflection （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 授業の振り返りを行う際に使う英語表現を学ぶ。 9　Activities at a Kindergarten （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 幼稚園でのアクティビティを行う際に使う英語表現を学ぶ。 10　Growing Plants &Observing the Butterfly Lifecycle CLIL1 （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 生活科・理科を取り入れた英語学習の進め方を学ぶ。 11　Making Onigiri and Curry（グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 家庭科を取り入れた英語学習の進め方を学ぶ。 12　Making a Town Map（グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 社会科を取り入れた英語学習の進め方を学ぶ。 13　Introducing Japanese Culture （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 日本文化を紹介する際に使う英語表現を学ぶ。 14　Evacuation Drills （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 避難訓練の際に使う英語表現を学ぶ。 15　Graduation （グループワーク: 先生役と生徒役に分かれてグループごとに模擬授業をする） 卒業の際に使う英語表現を学ぶ。
学習成果・ 到達目標・基準	この授業では、児童英語教育の基礎とその具体的な実践方法を学ぶことで、将来子供に英語を教える際に留意する点や心掛ける点についてきちんと理解し、効果的な授業運営方法を身につける。また、子供に英語を教えるためには確実な英語力が要求されるため、自分自身の英語力を磨く必要がある。

	○Ｂ:児童に英語を教える際、英語の歌を使用して、コミュニケーションを図りながら英語を教えることができる。 ◎Ｄ:数に関する英語表現を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：対象となっている教科書のユニットの予習を行い、分からない語句は事前に辞書で調べておくこと。（30分） 事後学習：単語の復習ならびに指示された課題に取り組むこと。（60分）
指導方法	授業の初めに、前回の授業で習った小テストを実施する。その後、子供に英語を教える際に必要な英語表現を学び、問題演習を通して知識の定着を図る。また、英語のアクティビティ、ゲーム、歌などを体験し、英語教育指導法の基礎を学ぶ。英語の絵本の読み聞かせについて学ぶ。 フィードバックの方法: ①小テストの実施と採点評価、②リアクションペーパーにコメントを記載し返却、③採点評価やコメントに関する質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｂ:授業内発表の成果で評価する。 ◎Ｄ:小テストおよび定期試験の成績で評価する。 授業貢献度、課題、プレゼンテーション　30% 小テスト 30% 定期試験　40%
テキスト	Hello, English-English for Teachers of Children, 相羽千州子ほか著, 成美堂、2018年. その他英語の歌や、塗り絵、ゲーム、工作などのアクティビティのプリントを配布する。
参考書	授業の際に指示する。 本学の図書館にもたくさん英語の絵本があり授業内でも使用するので、積極的に活用することを推奨する。
履修上の注意	テキストや辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、度重なる場合は減点対象とする。 多くの絵本に触れるので定期的に図書館にいくこと。近隣の小学校見学はコロナ禍、予定が変更する可能性がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用。 Zoom, Google Classroom, Powerpoint等。

講義科目名称： Teaching English to Children 3　　授業コード：2141　2142

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
松井恵美子、Ivan Botev			
ナンバリング：E32B16	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業は、児童英語講師や英語指導補助員を目指す学生にとって必要な知識や技術を身につけることを目標としている。実際に小学校の外国語活動で使用されているテキストを用い、教育指導案作成方法や授業運営方法について学ぶ。補助員を目指す学生は実地体験を行う。 （授業目標） ○Ｃ:児童対象の授業の有効的な進め方を的確に判断できる思考力を養う。 ◎Ｅ:自然な英語表現、正しい発音、イントネーションで教室英語を使うことができる。
授業計画	1　オリエンテーション・インターンシップの振り返り　（プレゼンテーション：インターンシップ参加者による報告） 授業の進め方について概説する。夏休みのインターンシップ報告と振り返りを行う。 2　世界のいろいろなことばでのあいさつ表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 世界の挨拶表現やお互いに名前を伝え合うことを指導する方法を学ぶ。 3　英語の挨拶表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 感情やジェスチャーの大切さや状態を尋ねる表現を指導する方法を学ぶ。 4　数え方の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 1から20までの数の言い方や数の尋ね方を指導する方法を学ぶ。 5　好みを尋ねる表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 好みを表したり、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 6　自分の好みを答える表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 何が好きかを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 7　アルファベットの指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） アルファベットとその読み方を指導する方法を学ぶ。 8　欲しいものを尋ねたり答えたりする表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 9　身の回りのものの言い方や何かを尋ねる表現の指導法　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 身の回りのものの言い方やあるものが何かを尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 10　絵本を使った指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 日本語と英語の音声やリズムの違いに気づかせ、誰かと尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 11　遊びの表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） さまざまな動作、遊びや天気の言い方、遊びに誘う表現を指導する方法を学ぶ。 12　曜日の言い方や尋ね方の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 曜日の言い方や、自分の好きな曜日について尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 13　時刻や生活時間の表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 時刻や生活時間の言い方や尋ね方、自分の好きな時間について伝える表現を指導する方法を学ぶ。 14　持ち物を尋ねたり答えたりする表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 文房具などの学校で使うものや、持ち物を尋ねたり答えたりする表現を指導する方法を学ぶ。 15　自分の好きな場所の案内や紹介表現の指導　（グループワーク、プレゼンテーション：グループで指導方法を検討し発表） 教科名や教室名の言い方、自分の気に入っている校内の場所に案内したりその場所について伝える表現を指導する方法を学ぶ。

学習成果・ 到達目標・基準	この授業では、児童英語教育の基礎とその具体的な実践方法を学ぶことで、将来子供に英語を教える際に留意する点や心掛ける点についてきちんと理解し、効果的な授業運営方法を身につける。また、子供に英語を教えるためには確実な英語力が要求されるため、自分自身の英語力を磨く必要がある。 ○C:児童英語の授業において、相手の年齢に応じて効果的に授業を進めることができる。 ◎E:簡単な絵本を、正しい発音、イントネーションで読み聞かせができる。
事前・事後学習	事前学習：対象となっている教科書のユニットの予習を行い、分からない語句は事前に辞書で調べておくこと。（30分） 事後学習：単語の復習ならびに指示された課題に取り組むこと。（60分）
指導方法	授業の初めに、前回の授業内容に関する復習小テストを実施する。その後、子供に英語を教える際に必要な英語表現を学び、問題演習を通して知識の定着を図る。また、英語のアクティビティ、ゲーム、歌などを体験し、英語教育指導法の基礎を学ぶ。 フィードバックの方法: ①小テストの実施と採点評価、②リアクションペーパーにコメントを記載し返却、③採点評価やコメントに関する質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○C:授業内の発表の成果および定期試験の成績で評価する。 ◎E:授業内発表の完成度で評価する。 授業貢献度、課題、プレゼンテーション　30% 小テスト 30% 定期試験　40%
テキスト	New Horizon Elementary 5,6 Picture Dictionary 文部科学省，東京書籍. その他英語の歌や、塗り絵、ゲーム、工作などのアクティビティのプリントを配布する。
参考書	授業の際に指示する。 本学の図書館にもたくさん英語の絵本があるので、積極的に活用することを推奨する。
履修上の注意	テキストや辞書等の忘れ物も授業への取り組みの妨げとなるので、度重なる場合は減点対象とする。英語補助員資格を取得予定の学生は近隣小学校への実地体験も必要となる。（コロナ禍予定変更の可能性あり）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用。 Zoom, Google Classroom, Powerpoint等。

講義科目名称： Presentation in English　　授業コード：2231　2232　2233　2234

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
松井恵美子、森田千草、Ivan Botev			
ナンバリング：E32B17	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This is a presentation skills course for learners of English as a foreign language. The course features linguistic skills and communicative activities based on a process approach to giving presentations. It is an opportunity to improve the important life skill of public speaking on a topic of interest to an audience. A/S grade goals include a high level of preparation, practice and production. Giving presentations that are well organized, paying attention to delivery (facial expressions, posture, eye contact, gestures, and intonation) and the use of visual aids is important. (Goals) ◎Ｂ: Students will develop the life skill of speaking clearly and effectively to an audience. 〇Ｅ: Students will deliver several presentations to the class.
授業計画	1 Introduction Course outline, requirements, expectations, textbook, and additional materials The basic structure of a presentation 2 Getting ready (Group work, interview, discussion). Lifestyle survey: Talk about classmates lifestyle and presentation experience Questionnaire 3 Planning a presentation (Pair work) Presentation steps (preparation stage) 4 Brainstorming (Group work) Organizing notes Presentation techniques 5 First presentation about you (Give a presentation) Plan and give a one minute presentation 6 A good friend (Pair work) Interviewing classmates Talk about personality, interests and activities 7 Organizing ideas (Group work) Brainstorming Outlining a presentation 8 Introductions and conclusions (Discussion) Openers and closers Presentation techniques 9 Planning and preparation (Pair work) Organizing notes for the second presentation Practicing presentations 10 Second presentation (Give a presentation) Give a presentation about a good friend (3 minutes) Feedback 11 A favorite place (Discussion) Exploring the topic Vocabulary 12 Focus on language and organizing ideas (Group work) Descriptions and activities Creating a presentation outline Developing techniques, gesture and body language 13 Brainstorming (Group work) Organizing notes Presenting with impact 14 Preparation and practice / Tips for presenting online (Discussion) "A Favorite Place" Final presentation (five minutes) Practical advice on how to better give your presentation online 15 Final Presentation (Give a presentation) Giving a presentation in front of class Teacher to assess and grade (in class)
学習成果・ 到達目標・基準	The goals includes participation to the best of your ability in all activities. To prepare and deliver several presentations demonstrating an improvement in organization of notes, content and techniques. ◎Ｂ: The goal is to build confidence to enable students to speak in front of an audience. 〇Ｅ: Students will learn skills and formats to deliver informative presentations in front of their classmates.

事前・事後学習	Students are required to complete homework and practice their presentation outside class. (30 mins) Students must take notes on vocabulary as well as make drafts and notes for their presentations. (60 mins)
指導方法	Classes will be taught primarily in English. Video materials will be used to demonstrate skills and provide examples of the type of presentation required. Continuous personal feedback about progress and participation in class given by teacher to all students. Progress will be checked and evaluated throughout the semester. A series of three presentations will be given by all students. Each presentation will be marked and assessed and graded by the teacher. The results and comments will be shared with each student. Advice will be given for areas for improvement.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ: Students will be evaluated based on their performance in class. 〇Ｅ: Students will be evaluated on their presentations. In-class Presentations 25% Overall participation and progress 25% Final presentation 50%
テキスト	Present Yourself 1: Experiences. Steven Gershon, Cambridge University Press, 2015.
参考書	
履修上の注意	Students need to complete all assigned presentations. Keeping a notebook and vocabulary list is recommended for this class.
アクティブ・ラーニング	Presentations, group work, discussions, pair work, and interviewing.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Researching information online, in-class video. Zoom, Google Classroom.

講義科目名称：　ヨーロピアン スタディーズ　　授業コード：2281　2282

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
Rossi Erika			
ナンバリング：E13C18	B 対面＋Classroom併用型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	イタリアの地理・歴史をベースに学びます。また、イタリア人講師による日本では知られていないイタリアの素顔に迫る話を交え、イタリアで生まれた宗教・芸術・食生活・ファションや国民性など、イタリア文化についての知識を深めます。 ◎Ｃ:地域別に異なるイタリア人の文化や表現を知ることで、偏見や差別に捕らわれない公正な判断に基づいて、イタリアの「歴史、美術、デザイン、ファッション」の文化について、自分の意見を述べることができる。 〇Ｄ：イタリアの建築物、絵画、街並みを見て、背景にある歴史、文化、宗教について理解する。
授業計画	1　地理（グループディスカッション） イタリアの国土・気候の特徴と主な農作物の関係について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 2　歴史 古代ローマ帝国からキリスト教の誕生を経て、現在のイタリアが共和国として統一されるまでを学ぶ 3　宗教　１　（グループディスカッション） キリスト教の誕生とローマカトリックの歴史。現在の宗教儀式についてを学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 4　宗教　２ 宗教的な年間行事と季節ごとの習慣についてを学ぶ 5　教育（グループディスカッション） イタリアの教育（学校）制度と日本との相違を学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 6　食習慣 現在のイタリア料理が確立されるまでの歴史と、その食材について：イタリア人の食生活 7　芸術　１（グループディスカッション） イタリア絵画の歴史。ビサンティンからルネッサンスを経てバロックまでの代表作品とその作者： レオナルドダヴィンチ・ミケランジェロ等 各グループでグループディスカッションを行う 8　芸術　２ 各都市にある主要な歴史的建築物と代表的な彫刻作品：ベルニーニ、ボロミーニ等 9　オペラ 世界中の人々を魅了するオペラの誕生と歴史について学ぶ 10　経済（グループディスカッション） イタリアの就業状況、伝統的職人技術と現在の生産物の関係、地方格差について学ぶ 各グループでグループディスカッションを行う 11　国民性 イタリア人の特徴と日本人との比較、人付き合いや家族との関係性について学ぶ 12　ファッション イタリアの服飾の歴史。エトルリア人からミラノコレクションまで： ＧＵＣＣＩ・ＰＲＡＤＡ・ＦＥＲＲＡＧＡＭＯ・ＡＲＭＡＮＩ等 13　映画１（グループディスカッション） イタリア映画の誕生と歴史。代表的な作品の紹介 各グループでグループディスカッションを行う 14　映画２（グループディスカッション） 映画鑑賞 Life is Beautiful（１） 各グループでグループディスカッションを行う 15　映画3、復習（グループワーク） 映画鑑賞 Life is Beautiful（２）、学生をグループに分け、学生同士で復習する
学習成果・ 到達目標・基準	今の日本には身近にイタリアに関する事が数多く見掛けられます。街にはイタリアレストランや有名ブランドのブティックが並び、ルネッサンス絵画の展覧会やオペラの上演と言ったイベントも開催されます。但し、イタリアが実際どのような国かという事は、あまり知られていないのが現状です。この授業を通してイタリア文化の中でもルネッサンスの大事なアーティスト、住まい、ファッション、デザインと食文化に関する知識を身に付けます。 ◎Ｃ:地域別に異なるイタリア人の文化や表現を学ぶことで、イタリア人と日本人との比較を自分の言葉で伝えることができる。

	○Ｄ：レオナルド、ミケランジェロ、アルマーニ、グッチについて説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に指示されたテキストの該当箇所を読み、分からない単語は調べておく事。（約60分） 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容から出題する小テストを行うため、必ず前回の授業の復習を行うこと。（約60分）
指導方法	イタリアに行ったことのない学生にも分かり易くする為、写真等の資料を活用する。 一方的な講義ではなく、気軽に質疑応答が出来る環境をつくり、学生とのコミュニケーションがとれる体制をつくっていく。 毎回授業の始めに、前回の授業内容から出題する小テストを行う。 フィードバックとして、小テストを返却後、学生が間違えた箇所に関しての説明を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加も評価対象とします。 ◎Ｃ:グループでのプレゼンテーションで評価する。 ○Ｄ：毎週の小テスト・定期試験で評価する。 授業への積極的な参加、授業態度　20% 小テスト（全13回）40% 定期試験　40%
テキスト	テキスト：『古代ローマ人の２４時間よみがえる帝都ローマの民衆生活』アルベルト・アンジェラ 著関口　英子 訳、河出文庫と授業でPPTのスライドや視覚資料を使用します。
参考書	必要に応じて授業内でアナウンスします。
履修上の注意	イタリアという国に興味がある方に受講して頂きたい。初回の授業で受講に必要なテキストを用意する為、必ず1回目から参加して下さい。 度重なる欠席・授業中の居眠りやお喋りなどは、成績評価に反映されます。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： アジアン スタディーズ　　授業コード：2351　2352

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
李泰文			
ナンバリング：E13C19	B 対面＋Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	異文化を理解する「理解力」を基にし、自分の考えを伝える「コミュニケーション能力」を養うことが目標で特に、韓国社会と文化などについて知識や理解を深めていく。 (授業目標) ◎Ｃ：主題に相応しい内容を整理・分析して体系的に書くことができる。 〇Ｄ：日・韓両国の社会や文化を比較しながら理解し、実例などを挙げて説明できる。
授業計画	1　講義の内容説明 講義のガイダンス 異文化とは、何をどのように学ぶか (アンケート実施：韓国のイメージとこの授業で学びたいテーマは？) 2　朝鮮半島の地理的な接近 地理・気候・地域特徴など朝鮮半島について基礎知識を学ぶ (クイズ：地理的な特徴と民族性、気候と生活、山や川と郷土性など) 3　朝鮮・韓国の歴史 古朝鮮・三国時代・高麗・朝鮮、そして近代・現代までの流れ 東アジア・日本との関連性 (クイズ：日本と関連がある祝日は？) 4　韓国人の精神 血縁、地縁、学縁など縦社会と横社会の韓国 男児・男性中心的な社会と徴兵制の実施 (クイズ：韓国の男ってママボーイ？) 5　韓国人の一生（ディスカッション） 冠婚葬祭を通して韓国人のライフを理解 出生の秘密から百日・一歳のお祝い お見合い結婚から現代の恋愛事情 (ディスカッション：男女平等は可能？) 6　衣生活 白衣民族とも呼ばれる韓国人の衣生活について 韓服の特徴と着物との比較 (クイズ：チマチョゴリって？) 7　住生活 マダン、オンドル、住宅事情 四季、梅雨、農業などの関係 韓国の賃貸は違う、何が異なるか。 (クイズ：ドラマの中の家から見える韓国社会) 8　食生活① 米文化：ご飯、餅、お酒 食事マナー：匙と箸、器、お膳 楽しい「ビビンバボックス(韓国文化体験セット)」を使用（韓国文化院の協力） 9　食生活②（ディスカッション） キムチの歴史と種類など キムジャン前線は何かな (ディスカッション：何故、キムチが好きですか？) 10　日韓交流史①（ディスカッション） 朝鮮通信使の歴史と意味 朝鮮通信使は今の韓流って？ (ディスカッション：こんな物が交流出来たら…) 11　日韓交流史②（ディスカッション） 李方子女史の生涯と功績 政略結婚って何？ (ディスカッション：私が国際結婚したら…) 12　日韓交流史③ 日韓の大衆文化と若者文化の比較 K-POPとJ-POPの違いは？ (自由発言：私が好きな…) 13　日本の中の韓流（ディスカッション） 韓流からグルメ情報まで 新大久保の変遷から見える韓流事情

	(ディスカッション：ここが不思議、韓流) 14　韓国の中の日流（ディスカッション） 和食からドラマ・映画・漫画・小説など 若者の街で流行っている日本文化は (ディスカッション：これも紹介して欲しい日本の文化) 15　日本社会と在日 日本映画の中で描かれている在日像:＜血と骨＞＜パッチギ!＞＜GO＞など 在日って何、その背景は？ 在日の人で有名人は誰がいるかな (クイズ：通名と社会進出、そしてカミングアウト)
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｃ：好きなテーマを序論・本論・結論・参考文献の構成でまとめることができる。 ○Ｄ：日・韓両国の社会や文化の類似点を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：新聞や雑誌などで韓国関連の記事やコラムなどを調べて、疑問など感想を書いて提出すること。（60分）事前にWeb Classの資料や文書を予め読んでおくこと。（30分） 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、その要点などを整理して書いておくこと。（90分）
指導方法	①クイズの場合は前回の講義内容との関連性を基で行う。 ②テーマによってはグループに分けて討論して、発表してもらうこともある。 ③学生達が提出した課題の記事、コラムなどの資料から新しい情報や知識を得る。 ④講義:ビデオ、写真、実物など様々な視聴覚資料を利用して理解を深める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｃ：期末レポートを評価する。 ○Ｄ：5回の課題提出・クイズを評価する。 授業態度・貢献度など　10% 5回の課題提出・クイズ 20% 期末レポート　70%
テキスト	なし(Google Classroomに資料や文書を公開、授業中にプリントを配布)
参考書	コリアンワークス(著)『知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典』(PHP研究所、2002.1) 高月 靖(著)『徹底比較 日本 vs. 韓国』(河出書房新社、2008.8)
履修上の注意	5回の課題提出を忘れないこと。 発表、意見交換やディスカッションなどに積極的に参加すること。 Web Classと授業中に配布した資料などは保管して定期試験に対応すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	駐日韓国文化院　www.koreanculture.jp コリアネット　japanese.korea.net 韓国観光公社　japanese.visitkorea.or.kr 韓国旅行情報　www.konest.com

講義科目名称： アメリカン　スタディーズ　　授業コード：2361　2362

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
清水マイケル政路			
ナンバリング：E13C20	B 対面＋Classroom併用型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	アメリカの歴史と文化史について概説し基礎知識を学びます。文化的、人種的、政治的背景をふまえて様々な問題を多角的に分析します。受講者には、毎回の講義内容についてリアクションペーパーを提出してもらいます。また、授業ではテキストだけでなく関連のある映画作品を鑑賞し、アメリカの歴史・文化史がどのように視覚的に表現されているかを学び、クラスで意見・考察・疑問点等を共有します。 (授業目標) ◎Ｃ：アメリカ史について知識と理解を深め、歴史的・文化的背景を踏まえて映画を分析し、映画に対する造詣を深めることができる。 ○Ｄ：アメリカ史の重要な文化的・歴史的出来事について、複数の視点から自分の言葉で説明することができる。
授業計画	1 Course Introduction Explanation of how this course will be conducted Introduction to American History 2 History of America (Discussion) Role of American Myths 3 History of America Before Columbus American Revolution 4 History of America (Discussion) The Birth of the United States 5 History of America The Civil War Years 6 History of America (Discussion) The Roaring Twenties 7 History of America 1920s and American Dream 8 History of America (Discussion) World War and America 9 History of America Cold War and America 10 History of America (Discussion) 1960s and Civil Rights Movement 11 History of America 1970s and America 12 History of America (Discussion) America in Literature 13 History of America Anti-American Dream 14 History of America (Discussion) U.S. Presidency 15 History of America American Dream
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｃ：アメリカ史の重要な出来事を理解することができる。 ○Ｄ：アメリカ史における重要な出来事の一つである、南北戦争とアメリカンドリームについて、自分の言葉で説明することができる。
事前・事後学習	事前学習:アメリカの歴史に関心を持ち、アメリカ関連記事を読んでおく。テキストで扱う章を事前に読んで小テストの準備をする。(約90分) 事後学習:授業内で学んだアメリカの歴史や文化について毎回復習する。授業で扱ったテキストの章を必ず一度は再読する。　(約90分)
指導方法	講義だけではなく、随時ビデオなども使用して、視覚的にも理解を深められるよう指導します。また、リアクションペーパーや小テストなども随時導入し、学生の理解度にそったペースで授業を進めていきます。 （リアクションペーパーに小テストの回答と授業コメントや質問等を書き、回収。コメントをして学生に返却）

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｃ：リアクションペーパー、小テストで評価します。 ○Ｄ：課題、定期試験で評価します。 授業参加度・リアクションペーパー 30% 小テスト 20% 定期試験 50%
テキスト	石出法太他編『これならわかるアメリカの歴史 Q&A』　(大月書店、2015年)
参考書	亀井俊介編『アメリカ文化史入門』（昭和堂、2006年） 笹田直人他編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2002年） 奥村みさ他『映画でわかるアメリカ文化入門』（松柏社、2007年） 齋藤真、他監修『アメリカを知る事典』（平凡社、1986年）
履修上の注意	主体的に学ぶ意欲のある学生を対象とします。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： 国際関係論　　授業コード：2321　2322

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
中野実			
ナンバリング：E23C21	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	（授業内容）国際関係論は国家間を取り巻く様々な事象を多角的に分析する学問です。そこには国家の存在が前提としてあります。近代国家がどのようにして生まれ、どのような歴史を辿ってきたのかを理論を交えて考え、いま起きている国家間の問題を考察していきます。また国家の枠を超える多様な問題に対して世界がどのように取り組んでいるのかに注目します。そして最後に、これらの理解をベースに私たち日本の取り巻く環境を考えることを目的としています。 （授業目標） 各自が関心を持つ国際問題を一つ取り上げて、その問題の背景（なぜ起こったか）と現状（どうして解決できないのか）を説明し、自らの見解も含めて発表できること。また授業で取り扱ったいくつかの国際的な事象を複数の視点を交えて説明でき、取り組むべき課題を提示できるようになること。 ◎Ｃ：国際的な事象を断片的に見るのではなく、多角的な視点で見られるようになり、理論も取り入れながら自身の見方や考え方を提示できるようになる。 ○Ｄ：現在メディアなどで取り上げられている国際問題を歴史的背景や現状を含めて説明できるようになる。
授業計画	1　イントロダクション：国際関係論とは 授業計画や評価基準を明確にし、国際関係論とはどういう学問なのかを説明する。 2　国民国家と主権：近代国家システムの構築と国家の意味を理解する。 いま当たり前のように存在している国家はどのようにしてできたのか？そして世界中にある国家はどのような関係で成り立っているのかを考える。 3　国家と戦争：戦争の歴史を考察する。 近代国家成立後、世界は国家間戦争を繰り返してきた。それらの戦争は国家間関係にどのような変化をもたらせたのかについて考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 4　冷戦：冷戦について理解する。 第2次世界大戦後、大国は直接戦うことなく対立してきた。それはなぜ始まって、どういう仕組みで、なぜ終結したのかについて理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 5　国際関係理論：リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム 国際関係理論の三大潮流と言われる三つの理論を考察し、国家の行動を理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 6　EUⅠ：欧州統合の歴史 なぜヨーロッパが統合を目指したのか？その統合の歴史を理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 7　EUⅡ：機構と統合理論 EUはどのような機構で構成されているのかを理解したのち、EUは何を目指しているのかを考察する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 8　国際連合：国際連合の役割を理解する 国際連合の創設から仕組み、そして現在の役割に至るまでを理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 9　地域主義と多国間協定：いま日本を含めどういう関係が構築されているのか ヨーロッパ以外の地域や二国間・多国間の取り決めについて理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 10　最新国際問題：授業を行っている時期の最新の話題を取り上げる 国際関係は常に動いているので最新の問題を取り上げ、その背景や問題点について考察する。例えば過去にはアメリカ大統領選、米中問題、北朝鮮問題、イギリスのEU離脱などを取り上げた。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 11　グルーバル・ガバナンス：移民・難民、環境、そして疾病問題を考える 国家間では解決できない諸問題について、どのような取り組みが行われているか考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 12　国家とテロリズム：21世紀に入って増え続けるテロについて考える テロはなぜ起こるのか、そして国家とはどのような関係があるのかという視点でテロについて考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 13　日米関係と安全保障条約：　なぜ日本はアメリカと同盟を結び日本国内にアメリカの基地があるのか 黒船来航からの日米関係と戦後安全保障について理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 14　日本の戦争：明治以降、日本はなぜ何度も戦争してなぜ最後は負けたのかを考える 鎖国から第2次世界大戦まで日本のその当時の見方や意識を理解して、なぜ戦争してなぜ最終的に無条件降伏したのかについて考える。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション） 15　日本と周辺国の国際関係：日中、日韓、日露など日本を取り巻く国際関係を考える 戦後の領土問題や感情の問題について背景も含めて考察し問題点を理解する。（関心を持つ国際問題に関するプレゼンテーションとそれに対するディスカッション）

学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｃ：主要な国際関係理論や様々なアプローチを理解し、今暮らしている世界をそれらの理解に基づいて見られるようになる。 ○Ｄ：これまでの国際関係史を理解し、過去の事象を一つ以上の視点で説明できるようになる。
事前・事後学習	事前学習としては、最新の国際問題をメディアなどから収集し、それらがなぜ起きているのかを調べること。（60分） 発表の準備として、国際問題を一つ取り上げ、その背景と問題点を整理し、自らの視点を提示できるようにすること。（60分） 発表者以外は、その日に発表で取り上げられた国際問題を授業後に自らも調べて違う視点で見るよう努めてみる。（60分） 全員の事後学習は、授業内容をまとめて自らの言葉で要約すること。（60分）
指導方法	授業資料（プリント）を配布し、パワーポイントを使用して動画や写真を適宜利用しながら授業を行う。毎回数名に国際問題を題材にした発表をしてもらい、その発表内容についてのディスカッションを行う。 また中間に課題を出題し、Googleクラスルームで提出してもらう。 フィードバックの仕方:　発表時の直接評価やアドバイス。課題の評価返却。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	受講態度（10%）、発表（20%）、課題（20%）、定期試験（50%） ◎Ｃ：国際問題に対する見方や考え方を発表、課題、定期試験で判断する。 ○Ｄ：国際問題を理解する上で必要な知識を課題、定期試験で判断する。
テキスト	教科書指定なし。授業資料（プリント）を毎回配布予定。
参考書	三船恵美（2012）基礎から学ぶ国際関係論、泉文堂　他
履修上の注意	各自が関心を持つ国際問題を一つ取り上げて、その問題の背景（なぜ起こったか）と現状（どうして解決できないのか）を説明し、自らの見解も交えて発表してもらう。 これからの時代、国際関係と無縁な社会生活はあり得ません。関心を持って授業に臨むこと。なお最新の国際問題も取り扱うためその時の国際情勢によっては授業計画が一部変更する場合があります。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション（発表）、ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Googleクラスルームでコミュニケーションを図るとともに、課題や事前準備用プリントなどをGoogleフォームやドキュメントを利用して掲載。またZoomを利用した授業ではチャット機能や投票機能も活用。

講義科目名称： 国際マナー (U・S)　　授業コード： 2331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
小林千春			
ナンバリング：E23C22	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	グローバル化が進む現代社会において異文化への理解はとても大切である。この授業では、世界には様々な文化や歴史を背景にした国々が存在し、異なる常識があることを理解する。イギリス人作者の視点から語られた、異文化の体験を英語で読みながら異なる文化への理解を深め、グローバル社会において異なる文化を持つ人々と共存していくためのヒントを探る。 （授業目標） ◎C：世界に異なる文化・マナーを持つ国があることを理解し偏見や差別にとらわれず公平で柔軟な思考を身につける。 〇D：興味を持ったトピックを選び、知識と理解を深める。英語の表現として大切な語彙・イデイオムを学ぶ。
授業計画	1 Introduction 授業概略説明 映画『Pretty Woman』 前半で、主人公のマナーや、服装、言語食事のシーンなどに注目し、映画の中で主人公にどのような変化が現れるか、また真のeleganceに関して考察する （Google classroom:授業の課題を提示） 2 Greeting Should we kiss or bow? 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 挨拶に関しての異文化事情を学ぶ 日本と他の文化圏における挨拶の違いをディスカッションする （Google classroom:授業の課題を提示） 3 Using gestures Confusing signals 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ ジェスチャーに関しての異文化事情を学ぶ （Google classroom:授業の課題を提示） 4 Making contact What's in a name? 本チャプターで扱った国に関しての情報や名前に関する異文化事情を学ぶ このチャプターで学んだ名前に関する異文化事情をディスカッションする （Google classroom:授業の課題を提示） 5 Dressing Dress code 本チャプターで扱った国に関しての情報を学び、ドレスコードに関する異文化事情を知る （Google classroom:授業の課題を提示） 6 Moving and touching What language does your body work? 異文化における空間に関する要求度を学ぶ 本チャプターで扱う国の基本情報を学ぶ 列の作り方などに関してディスカッションする （Google classroom:授業の課題を提示） 7 Chatting さまざまな国で会話に関するマナーやエチケットについて学ぶ トピックとしてどのようなものがふさわしいか、また食事中の会話に関しての異文化事情を知る 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 日本と外国に関する会話に関する違いをディスカッションする （Google classroom:授業の課題を提示） 8 Choosing your language What language does your body speak? 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 言語に関する先入観を学ぶ （Google classroom:授業の課題を提示） 9 Eating and drinking Is it still alive? 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ 異文化における食文化が歴史や環境に左右されていることを学ぶ （Google classroom:授業の課題を提示） 10 Gift-giving It's lovely-- what is it? 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ 文化によって贈り物にはふさわしくないものがあることを学ぶ （Google classroom:授業の課題を提示）

	11　Time-keeping Better late than never? 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ 時間の概念が国によって大きく異なることを知る （Google classroom:授業の課題を提示） 12　Working toghether Who goes home first? 職場での付き合いに関しての異文化事情を学ぶ ランチタイム、テイタイム、仕事後の付き合いなどの文化の異文化事情を知る 本チャプターで扱った国に関しての基本情報を学ぶ （Google classroom:授業の課題を提示） 13　Visiting homes How does your shower work? 外国でゲストとして招かれた場合のマナーに関する異文化事情を学ぶ 本チャプターで扱った国に関しての情報を学ぶ 家庭を訪問する際の異文化事情を学ぶ （Google classroom:授業の課題を提示） 14　Final Presentation　1 教科書の中で扱ったトピックの中から各自の興味をもったテーマを見つけ、発展させ、 およそ10-min. Presentationをペアまたは単独で行う Presentationは英語または、一部日本語使用するかを選ぶことができる またaudience になった学生は、Presentationに対する評価をEvaluation Sheetに記入する （Google classroom:授業の課題を提示） （プレゼンテーション：担当者による発表） 15　Final Presentation　2 教科書の中で扱ったトピックの中から各自の興味をもったテーマを見つけ、発展させ、 およそ10-min. Presentationをペアまたは単独で行う Presentationは英語または、一部日本語使用するかを選ぶ またaudience になった学生は、Presentationに対する評価をEvaluation Sheetに記入する （Google classroom:授業の課題を提示） （プレゼンテーション：担当者による発表） 状況により扱うChapterの順序が変わることがある。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｃ：異文化に関しての理解を深めることにより、偏見や差別のない柔軟な思考を身につけ、自分の考えをまとめたプレゼンテーションを行うことができる。 ○Ｄ：知識・理解を深め、興味を持ったトピックをさらに掘り下げ説明ができる。文化の違い等を英語で表現をする際、　重要な語彙とイデイオムを100程度修得し使いこなすことができる。
事前・事後学習	事前の学習として、教材で扱う内容の英文の中の単語の意味を確認し、英文を訳せるように予習すること。単語テストの準備をすること。担当になった国に関してのプレゼンテーションのための準備をすること。（合計およそ60~90分） 事後学習として、単語の復習並びに訳せなかった箇所の見直しを行うこと。 扱ったユニットに関しては、Google　Classroomに訳をアップするので、不明点は復習の際に確認すること。 次週の単語テストのための勉強をすること。 最終プレゼンテーションのための準備を授業外で行う。（およそ50分）
指導方法	英語で書かれたエッセイに関して内容の説明を行う。重要な単語やイデイオムに関する説明を行う。 各トピックについてクラス全体でディスカッションをする。授業で読む箇所の予習は必須である。 トピックに沿ってディスカッションしたり、各自の意見を小レポートとして提出してもらうこともある。 授業の課題や小テストのフィードバック：授業中の課題や小テストにはコメント等を記載し返却する。また、授業後やオフィスアワーで質問などに対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｃ：レポート、プレゼンテーション等で評価する ○Ｄ：毎回のボキャブラリークイズ、課題等で評価する 授業への貢献度10%　小テストとレポート30%　プレゼンテーション30% 課題　30%
テキスト	プリントを用意する。
参考書	国際マナーを具体的に理解するために映画などを使用することもある。
履修上の注意	コロナ感染防止対策として対面授業で登校する週とオンラインで受講する週があるので 間違えないようにすること。 予習として必ず不明な単語を調べること自分で訳して授業に参加すること。 復習として課されたアサインメントをしっかり行うこと。 授業は連続して進めているので、毎回出席するようにすること。 扱ったユニットの訳に関しては、翌週にGoogle classroom:にアップするので確認すること。 授業には、積極的に参加すること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroomに資料をアップする 授業内容を把握するためPowerPointを使用する。

講義科目名称： 国際マナー（T・R）　　授業コード： 2332

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
森田千草			
Subject Code：E23C22	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	グローバル化が進む現代社会において、異文化を理解することは不可欠である。この授業では、各国の歴史・文化・社会を学び、世界や自国に対する理解を深めることを目標とする。 (授業目標) ◎Ｃ： 異なる文化やマナーがあることを理解し、偏見や差別にとらわれず、公平で柔軟な思考を身につける。 ○Ｄ： 各国の歴史・文化・社会について書かれた英文を読み、正確に理解することができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業の概要、進め方、テキストなどについて説明する。また、国際マナーとは何かを学ぶ。 2　Chapter 1 Australia オーストラリアの文化や歴史、また環境問題について学ぶ。 3　Chapter 2 Indonesia （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 他民族国家であるインドネシアの多彩な文化について学ぶ。 4　Chapter 3 Singapore （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 都市計画によって整備された国土を持つシンガポールの文化や歴史について学ぶ。 5　Chapter 4 China （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 壮大なスケールと独特の雰囲気を持つ建造物を有する中国の文化と歴史について学ぶ。 6　Chapter 5 Argentina （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） タンゴで有名なアルゼンチンの文化や自然について学ぶ。 7　Chapter 6 Mexico （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） タコスやサルサといった食文化や古代文明遺産で有名なメキシコの文化や歴史について学ぶ。 8　Chapter 7 Germany （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 中世の雰囲気をたたえる美しい古城が残るドイツの文化や歴史について学ぶ。 9　Chapter 8 Finland （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） スウェーデンとロシアに挟まれた北欧の小国であるフィンランドの文化や社会について学ぶ。 10　Chapter 9 Poland （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 美しい古都の街並みを持つポーランドの文化や歴史について学ぶ。 11　Chapter 10 Spain （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） その独特な食文化に焦点を当てながら、スペインの文化や歴史、社会について学ぶ。 12　Chapter 11 Greece （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） ヨーロッパ発祥の地ともいえるギリシャの文化、歴史、社会について学ぶ。 13　Chapter 12 Kenya （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 広大な自然や野生動物等共存するケニアの文化、歴史、社会について学ぶ。 14　Chapter 13 Morocco （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） ベルベル人の伝統食や昔ながらの職人芸などを通して、モロッコの文化や歴史、社会について学ぶ。 15　Chapter 14 Lebanon （プレゼンテーション: 担当グループによる発表） 多彩な歴史を持つ中東の小国レバノンの文化や社会について学ぶ。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｃ： 異なる文化圏への理解を深めることにより、柔軟な思考に基づいたプレゼンテーションを行うことができる。 ○Ｄ： 各国の歴史・文化・社会について書かれた英文を読み、その概要を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習: テキストの該当箇所を読み、内容を理解しておく。またその回に扱う国の基本的な情報について調べておく。(約90分) 事後学習: テキストやノート、配布資料などを見直し、その回に扱った国の文化、社会、歴史について整理をしておく。(約50分)
指導方法	各国の歴史・文化・社会について講義や演習、担当者による発表を通して理解を深めていく。理解度を図るための小テストを適宜実施する。 フィードバックの方法: ①リアクションペーパーにコメントを記載し返却、②提出したレポートにコメントを記載し返却、③返却後に採点やコメントに関する質疑対応

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｃ：レポートやプレゼンテーションの完成度および期末試験の成績で評価する。 ○Ｄ：定期試験の成績で評価する。 授業への貢献度: 15% プレゼンテーション: 15% レポート: 30% 定期試験 40%
テキスト	On Board for More World Adventures, Scott Berlin, Megumi Kobayashi, Kinseido, 2015.
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
履修上の注意	事前にテキストの該当箇所を読み、分からない語句を調べたうえ、内容を理解しておくこと。授業には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称：　ヒロインたちの恋愛と結婚　　授業コード：2381　2382

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E23C23	C Classroom型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	この授業では、社会での女性の立場や家庭における女性の役割の変遷を女性主人公に焦点を当てて講義を行います。たとえば『アナと雪の女王』や『千と千尋の神隠し』といった映像作品のみならず、『ブリジットジョーンズの日記』といった映像化された小説に触れながら、現代女性が置かれた状況について議論します。物語の背景となっている女性の労働や貧困といった実に現代的なテーマについて理解を深めます。 （授業目標） ◎Ｄ：文学作品や映画作品を通して女性にとって恋愛と結婚がどのように女性に影響を与えてきたのかを理解し、物語を歴史や文化と接続し理解することができる。 ○Ｅ：文学作品や映像作品について書かれた文章を自ら読んだり、関連性のあるキーワードなど調べたことをまとめ、わかりやすく説明することができる。
授業計画	1　イントロダクション 授業の進め方を説明し、教科書の使用方法（読み方、キーワード）について説明する 2　ヒロインと働くこと① 『アナと雪の女王』を通じてヒロインの労働を考える 3　ヒロインと働くこと② 『アナと雪の女王』を通じてヒロインの労働を考える 4　ヒロインと働くこと③ 『アナと雪の女王』を通じてヒロインの労働を考える 5　ヒロインと成長① 「成長」物語というジャンルを知り、成長とヒロインの関係を考える 6　ヒロインと成長② 「成長」物語というジャンルを知り、成長とヒロインの関係を考える 7　ヒロインと成長③ 「成長」物語というジャンルを知り、成長とヒロインの関係を考える 8　ヒロインと家事① ヒロインが家事という労働に従事する物語を考える 9　ヒロインと家事② ヒロインが家事という労働に従事する物語を考える 10　ヒロインと家事③ ヒロインが家事という労働に従事する物語を考える 11　ヒロインと現代① 物語の中に描かれる現代のヒロインについて考える 12　ヒロインと現代② 物語の中に描かれる現代のヒロインについて考える 13　ヒロインと現代③ 物語の中に描かれる現代のヒロインについて考える 14　グループ討論①（ペアワーク：映画の内容と現代のヒロインについてペアで議論する） 映画『ブリジットジョーンズの日記』を通じて現代のヒロインがおかれた状況を再確認する 15　グループ討論②（ペアワーク：映画の内容と現代のヒロインについてペアで議論する） 映画『ブリジットジョーンズの日記』を通じて現代のヒロインがおかれた状況を再確認する
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：物語の背景となっている時代や文化を知り、「恋愛」と「結婚」という「制度」について理解することができる。 ○Ｅ：授業中に出てきたキーワードを使い、物語の問題点を指摘することができる。
事前・事後学習	事前学習：資料のあらかじめ指示された部分を精読し、わからない用語、キーワードは各自調べておく。（約90分） 事後学習：授業中に出てきた用語の復習を行い、授業で扱った文章を再読しておく。（約90分）
指導方法	授業では扱う作品に関連する批評を読むことが中心となります。単純に文字を追うだけでは意味を理解したこととはならないため、理解を促進するために毎回の確認クイズを行っていきます。授業で使用する動画や資料はGoogle Classroomを通じて、配布します。履修者は授業時間になったら、各自Google Classroomにアクセスし、配信された授業動画を視聴します。Zoomを使用して、授業冒頭の解説を行うこともあります。フィードバックの方法：①提出したコメントシートを次回の授業冒頭で講評する。②授業後の質疑応答

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｄ：定期試験で評価する。 ○Ｅ：授業への貢献度、課題・提出物で評価する。 授業への貢献度　30% 課題・提出物　30% 定期試験　40%
テキスト	河野真太郎『戦う姫、働く少女』（堀之内出版、2017）
参考書	①日本ヴァージニア・ウルフ協会編『終わらないフェミニズム　「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社、2016） ②北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』（書肆侃侃房、2019）
履修上の注意	授業中は文章を読み、考え、そしておたがいに議論することが中心となります。知的好奇心のある学生さんに履修してもらいたい授業です。みなさんが積極的に授業に参加し、一緒に思考してくれることを担当者は期待しています。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： ジェンダー スタディーズ　　授業コード：2851　2852

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
佐藤美保、高橋大樹			
ナンバリング：E23C24	C Classroom型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	フェミニズムについて学ぶことは、女性である自分自身について学び知ることである。この授業では、女性であることはどういうことであるのか、男性との差異なども学び、シンデレラや白雪姫といった身近な物語から、ジェンダーについての理解を深める。その後、アメリカ黒人女性に焦点を当てることで、アメリカという国の特異な歴史である奴隷制度についての理解も深める。 （授業目標） ○C：異なる考えを持つ人々がいることを理解し、偏見にとらわれることなく、柔軟な思考力を身につける。 ◎D：ジェンダーやフェミニズムについて、おとぎ話や聖書を学ぶことで理解を深める。 ◎D：アメリカの奴隷制度を学ぶことで、どのような差別があるのか、またどうして差別があるのかについての理解を深める。
授業計画	1　Introduction 授業概略説明 2　女性とは？フェミニズムとは？ フェミニズムの基本的な概念を学ぶ 3　ジェンダー（1）（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） 「男」と「女」という分類について学ぶ。『シンデレラ』を読み解く（1） 4　ジェンダー（2）（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） 「母性」という言葉を問い直す。『シンデレラ』を読み解く（2） 5　聖書の中の女性像（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） 聖書の中で、どのようにして女性の地位が確立されたのかを学ぶ。 『シンデレラ』を読み解く（3） 6　ジェンダー（3） 多様な性について学ぶ。『白雪姫』を読み解く（1） 7　ジェンダー（4）（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） インターセックスについて学ぶ。『白雪姫』を読み解く（2） 8　ジェンダー（5） メディアとジェンダーについて学ぶ。『白雪姫』を読み解く（3） 9　アメリカ黒人の歴史（1）（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） アメリカにおける奴隷制度の始まりについて学ぶ 10　アメリカ黒人の歴史（2）（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） アメリカにおける黒人奴隷解放について学ぶ 11　アメリカ黒人の歴史（3）（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） アメリカ黒人の中でも特に黒人女性の置かれている状況について学ぶ 12　フェミニズムの歴史（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） 様々なフェミニズムの運動について学び、その影響力についての理解を深める 13　アリス・ウォーカーについて（1） 『カラー・パープル』における黒人女性像について学ぶ（1） 14　アリス・ウォーカーについて（2） 『カラー・パープル』における黒人女性像について学ぶ（2） 15　The Long Walk Homeについて（グループワーク：グループごとにディスカッションを実施する） 1960年代のアメリカにおける白人女性と黒人女性の地位について学ぶ
学習成果・ 到達目標・基準	○C：異なる考えを持つ人々について偏見を持つのではなく、理解できるようになる。 ◎D：ジェンダーが社会においてどのように理解されているか説明することができる。 ◎D：アメリカの奴隷制度について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：事前にテキストの英文で分からない単語の意味を調べ、英文を訳せるように予習する。（90分） 事後学習：事前に訳せなかった箇所について見直しをし、興味を持ったテーマについて書き留めておく。（90分）
指導方法	テクストの英文については、あらかじめ担当の学生を決め、授業内で訳について確認する。テキスト以外にも、随時サブテキストとしてプリントを配布し、講義形式で授業を進めていく。また、随時テーマに応じた小テストを行い、学生の理解度を確認する。 小テストのフィードバック：小テスト後に、結果にコメント等を記載し、返却、授業後などにコメントへの質疑に対応する

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｃ:小テストにおいて評価する。 ◎Ｄ:ジェンダーについてのレポートで評価する。 ◎Ｄ:小テスト・定期試験において評価する。 授業への貢献度および平常点　１５％ 小テスト　１５％ レポート　３０％ 定期試験　４０％
テキスト	原英一、『お伽話による比較文化論』（松柏社、1997）
参考書	①千田有紀ほか『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013） ②一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた あなたがあなたらしくいられるための２９問』（明石書店、2019）
履修上の注意	担当ではない回でも英文の予習を必ずしてから授業に出席すること。 授業には毎回出席し、辞書を持参すること。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom、PowerPoint資料

講義科目名称： エアライン　ホスピタリティ　　授業コード：2341　2342

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C25	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	多種多様な業種によって成り立っている航空会社。それらの業種を紹介し、業務内容を説明する。 具体的なサービス事例や各社の取り組みを紹介し、エアライン業界におけるホスピタリティマインドを理解する。 キャビンアテンダント・グランドスタッフに求められる素養を紹介するとともに、基礎的な自己分析を実施する。 （授業目標） ○Ａ:授業内の課題・事前学習を主体的に取り組み、紹介する事例を自らの問題として取り組む責任感を養う。 ◎Ｄ:航空業界の職種を知り、安全運航と顧客満足への取り組みを理解する。
授業計画	1　ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明を行う 2　接客業に従事する者に求められる素養と自己分析 自己分析を行う方法を説明し、学生時代に取り組むべき事柄を考える 3　キャビンアテンダントの業務と求められる素養 キャビンアテンダントの業務内容を分析し、求められる素養を理解する 4　グランドスタッフの業務と求められる素養 グランドスタッフの業務内容を分析し、求められる素養を理解する 5　航空産業の概要① 日本の航空業界の変遷・世界の航空業界の動向とアライアンスを理解する 6　航空産業の概要② 一機を飛ばすために様々な職種が協力し合っている、航空業界の仕組みと各業種を知る 7　フルサービスキャリア（FSC)とローコストキャリア（LCC)① 大手航空会社（FSC)と格安航空会社（LCC)の収益構造を比較する 8　フルサービスキャリア（FSC)とローコストキャリア（LCC)②（プレゼンテーション） 大手航空会社（FSC)と格安航空会社（LCC)のサービス内容を、具体的事例を用いて比較する （プレゼンテーション：全員が発表する） 9　航空業界における顧客満足への施策 事例研究を通して、顧客満足への施策を比較する 10　キャビンアテンダントの仕事 長距離国際線を例として、保安要員とサービス要員としての役割を知る 11　グランドスタッフの仕事① グランドスタッフの多岐にわたる業務と魅力を知る 12　グランドスタッフの仕事② グランドハンドリング業務と求められる素養を知り、考察する 13　飛行機の運航を支える仕事① 運航などに関わる業務を紹介する 14　飛行機の運航を支える仕事② 予約などに関わる業務を紹介する 15　エアラインホスピタリティ エアラインホスピタリティの事例研究を行う
学習成果・ 到達目標・基準	○Ａ:グループワークにて、相手の意見を尊重し協働できる。また、自身の意見を自分の言葉で発信することができ、与えられた課題に主体的に取り組むことができる。 ◎Ｄ:航空業界で働くスタッフに求められる人材像のポイントについて説明することができる。
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマにかかわるニュース報道などの情報収集（100分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと航空業界用語・キーワードの確認（80分）
指導方法	パワーポイント・資料配布（クラスルーム）を使って講義形式で行う。 理解を深めるために適宜グループワークを実施し、インプットされた知識の整理とアウトプットを行う。 毎週自身が選んだ記事の発表を行い、業界への理解を深める。 授業の最後に毎回小レポートを記入・提出。 レポートなどの提出物は、Google Classroomを通じ個別コメントでフィードバックをし、授業内での全体講評を行う

アセスメント・成績評価の方法・基準	定期試験・毎回の小レポート・提出物・平常点（授業態度）を総合的に判断する。 ○Ａ:授業での取り組み姿勢と発言を評価する ◎Ｄ:試験と知識確認テストを評価する 授業態度35％ 小レポート・課題（プレゼンテーション）、提出物35％ 定期試験30％
テキスト	晃洋書房『エアライン・ビジネス入門』稲本恵子編著 適宜資料を配布する。 航空に関する新聞記事なども使用する。
参考書	アートヴィレッジ『後悔しないJAL ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	この時期に業界・企業の情報収集能力を身につけることが将来大いに役立ちます。 地道な事前学習ですが積極的に取り組み、習慣化していきましょう。 授業内で紹介する業種にて、自分がどのようなおもてなしが提供できるのか、また、どのような点にやりがいを見いだせるかを考え、自主的に授業に取り組んでください。 JAL ANA のアニュアルレポート(無料) を各自取り寄せてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディベート、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroom , Google form

講義科目名称： エアライン スタディーズ：ＣＡ　　授業コード： 2801

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
有田りな			
ナンバリング：E14C26	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	多種多様な職種によって成り立っている航空会社の中で、顧客満足を左右する大きな役割を担うキャビンアテンダントの事例を取り上げ、様々な客層に高品質なもてなしを提供するために必要な知識（国際理解・マナー）を学ぶ。 キャビンアテンダントの接遇の基本を社会生活におけるコミュニケーションのツールとして利用し、豊かな人間関係の創造と自分への自信に繋げていくことをテーマとする。 (授業目標) ○Ｂ： マナー5原則（表情・挨拶・身だしなみ・話し方・態度）を身につけ、学校生活など日常のコミュニケーションで役立てることができる ◎Ｄ：航空業界の概要を知り、仕事の仕組みや構成のあり方を理解する
授業計画	1　ガイダンス 授業の内容説明とそれぞれの自己紹介（プレゼンテーション）を行う 2　キャビンアテンダントの業務① キャビンアテンダントの役割と業務の流れを大筋で捉える 3　キャビンアテンダントの業務② キャビンアテンダントの業務とサービス向上の取り組みについて知る 4　キャビンアテンダントの業務③ 保安要員としての役割を考える 5　接遇の基本① キャビンアテンダントの接遇スキルの基礎を学ぶ 6　接遇の基本② サービスに適した言葉遣いや言葉の選び方を学ぶ。発声・機内アナウンス 7　接遇の基本③　演習(ロールプレイング) ドリンクサービスなどのロールプレイングを実施 8　経営理念とサービス方針 各航空会社の経営理念やサービス方針・実際行われている取り組みを学ぶ 9　各航空会社の社会貢献活動 プレスリリースなどを調べ、各航空会社の社会貢献活動を学ぶ 10　特色あるエアラインサービスを調べる　（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 機材・路線に合わせた特色あるエアラインサービスについて調査・討議・発表する 11　特色あるエアラインサービスを調べる　（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 機材・路線に合わせた特色あるエアラインサービスについて調査・討議・発表する 12　キャリアビジョンと実現したいサービス キャビアンアテンダントのキャリアを知り、実現したいサービスを考える 13　訪日外国人への「おもてなし」① おもてなしとホスピタリティ 14　訪日外国人への「おもてなし」② 外国人のお客様に機内で日本らしさを感じていただくための「おもてなし」実例を学ぶ 15　エアラインスタディ　（ロールプレイング） 機内で想定される事例のロールプレイング
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｂ：相手の意見を尊重しながら、他者に合わせるべきところと主張すべきところを押さえて、多様な人と関わることができる ◎Ｄ：エアライン・サービスを提供する上で必要な構成要素と業務に携わる人々、必要とされる人材・そのホスピタリティについて説明できる
事前・事後学習	【事前学習】事前に告知したテーマに関わるニュース報道などの情報収集・課題レポート（100分） 【事後学習】テーマごとに配布するプリントの読み返しと課題レポート 毎回の演習内容のリプレイ（80分）
指導方法	配布資料・パワーポイントを使って講義形式で行う。必要に応じ、映像も使いながら進めていく。 ゲストスピーカーを招くことも検討。 授業の最後必要に応じ、サービスやマナーに関する映像も使用する。 事例研究やマナーは実践を取り入れ、体感することで理解を深めるよう進めていく。 毎回Google Classroomでの小レポートを記入、提出。個別フィードバックを加え返却。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｂ：成果物作成やプレゼングループでのチームへの関わり方を評価する ◎Ｄ：学期末テストと授業内での質疑応答の内容を評価する 定期試験、レポート・課題物提出状況、平常点（授業貢献度など）を総合的に判断する。 平常点（授業貢献度など）30% 小レポート・課題提出物30% 定期試験40% レポートなどの提出物は、授業内での全体講評と個別コメントでフィードバックする
テキスト	晃洋書房　『エアライン・ビジネス入門』　稲本恵子編著 適宜資料を配布する 航空に関する記事なども使用する
参考書	アートヴィレッジ『後悔しない　JAL　ANA 外資系CA就職対策決定版』アイザックエアラインスクール編著
履修上の注意	演習を多く取り入れた授業であり、積極的に動く姿勢を強く希望する。サービスをテーマにすることから、常に他者のことを考えた行動を心がけることが必要。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディベート、ロールプレイング
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroom, Google form

講義科目名称： エアラインビジネス スタディーズ　　授業コード： 2811

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
八田圭子			
ナンバリング：E14C27	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	・個別発表、グループディスカッション、模擬面接（グループ）、レポートの書き方を通して、コミュニケーション能力、コーディネーション能力、プレゼン能力、共感力、傾聴力、課題展開力を高める ・企業理念、経営戦略、マーケティング戦略、財務会計を通して経営学基礎を習得するとともに、エアラインと他の業界を比較してエアライン経営の特徴を学ぶ ・空港業務、航空制度、約款、アライアンス、運賃、ダイヤ等、エアラインビジネス特有の基礎知識を習得する ・知識を学んだ上で様々なケーススタディを行い、問題の発見、視点から解決方法まで、自ら考え、表現する力を養う （授業目標） ◎Ｂ：参加型の授業やケースを通して、自分の頭で考え、意見交換を通して、コミュニケーション能力を高める ○Ｃ：エアラインビジネスの知識を踏まえた上で、問題感知・解決、判断に必要な視点を養う
授業計画	1　オリエンテーション 授業概要説明と自己紹介（プレゼンテーション） SPI① 宿題：航空会社ホームページの指定箇所を読んでおくこと 2　航空会社の仕事（全般及び国内線）（グループディスカッション） ひとつの飛行機を飛ばすために活躍する様々な職種の紹介 安全性、定時性、快適性の解説 空港サービス業務のビデオ放映 ケーススタディとグループディスカッション SPI①の解説 3　空港業務（国際線）の仕事の流れ チェックイン（パスポート、ビザ、手荷物、乗り継ぎ）、ＣＩＱ（税関、出入国、検疫）、発着枠、ダイヤの組み方、時差の計算の仕方 SPI② 4　約款とクレーム処理（グループディスカッション） 約款とクレーム処理 クレーム処理のケーススタディとグループディスカッション SPI②の解説 5　GSゲスト講演 GSゲストを招き、空港業務の仕事、教育、育成について学ぶ 質疑応答 講演後、感想を提出 6　エアラインビジネス（財務会計１） 財務諸表（B/S、P/L）とは 財務諸表の仕組みと読み取り方を学ぶ SPI③ 7　エアラインビジネス（財務会計２） 財務諸表（B/S、P/L)の応用 JAL/ANA比較　エアラインと他の業種の財務諸表比較 JALの経営破綻に至った経緯、財務諸表の推移よりエアラインのリスクを知る SPI③の解説 8　企業理念（ミッション、ビジョン、バリュー） 企業理念、ミッション、ビジョン、バリューの考え方を学ぶ ケースにつき、グループディスカッション JALの経営破綻と新たな企業理念や行動規範策定までの経緯を学ぶ JALフィロソフィについて知り、どの言葉に一番共感するかを考える（宿題→発表） 9　経営戦略 ビジョンを実現するための経営戦略の基本について学ぶ ケーススタディについてグループディスカッション グループディスカッションを通して学んだことを基本にしてエアラインの戦略について考える 10　マーケティング戦略 戦略の中でもマーケティング戦略について学ぶ プロダクトアウトとマーケットインの違いを学び、ケーススタディにつきグループディスカッション グループディスカッションを通して学んだことを基本にしてエアラインのマーケティング戦略について考える 社会志向のマーケティングについて学びSDGｓについて考える 11　CAゲスト講演 CAゲストを招き、仕事内容や、教育、育成について学ぶ 実際の話を聞いての新たな疑問、気づき、学びにつき話し合う これまでの授業で話した内容との関連性を確認する

	12　JALフィロソフィの研究とエントリーシートの書き方 JALフィロソフィから自分の好きな言葉を一つ選び、自分の経験に結び付けて発表する（プレゼンテーション） エントリーシートの書き方を学ぶ 話したことがエントリーシートに書きこめるかどうかを考察し、書く練習をする（宿題） SPI④ 13　グループディスカッション演習 5～6人のグループに分かれ、過去問でグループディスカッション お互いに採点し、録画する SPI④の解説 14　グループディスカッション演習の振り返りとエントリーシートの講評、個人面接 エントリーシートの書き方、注意点等、提出された例や実際の例を出しての解説 グループディスカッションの講評と質疑応答 良い例、悪い例のケーススタディ エントリーシートの提出 個人面接の注意点と解説 15　ラップアップと各自感想、決意表明 15回の講義を通しての感想と決意表明（1人2分のプレゼンテーション） アンケート コロナの状況で期末試験をしない場合はレポート課題を発表
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｂ：意見交換を通して他者の考えを傾聴し、自分の考えをより深めてアウトプットすることが出来る 〇Ｃ：ケースを通して知識や視点を学び、エアラインビジネスを実態的に理解することが出来る
事前・事後学習	事前学習： ・SPIの準備をすること（15分） ・航空会社のホームページで指定した箇所を読んでくること（15分） ・航空会社に関するニュースを取り上げ、疑問や考えを纏める（20分） ・課題レポートやプレゼンの準備（120分） 事後学習 ・授業時に出された指示、レポートへのコメントや解説を聞いて改善し、完成度を上げること（30分） ・SPIの見直し（20分）
指導方法	・基本的な理論や知識を習得した後、参加型のディスカッションや相互チェックコメントを通して、複眼的なものの見方を養い、表現できるようにする。 ・フィードバックとして課題レポートは全員にコメントを付けて返却する。授業で課題の捉え方、物の見方、考え方を解説するとともに、学生の中から模範解答を披露する。小テストは回答が自動で返却され、授業で解説する ・ゲスト講師を招き、現業の実際を肌で感じられるようにする
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｂ：積極的な授業参加、課題取り組み意欲、コメントに対して改善努力が出来たかで評価する 〇Ｃ：知識を学ぶ意欲と、グループディスカッションや解説を通して問題に複眼的に取り組めたかどうかを定期試験またはレポートで評価する 課題提出40%、積極的な授業参加・貢献度30%、定期試験またはレポート30%
テキスト	毎回、講師作成のプリントを配布する
参考書	・エアラインビジネス入門（晃洋書房）を一読することが望ましい ・SPI関連の問題集を購入し、1冊仕上げておくことが望ましい
履修上の注意	・エアライン関係への就職を念頭に置いていること ・ゲスト講演時にはリクルートスーツを着用のこと ・参加型の授業で、課題を克服する努力とその過程を評価対象とするため、積極的な姿勢で臨むこと ・授業の進捗や変化するニーズに対応するため、授業計画の変更を行う場合もある ・希望者には講義後、面談を行う
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	スマホ、タブレット、PC等 小テスト、課題はクラスルームまたはメールを利用する

講義科目名称：　エアポート　スタディーズ：ベーシック　　授業コード：2891

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E14C28	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	空港では多くの旅行者の安全で快適な旅を実現するため、航空会社をはじめ航空産業を支える多くの企業が携わり業務も多岐にわたる。エアポートビジネスにはどの様な業務があるのかについて空港業務の概要を学び、空港ビジネスで活躍できる人材となるための知識とスキルを身につける。 (授業目標) ◎Ｂ：自己分析を深め、自信を持って好印象を与える自己PRをすることができる。 ○Ｄ：エアポートビジネスの多種多様な業務内容を理解する。
授業計画	1　エアポートビジネスとは（木内） エアポートビジネスとは何か、空港で営まれている企業と業務を学ぶ 2　エアポートビジネス（ゲスト講師） 多種多様な空港業務があり、それぞれの業務内容を理解する 3　エアポートビジネスに求められる人材とは（ゲスト講師） エアポートビジネス産業の求める人材と採用状況について 4　エアポートビジネス産業の企業研究（グループワーク：国内航空会社の特徴をまとめる） 国内航空会社の種類と業務について（ゲスト講師） 5　外資系エアポートビジネスの企業研究（ゲスト講師）（グループワーク：外資系航空会社の特徴をまとめる） 外資系航空会社の種類と業務について 6　空港業務に携わる人材の表現力（ゲスト講師） 空港業務に必要なコミュニケーション力とビジネスマナー 7　空港業務に携わる人材の身だしなみ（ゲスト講師） 旅行者に好印象を与えるための明るく健康的なメイク、ヘアスタイル、スーツ等の着こなし 8　エアポートビジネスのエントリーシート作成、自己PR・志望動機（ゲスト講師） エントリーシートの企業側のチェックポイントと好印象を与える自己PR・志望動機 9　エアポートビジネスの採用試験（ゲスト講師） ビデオエントリーなどの採用試験の種類と面接会場での立ち振る舞い、注意すべきポイント 10　グループディスカッションと面接のポイント（ゲスト講師）（木内）（グループワーク：個人面接・英語面接練習）（グループワーク：エアライン業界に関するディスカッションをおこなう） グループディスカッションの進め方、企業の着眼ポイント、オンライン面接のポイント 11　グループディスカッションの役割分担等の心得（ゲスト講師）（木内）（グループワーク：エアポートビジネスに関するディスカッションをおこなう） グループディスカッションで司会進行役等のグループ面接の役割分担を学ぶ 12　グループ模擬面接（ゲスト講師）（木内）（グループワーク：グループ面接練習） エアポートビジネス産業のグループ面接 13　個人模擬面接（ゲスト講師）（木内）（グループワーク：個人面接練習） エアポートビジネス産業の個人面接 14　模擬英語面接（ゲスト講師）（木内）（グループワーク：個人面接・英語面接練習） エアポートビジネス産業の個人面接・英語面接 15　就職活動に向けての心得（木内） エアポートビジネス産業への就職活動の準備と心得
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｂ：自己理解を深め、自己PRを1分間ですることができる。 ○Ｄ：エアポートビジネス産業の業務内容を５つ説明できる。
事前・事後学習	事前学習：エアポートビジネス産業の企業研究をおこなう（30分） 自己自身を見つめエントリーシートの文章を作成する（90分） 事後学習：グループワークの面接のタイプに合わせ、きちんと発言できるように練習する（60分）
指導方法	適宜資料（プリント）を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアポートビジネスの採用試験に精通しているゲスト講師を交えて授業をおこなう。 フィードバックの仕方：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。エントリーシート作成、自己PR・志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｂ：授業内での自己ＰＲの発言内容を評価する。 ○Ｄ：エアポートビジネス産業の企業研究レポートを評価する 定期試験（30%）、グループワーク参加貢献度（50%）、企業研究レポート課題（20%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を適宜配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	
履修上の注意	多くのグループワークをおこなうので、積極的に参加しお互いを高めあう意識を持つこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称：　エアポート　スタディーズ：アドバンス　　授業コード：2901

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E24C29	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	空港業務の中で特にエアライン業界の顔ともいえるキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解し、その業務に必要な知識を身に着ける。またホスピタリティ産業の一員として、業務を遂行する上での立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣いなど航空業界、空港業務で活躍できる人材となるために必要な接遇を学ぶ。 (授業目標) ◎Ｃ：企業理念に合わせた自分の強みをまとめる力を身につける。 ○Ｄ：空港業務はどうのような職種があるかを理解する。
授業計画	1　エアラインビジネスのCA・GSとは エアラインビジネスのカスタマーサービス部門の仕事について 2　空港旅客サービスの基礎知識 グランドスタッフの業務を理解する 3　客室業務基礎知識 客室乗務員の業務を理解する 4　企業理念研究（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） エアラインの企業理念を学び、その理念がCA・GS業務にどう影響しているかを理解する 5　企業理念と自己理解（プレゼンテーション：企業理念に合わせた自分の強み） 企業理念と自分の強み、志望動機をプレゼンテーションする 6　表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） ＣＡ・ＧＳの業務から表現力を学ぶ 7　航空旅客業務：搭乗手続 旅券・査証・その他出入国書類の確認、航空券記載内容確認、座席指定と搭乗券発行など 8　航空旅客業務：搭乗手続きに関連して必要な業務知識 出国手続き、予約・発券業務、団体の搭乗手続き 9　航空旅客業務：空港旅客サービス顧客サポート ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務 10　航空旅客業務：到着時の業務とトラブル対応 到着案内業務、受託手荷物サービス業務、出発時・到着時のトラブル対応 11　旅客送迎サービス業務の概要 旅客送迎サービス業務についてと旅客送迎サービスの基本的な心構え 12　旅客送迎サービスの業務内容 出発時の旅客送迎サービス業務の事前準備、空港オフィス出発から業務終了まで 13　空港における旅客業務のポイント：ホスピタリティ産業の一員としての基本的な心構え（グループワーク：ロールプレイ形式） 空港における旅行業務のポイント、ホスピタリティー産業の一員としての基本的な心 14　空港における旅客業務のポイント：身だしなみ、基本動作（グループワーク：ロールプレイ形式） ホスピタリティー産業のプロとしての身だしなみと基本動作 15　空港における旅客業務のポイント：接客の言葉遣い（グループワーク：ロールプレイ形式） 挨拶、基本接客用語、敬語、言葉遣い
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｃ：企業理念に合わせた自分の強みをまとめて1分のプレゼンテーションができる。 ○Ｄ：空港業務はどうのような職種があるかを具体的に説明できる。
事前・事後学習	事前学習：航空会社の企業研究をおこなう（60分） 自分自身を見つめ、自分の強み、航空会社などへの志望動機をまとめる（60分） 事後学習：キャビンアテンダント、グランドスタッフ、空港の業務について復習する。（60分）
指導方法	適宜資料（プリント）を配布するので、資料内容を確認し授業内容を理解する。パワーポイントや適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、指導してもらう予定。 フィードバックの仕方：グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｃ：企業理念に合わせた自分の強みをまとめた1分のプレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：空港業務の職種と業務を具体的に説明する定期試験の記述解答を評価する。 定期テスト（30%）、グループワーク参加貢献度（50%）、習熟度課題（20%）
テキスト	授業資料（プリント等）を適宜配布する。（テキストは特に指定しない）
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	・当科目の履修生同士、お互いに切磋琢磨する姿勢を持つこと。 ・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイ
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： Business Conversation：Airline・Airport　　授業コード：2181　2182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
小林千春、佐藤美保			
ナンバリング：E14B30	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	テキストに沿って機内、ホテル、現地で役立つ英語表現を習得する。 実際に航空会社で使用されている機内アナウンスなども身に付ける。 毎回、ボキャブラリーやフレーズの確認テストを行う。 （授業目標） エアライン業界で使用される英語から、現場で役立つ英語表現・英会話力を身に付ける。 ○Ｄ：航空業界や海外で使用する単語やフレーズの知識を身につける。 ◎Ｅ：人前で堂々と英語と日本語でアナウンスができる。
授業計画	1　オリエンテーション 授業概略説明 Self-introduction 2　Prologue Vocabulary Test 航空券の手配、必要書類に関する英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 3　On an Airplane Vocabulary Test 機内で必要な英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 4　Landing at Honolulu Airport Vocabulary Test 入国手続きや税関検査に関する英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 5　Transit at Honolulu Airport Vocabulary Test 乗り継ぎに関する英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 6　Exchange Money Vocabulary Test クレジットカードや現地通貨への両替に関する英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 7　Transportation Vocabulary Test タクシー、バスなどの交通手段に関する英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 8　Hotel Vocabulary Test ホテルのチェックインの際に必要な英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 9　Staying at Hotel Vocabulary Test ホテル滞在でのトラブルの際に必要な英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 10　A Helicopter Pilot Vocabulary Test イギリスの主要都市を学ぶ（ロールプレイング） 機内アナウンス（プレゼンテーション） 11　Sightseeing Vocabulary Test 観光に関してホテルのコンシェルジュから情報等を得る英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 12　Directions though Towns Vocabulary Test 道に迷ったときなどに尋ねるための英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 13　Food and Drink Vocabulary Test 現地での食に関する英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 14　At the Restaurant

	Vocabulary Test レストラン予約や注文のための英語表現を学ぶ 機内アナウンス（プレゼンテーション） 15 Presentation Vocabulary Test 機内アナウンスまとめ（プレゼンテーション）
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：航空業界や海外でで役立つ英語表現を100程度理解し使用することができる。 ◎Ｅ：英語と日本語で10の機内アナウンスを、正確に、発音・イントネーションなども正しくアナウンスができる。
事前・事後学習	事前の学習：授業時に出された指示に従い行うこと。 翌週の授業で扱う単語・熟語をきちんと辞書で調べること。（約30分） 事前の学習：単語の復習並びに機内アナウンス等の暗記練習を行うこと。 確認テストの勉強とアサインメントをきちんと行うこと。（約40分）
指導方法	ほぼ毎回小テスト（オーラルか筆記）を行う。航空業界で使う特殊な用語もしっかりと身につくよう指導する 小テスト等のフィードバック：小テスト結果にコメント等を記載し返却、問題がある場合は個別に指導する 授業後、オフィスアワーなどにコメントへの質疑に対応する
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○Ｄ：毎回の小テスト、最終試験で評価する。 ◎Ｅ：授業時における機内アナウンスと最終のプレゼンテーションで評価する 毎回の小テスト、機内アナウンス、機内アナウンス最終プレゼンテーションで評価する。 授業への貢献度・積極性　30% 小テスト30% 機内アナウンス最終プレゼンテーション　20% 単語・イディオム（定期試験）　20%
テキスト	Fly Across the Borders　三日月雅子　松拍社
参考書	ハンドアウト（機内アナウンス例） 国と首都を覚えることも重要なため、プリントも配布予定である。
履修上の注意	エアラインモデル希望の学生は必ず履修すること。 コロナ感染対策のため、対面授業とオンライン授業が交互になります。 間違えないように確認してください。 毎回の授業が大切です。欠席せずに積極的に参加しましょう。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション ロールプレイング
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google classroom、Power point資料

講義科目名称： ホテル・ツーリズム スタディーズ　　授業コード：2871　2872

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C31	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	（授業概要）ホテル、観光に関連する様々な観光産業を取り上げ、それぞれのホテル・ツーリズム産業がどのように形成され、どのようなビジネスモデルで発展してきたかについて具体的にみていくことにより、ホテル・ツーリズム産業の成り立ちを学ぶ。合わせてホテル・ツーリズム産業がおこなっている取り組みを知ることにより、それぞれの業界・産業業務内容を理解する。また世界遺産にも焦点を当て、その基本情報、地理、歴史的背景などの特徴を理解し、認定された経緯、理由などを考察する。 （授業目標） ホテル・ツーリズム産業の様々な業種の特徴を理解する。 ○Ｃ：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について考察できる。 ◎Ｄ：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を身に付ける。 ◎Ｄ：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を理解する。 ◎Ｄ：世界遺産の基礎知識と、日本の世界遺産についてまとめ、理解する。
授業計画	1　ホテルツーリズムスタディーズ（課題解決型：身近な地域のホテル、観光名所の魅力と問題点） 授業全体の概要と、各自の育った地域の魅力、その地域にあるホテル、観光名所について考える 2　ホテルとは ホテルについての基礎知識とホテル業界について 3　ツーリズム業界 ツーリズム産業の基礎知識とツーリズム・ビジネス分類 4　日本におけるツーリズムの変遷 日本のツーリズムの変遷を時代別に区分する。 5　世界遺産（ゲスト講師） 世界遺産の基礎知識、日本国内の世界遺産 6　ホテル・ツーリズム産業：　「ホテル業界」 ホテルの商品としての特性、運営オペレーションの特性 7　ホテル客室のカテゴリーと種類 ホテルのルーム・タイプとルーム･カテゴリー 8　日本料理、世界代表的な料理など ホテルの食事付き料金制度、日本料理、西洋のコース･メニューとその調理法、中国料理 9　英国流ホテルのおもてなし（ゲスト講師） イギリスのホテルを例としたおもてなし術 10　日本の世界遺産 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産について 11　日本国内の世界遺産プレゼンテーション①（個人発表）（ICTの活用：スマートフォン あるいはタブレットPC） 学生がそれぞれ調べた世界遺産についてのプレゼンテーション 12　日本国内の世界遺産プレゼンテーション②（個人発表）（ICTの活用：スマートフォン あるいはタブレットPC） 学生がそれぞれ調べた世界遺産についてのプレゼンテーション 13　ホテルの組織 ホテルの組織とその特徴について 14　ホテルの部門別業務内容 ホテルの各部門音役割と業務内容 15　ホテル・ツーリズム産業：「旅行業者」 旅行業者の営業形態と販売形態、カウンター業務の仕事
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｃ：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴について説明できる。 ◎Ｄ：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識を説明できる。 ◎Ｄ：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎Ｄ：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産に区分できる。また日本の世界遺産についてまとめ、人前でプレゼンテーションできる
事前・事後学習	事前学習： 世界遺産の基礎知識と日本の世界遺産それぞれの特徴を調べ、プレゼンテーションできるように準備する(60分) ホテル・ツーリズム産業について、どのような産業なのか、どのような業務があるか調べる（60分） 事後学習 授業で配布したレジメを参照し、授業内で取り上げたホテル・ツーリズム産業の業務についてまとめる（60分）

指導方法	授業資料(プリント)を配布し、パワーポイントを使用しながら適宜関係するＤＶＤ等、視聴覚資料を利用し授業を行う。また毎回数名に１つの日本国内の世界遺産についてプレゼンテーションをしてもらう。 ホテル・ツーリズム産業の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｃ：ホテル・ツーリズム産業施設見学を実施し、施設の特徴についての考察レポートを評価する。 ◎Ｄ：ホテル業界とツーリズム業界の基礎知識の理解度など小レポート提出・定期試験を評価する。 ◎Ｄ：それぞれのホテル・ツーリズム産業の特徴を区分できる。 ◎Ｄ：世界文化遺産、自然遺産、複合遺産の区分など定期試験を評価する。また日本の世界遺産についてまとめたプレゼンテーションを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2018）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 一般財団法人日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	「ホテルツーリズムスタディーズ」の受講生は、後期に「ホテルスタディーズＡ」、「ツーリズムスタディーズＡ」を受講することが望ましい
アクティブ・ラーニング	課題解決型、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： ホテル　スタディーズA　　授業コード： 2841

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C32	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）ホテルの基本的な性格、ホテルの構成要素、日本、欧米の歴史的変遷など様々な角度から、ホテルビジネスの概論にアプローチし、ホテルビジネスの特色や特徴とホテルビジネスのベースとなる専門用語ならびに知識を学ぶ。合わせて事業部門ごとにホテル業務概要を把握し、ホテル業務を経営と運営の両面からアプローチし、理解力と実践力を身につける。またホテル運営側と顧客の視点から、ホテル業務に対し理解を深める。 (授業目標) ◎C：ホテルビジネスを基礎知識を理解し、ホテルのコンセプト、特徴を考察する。 ○D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルビジネスの経営理論を理解する。
授業計画	1　宿泊施設の区分とホテルの定義 ホテルとは何か、その語源、基本的な性格、法律上の位置づけなど 2　ホテルの構成要素 ホテルが提供する商品の構成要素 3　ホテルの分類（グループワーク：資本系列、経営形態などにホテルを分類） 立地・機能、資本系列、経営形態など観点からホテルを分類 4　日本における宿泊業の歴史 時代ごとの日本の宿泊業の歴史を概観 5　欧米における宿泊業の歴史 現代のホテル業は、どのように形成されてきたのか 6　ホテル客室のカテゴリーと種類 客室の種類、設備やホテルの料金制度の基礎知識 7　ホテルのアメニティグッズ（グループワーク：ホテルアメニティについてグループプごとにまとめる） ホテルで提供されるアメニティグッズの必要性と、どのようなアメニティであれば顧客に喜ばれるかについて、グループで話し合いまとめる 8　ホテル実務の基礎（実習：挨拶、言葉遣いなど） ホテル実務に必要な業務知識 9　宿泊部門の業務：フロント・ オフィス課 ・ホテルにおける宿泊部門の位置づけ、役割 ・客室予約、レセプション、電話オペレーターの業務 10　宿泊部門の業務：フロント・ サービス課 ・フロント・サービス課の業務 ・ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、ゲストリレーションズの業務 11　宿泊部門の業務：客室課 ・客室科の業務 ・客室サービス、ハウス・マン、リネン、ルーム・アテンダントの業務 12　テーブルセッティング①（実習：テーブルセッティング、サービス方法を実践練習） ・テーブルセッティング（イギリス式とフランス式） ・食器・リネン・備品の知識 13　テーブルセッティング②（実習：テーブルセッティング、サービス方法を実践練習） ・サービスの基本 ・レストランサービス 14　東京都のホテル調査発表（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） 都内の外資系ホテルをSWOT分析の観点から調べ、SWOT分析の結果からホテルの評価と課題について発表する 15　東京都の外資系ホテル調査発表（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） 都内の外資系ホテルをSWOT分析の観点から調べ、SWOT分析の結果からホテルの評価と課題について発表する
学習成果・ 到達目標・基準	◎C：都内にあるホテルのコンセプト、特徴を具体的に説明できる。 ○D：立地・機能、資本系列、経営形態などの観点からホテルの分類ができる。
事前・事後学習	事前学習 都内のホテルのホームページにアクセスし、ホテルのイベントについて調べる(60分) 世界の料理について、特に日本のレストランで提供されている料理ついて調べる（30分） 事後学習 ホテル実務に必要な業務知識についてまとめる（30分） 授業で配布したレジメを参照し、ホテルビジネスを経営について理解する（60分）

指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの取り組みを理解し易いように、ホテルの現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらうことがある。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｃ：ホテルのコンセプト、特徴とそのホテル評価と課題についての発表とレポートを評価する。 〇Ｄ：ホテル分類、ホテルビジネスの理論などを説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	１．授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 ２．ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 ３．「ホテルスタディーズＡ」の受講生は、前期に「ホテルツーリズムスタディーズＡ」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： ホテル　スタディーズB　　授業コード： 2881

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E25C33	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）宿泊産業のいくつかの経営業態を通して、ホテルビジネスの経営環境を理解する。合わせてホテルビジネスを対象として、マーケティングおよびオペレーションの視点からホテルを分析し事象把握をおこなう。 ホテルの特徴を活かした宿泊商品プラン作成を通して、そのホテルの特徴を理解し評価、課題、それに対する対応策を検討提案できる能力を身につける。またホテルビジネスで活躍されている方々をゲスト講師として招き、その企業の取り組みについて知識を深める。 (授業目標) ◎A：宿泊産業の取り組みを理解し、評価、検討、提案する力をつける。 ○D：ホテルビジネスを理論並びに実務の両面から理解する。
授業計画	1　ホテルビジネス ホテルビジネスの全体像を捉え、特色や特徴を理解する 2　ビジネスホテル市場 ビジネスホテルの位置づけと、ビジネスホテルの取り組み 3　ホテル業の全体像 ・ホテルの分類（立地、クラス、機能別） ・経営形態による分類 ・資本形態による分類など 4　宿泊旅行統計調査 日本の観光の現在の傾向や特徴 5　日本旅館 日本旅館の位置づけと、日本文化を象徴する日本旅館のおもてなし 6　欧米におけるホテルの系譜 欧米の宿泊業の歴史的系譜 7　国際儀礼（プロトコール） 国際儀礼の基本とホテル実務者の基礎知識 8　日本の宿泊産業と独自の宿泊形態 日本の宿泊業の系譜と様々な宿泊形態 9　ホテリエールとっておきのおもてなし術（ゲスト講師） ・テーブルコーディネートの基本 ・テーマ、キーオブジェ、コンセプトを決定し、おもてなしテーブルセッティングを実践 10　ホテル・マーケティング ・ホテル・マーケティングの基本概念 ・マーケティングを構成する４本の柱 ・ホテルに求められるトータル・マーケティング・プラン 11　宿泊商品プラン作成（グループワーク：宿泊プランの作成とプレゼンテーションの準備） マーケティングの視点からホテルの特徴を活かした宿泊プラン作成 12　企業研究：リッツ・カールトン リッツ・カールトンの取組みとホスピタリティ 13　宿泊商品プラン発表①（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） ホテルの特徴を活かした宿泊プランをグループごとに発表 14　宿泊商品プラン発表②（プレゼンテーション：ホテルの評価、課題について） ホテルの特徴を活かした宿泊プランをグループごとに発表 15　企業研究：星野リゾート 星野リゾートの概要と取組みについて
学習成果・ 到達目標・基準	◎A：宿泊商品プランの作成を通し、マーケティングの視点からホテルの特徴を活かした宿泊商品プランの提案できる。 ○D：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：都内のホテルのホームページにアクセスし、それぞれのホテルの特徴について調べる(60分) ホテルの職種の仕事内容（フロント・サービス、客室係など）について調べる（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、宿泊施設の取り組みについて理解する（60分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。ホテルビジネスの現場で働く方々を、企業研究としてゲスト講師に授業に参加してもらう予定。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価

	とアドバイスをおこなう。グループワークについては、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ａ：宿泊商品プランの内容と、プレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：ホテルビジネスを経営と実務の両面から、その取り組みについて、例を挙げて説明する定期試験の記述回答を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2016）『ホテル概論』JTB総合研究所 日本ホテル教育センター（2015）『新ホテル総論』プラザ出版
履修上の注意	１．授業には積極的に参加し、他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 ２．ホテル実務でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。 ３．「ホテルスタディーズＢ」の受講生は、「ホテルスタディーズＡ」を受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： ツーリズム スタディーズA　　授業コード：2391　2392

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E15C34	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）観光を幅広く学んでいくために、観光学に関する観光関連用語や観光の研究分野などの基礎知識、観光の歴史的変遷と現代社会における観光の意義について理解を深める。またエコツーリズムやグリーンツーリズムはじめ、ニューツーリズムの特徴や取り組みを理解する。さらに観光プランのコース作成を、ディスティネーション・マーケティング等の視点から、コンセプト作りから観光プランを作成し、フィールドワークをおこない観光プランの正誤性の検証をおこなう。 (授業目標) ◎C：観光の基礎知識、国内観光資源を理解し、観光プランの作成方法を身につける。 ○D：観光産業で使用されている観光関連用語や英語の通話用語を身につける。
授業計画	1　観光と旅行 観光の語源や関連用語、観光研究の分野について 2　観光の現代的意義 現代社会における観光の意義と、観光が経済などに及ぼす影響 3　観光の変遷 日本と欧米の観光の潮流を時代別に区分する。 4　観光産業の英語（実習：通話用語を使用して、自分の名前のスペルを伝える） パスポートの英語記載、空港コード、エアラインコードと通話英語など 5　観光地の類型 観光対象、観光資源および観光施設 6　国内観光資源 国内観光資源をカテゴリー別に考察 7　観光政策と観光行政 観光政策の基本、その目標と内容と、地方の観光行政の特性 8　世界遺産 世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産について 9　ニューツーリズム ニューツーリズムの共通の特徴と取り組み 10　エコツーリズムとグリーンツーリズム ・エコツーリズムの概念と定義、環境と観光をつなげるエコツアーについて ・グリーンツーリズムの概念、定義と日本国内の取り組みと成果 11　旅行会社の業務（ゲスト講師） 旅行会社のカウンター業務など 12　国際観光 国際観光の現況と訪日外国人旅行者 13　インバウンド観光客の特性 様々な国・地域からの外国人旅行者が期待する日本観光とおもてなしの違い 14　東京都港区芝エリア「街歩き」の観光プランニング（グループワーク：観光プランのコース作成） 東京都港区の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成 15　東京都港区芝エリア「街歩き」観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した観光プランの発表と評価
学習成果・ 到達目標・基準	◎C：特定の地域の観光資源を理解し、観光プラン作成をおこない、プラン内容をプレゼンテーションすることができる。 ○D：観光産業で使用されている用語の違いを説明でき、ロールプレイング会話演習で、通話用語を使用して、自分の名前を表現できる。
事前・事後学習	事前学習：ニューツーリズムに分類される観光の特徴について調べる(60分) 国内の観光資源を知る上で、観光パンフレットなどの観光資料、情報資料を収集しチェックする（60分） 事後学習：授業で配布したレジメを参照し、観光関連用語を理解する（60分）
指導方法	指導方法 講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価

	とアドバイスをおこなう。グループワーク、実習課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｃ：観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：観光産業で使用されている観光関連用語について定期試験の記述回答を評価し、ロールプレイイングでの会話演習を評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の小テストや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2014）『観光学基礎』 世界遺産検定事務局（2016）『はじめて学ぶ世界遺産100』 十代田　朗(2014)「観光まちづくりのマーケティング」学芸出版社
履修上の注意	１．授業中は他の人の迷惑にならないように授業態度に注意すること。 ２．自分が観光産業でどのようなおもてなしが提供できるか、ホスピタリティ・マインドを常に考えて授業に臨むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： ツーリズム スタディーズB　　授業コード：2421　2422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E25C35	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要）日本における観光の現状を把握した上で、観光関連産業、観光地形成やサービスなど幅広く知識をつける。 旅行商品が生み出されていく手順を、特定の国内観光地を取り扱いながら、コンセプトづくり、ディスティネーション・マーケティング等の視点からレディメイド型旅行商品の作成される行程と成り立ちを学ぶ。さらに旅行プランを作成して、旅行商品を自分で作成する事で、観光地の観光資源や地方自治体の取り組みを理解する。また近年著しく増加している訪日外国人旅行者に焦点を合わせ、外国人旅行者の観光属性と日本がおこなっている取り組みについて、詳しく学ぶ。 (授業目標) ◎C：国際航空運賃、海外観光資源の知識を修得し、観光プランのコース作成を身に付ける。 ○D：インバウンド旅行者の特徴を理解する。
授業計画	1　国内観光の状況 最新の国内観光の状況を観光統計などのデータ分析 2　日本における観光 国内・海外観光旅行の市場規模、推移と現状 3　日本遺産 文化庁が認定した、日本遺産の歴史的魅力や特色 4　旅行商品開発のプランニング 旅行商品を作成するための計画とコンセプトづくり 5　募集型企画旅行（実習：旅行商品の提案と料金計算） パッケージツアーなどのレディメイド型商品の分析 6　観光地域づくり法人（DMO）を 中心とした観光地域づくり 観光地域づくり法人（DMO）の形成・確立と日本版DMO 7　観光地の観光プランニング（グループワーク：国内旅行プランのコース作成） ダイナミックパッケージを使用した、国内旅行プランの作成 8　観光プランのコース発表（プレゼンテーション：全員が必ず発表する） それぞれが作成した国内旅行プランの発表と評価 9　インバウンド観光（グループワーク：訪日外国人旅行者へのおもてなしについてのディスカッション） 訪日外国人旅行者の習慣、食事などの基礎知識 10　インバウンド旅行者増加への取り組みとオーバーツーリズム 訪日外国人旅行者の受け入れ状況と観光地の取り組み、オーバーツーリズムの問題 11　海外の観光資源（グループワーク：海外の観光資源を分類する） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている観光資源 12　海外旅行と外国通貨（実習：外国通貨レートの違いによる計算） 旅行パンフレット、ガイドブックなどのメディア媒体に紹介されている海外の観光資源と外国通貨の種類などについて 13　観光地の観光プランニング（グループワーク：海外旅行プランのコース作成） 海外の観光資源をめぐる、観光プランのコース作成 14　出入国手続き（実習：国内外の入国書類、日本の税関書類の記入や税金の料金計算） 日本から出国し、帰国する際の空港での諸手続 15　国際航空運賃の基礎知識と日付変更線、時差の計算など 国際航空運賃（実習：2ヶ国間の時差の計算、飛行機で移動した際の到着時間の計算など）
学習成果・ 到達目標・基準	◎C：海外旅行プランのコース作成をおこない、人前でプレゼンテーションできる。 ○D：ムスリム観光客への知識と必要な配慮を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：国内、海外の観光資源を知り、具体的な観光プランニングができるように、観光ガイドブック・観光パンフレットなどを収集する（60分） 増加するインバウンド旅行者について調べる（30分） 事後学習：授業内容を復習すること。授業で学んだ観光資源や観光現象などを国や地域などを地図などでまとめる(60分) 観光関連産業それぞれの特徴や取り組みについてまとめる（30分）
指導方法	講義資料（プリント）を配布するので、講義資料内容を確認しながら授業内容を把握していく。パワーポイントを使用し、適宜関係する視聴覚資料を利用し授業を行う。観光産業の取り組みを理解し易いように、観光の現場で働く方を、ゲスト講師として授業に参加してもらう。 フィードバックの仕方：プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、ディベート、実習課題については、授業内、授業後に個別に対

	応、指導する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｃ： 国際航空運賃、海外観光資源の知識を定期試験の記述解答を評価する。合せて観光プランのコース作成とプレゼンテーションを評価する。 ○Ｄ：インバウンド旅行者への取り組みに関する小レポートを評価する。 定期試験（50%）、受講態度（20%）、講義中の実習、プレゼンテーションや課題レポート（30%）の総合評価
テキスト	授業資料（プリント等）を毎回配布する。（教科書は特に指定しない）
参考書	JTB総合研究所（2013）『観光概論』 十代田　朗(2014)『観光まちづくりのマーケティング』 溝尾 良隆（2009）観光学の基礎（観光学全集 第1巻）
履修上の注意	１．授業中は他の人の迷惑にならないように、授業態度に注意すること。 ２．時差、旅行代金の計算、旅行プランニング作成など、じっくりと授業に取り組む必要がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ZOOM、Google classroom、授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： Business Conversation: Hotel　　授業コード：2211　2212

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
森田千草、内藤貴子			
ナンバリング：E15B36	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	毎回ホテルで実際に使用されることが想定される会話例を取り上げ、それぞれの状況に適切な対応の仕方を身につけるとともに、ホテルや観光業界に特有の語彙や表現も学ぶ。確認のための小テストを適宜実施する。また練習した会話例を基に、自分たちで具体的なダイアローグを完成させることも目指す。 (授業目標) ◎A: ペアあるいはグループワークを通じて協働しながら、ホテルでの対応を英語で円滑に行うことができる。 ○E: 観光業界に特有の英語の語彙や表現を理解し、十分に使いこなすことができる。
授業計画	1　Introduction / Unit 1 May I have your name, please? (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 授業の概要を説明する。また、個人情報を尋ねる表現を学ぶ。 2　Unit 2 I get to travel a lot. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 職業や好みに関して尋ねる際の表現を学ぶ。 3　Unit 3 It's on the third floor. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 設備についての質問や場所に関する表現を学ぶ。 4　Unit 4 We're open from 7:00 a.m. to 11:00 p.m. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) スケジュールについての質問の仕方と時間に関する表現を学ぶ。 5　Unit 5 We're fully booked on Monday. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 日付の表現や利用に関して質問する際の表現を学ぶ。 6　Unit 6 I'll repeat your reservation. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 好みを尋ねたり情報を確認したりする際の表現を学ぶ。 7　Unit 7 Are you checking in? (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) ホテルのチェックインするお客様に対応する際の表現を学ぶ。 8　Unit 8 I'll transfer your call. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 相手の要求を聞いたり、電話をつないだりする際の表現を学ぶ。 9　Unit 9 We'll be stopping for lunch at 12:00. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 旅の日程に関する表現を学ぶ。 10　Unit 10 What can I get for you? (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 食べ物や飲み物などの注文の取る際の表現を学ぶ。 11　Unit 11 I'll send someone to check it. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 苦情対応の際の表現を学ぶ。 12　Unit 13 I'll show you on the map. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 場所の説明や道案内をする際の表現を学ぶ。 13　Unit 14 How much would you like to change? (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 換金する際の表現を学ぶ。 14　Unit 15 The service is included. (グループワーク: ペアあるいはグループでの会話練習) 支払いに関する表現を学ぶ。 15　Final Presentation (プレゼンテーション: ペアあるいはグループによる発表会) これまでに学んできた表現をもとにして、ペアでダイアローグを考案し発表を行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎A: ホテルの施設案内を英語で適切に行うことが出来る。 ○E: ホテルのフロントやレストランで使用される英語の語彙や表現を30種類言うことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で扱うユニットの単語や熟語の意味を調べておくこと。(30分) 事後学習：語彙や表現を復習し、テキストの会話の暗記練習を行うこと。(60分)
指導方法	英語を実際の場面で使えるようになるためには、相手が話していることを理解するリスニング力やビジネス特有の語彙を習得する必要がある。この授業ではホテルでの様々なシーンで使用する会話を用いて様々な演習を行うことにより、実践的な会話力を養成することを目指す。

	フィードバックの方法: ①小テストの実施とその採点評価、②小テストの採点評価についての質疑対応、③ペアあるいはグループによる会話演習に対するコメント
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ａ: ペア(グループ)によるプレゼンテーションの完成度および小テストや期末テストの成績で評価する。 ○Ｅ: 小テストや定期試験の成績およびペア(グループ)によるプレゼンテーションの完成度で評価する。 授業内演習・ペア(グループ)による発表：30% 小テスト：30% 定期試験：40%
テキスト	Stephen Hall and Troy Blappert. First Class Service 1: English for the Tourism and Hospitality Industry, Cengage Learning, 2009.
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	ペアやグループによる演習を中心に授業を進めるため、積極的に参加する姿勢を求める。確認のための小テストを適宜実施する。また授業の際には必ず英和辞典(携帯電話・スマートフォンの使用は認めない)を持参すること。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： 情報処理論Ａ　　授業コード：2531　2532

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
別宮玲、福田博志			
ナンバリング：E26C37	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	現代の情報社会の基盤となっているネットワーク技術とセキュリティ技術を学ぶ授業である。ネットワーク技術については、室内レベルのネットワークからインターネットまで幅広く仕組みと問題点を学ぶ。セキュリティについては様々な問題、事例を学んだ後、主な対処法を身に着ける。また、ここで得た知識を活かした資格取得の方法も授業内で扱う。 (授業目標) ◎Ｄ：ITパスポート試験テクノロジ分野に相当するレベルでネットワーク、セキュリティの用語等の解説と計算ができる。
授業計画	1　ガイダンス／システム構成（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・授業概要 ・システムの構成 2　システム構成（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・クライアントサーバシステム ・性能評価 3　システム構成（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・システムの信頼性 4　ネットワーク（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ネットワーク方式 5　ネットワーク（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・通信プロトコル ・インターネットの仕組み 6　ネットワーク（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・通信サービス ・電子メール① 7　ネットワーク（４）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・電子メール② ・WWW 8　ネットワーク（５）(Google Form:ITパスポート過去問と解説) ・ネットワークに関するITパスポート過去問解説 9　セキュリティ（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・情報セキュリティ 10　セキュリティ（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ユーザ認証とアクセス管理 11　セキュリティ（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ウイルス対策 ・ネットワークセキュリティ 12　セキュリティ（４）(Google Classroom：事前・事後学習資料) 暗号化技術 ディジタル署名 13　セキュリティ（５）(Google Form:ITパスポート過去問と解説) ・セキュリティに関するITパスポート過去問解説 14　アルゴリズムとプログラミング(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・プログラミングとデータ構造 ・プログラミング言語 15　ユーザインターフェース(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ユーザインターフェース
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ネットワーク、セキュリティに関する主要な用語の説明ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。(60分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(120分)
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。 フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D:ITパスポートのテクノロジ分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。
テキスト	令和03年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理演習と同じテキストを使用する
参考書	令和03年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

講義科目名称： 情報処理演習　　授業コード：2541　2542

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
別宮玲、福田博志			
ナンバリング：E26C39	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ICT分野における基礎知識と基本操作を学習する授業である。知識として5大装置を中心としたコンピュータの仕組み、多様な周辺機器などハードウェアの種類や構造、様々なソフトウェアの種類やライセンスなどを学び、日常的に使用しているICT機器を理解する。操作としては、表計算ソフト、データベースソフトの基本を身に着けることを目的としている。またここで得た知識を活かした資格取得の方法も授業内で学習する。 (授業目標) ◎Ｄ：ITパスポート試験テクノロジ分野における用語等の解説と計算ができる。 ○Ｅ：ITパスポート試験テクノロジ分野に求められるデータベースおよび表計算の操作ができる。
授業計画	1　ガイダンス／ハードウェア（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・授業概要 ・情報の表現 2　ハードウェア（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・5大装置とCPU ・メモリとキャッシュメモリ 3　ハードウェア（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・補助記憶装置 4　ハードウェア（４）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・入力装置と出力装置 ・入出力インタフェース 5　ハードウェア（５）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・基数変換と補数① 6　ハードウェア（６）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・基数変換と補数② 7　ソフトウェアとマルチメディア（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・ソフトウェア ・ファイル管理 8　ソフトウェアとマルチメディア（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・バックアップ ・データ形式とマルチメディア 9　表計算（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・相対参照と絶対参照 10　表計算（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・関数 ・IF関数とネスト 11　データベース（１）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・関係データベース ・主キーと外部キー 12　データベース（２）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・データの正規化 13　データベース（３）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・データ抽出と論理演算 ・整列と集計 14　データベース（４）(Google Classroom：事前・事後学習資料) ・排他制御と障害回復 15　テクノロジ分野まとめ(Google Form:ITパスポート過去問と解説) ・テクノロジ分野のITパスポート過去問演習
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：業務に必要なITの基礎知識を身につけ、ハードウェア、ソフトウェアに関する主要な用語の説明ができる。 ○Ｅ：データベースおよび表計算アプリケーションの基本操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の範囲の用語について、各自学習して授業に参加する。Google Classroomに次の範囲の授業ノートが公開されるので、これを用いた準備を行うと良い(30分) 事後学習：毎週授業開始時に、一問一答式の口頭テストを行う。前回の授業内容がテスト範囲になる為、毎週自分の言葉で用語等の説明ができるように事後学習を行う。(30分)
指導方法	講義とPCによる演習を併用する授業形式である。演習のテーマ区切りごとに総合演習による評価を行う。併せて毎週、口頭での一問一答テストも行なう。過去問演習にはGoogle Formを使用する。

	フィードバック方法：一問一答式テストは、その場で正解・不正解を発表。説明を加える。過去問演習もその場で正解・不正解が表示され、解説が行われる
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｄ:ITパスポートのテクノロジ分野の試験問題に準拠した定期試験で評価する。併せて毎週実施する小テストの回答数及び正答数で評価する。 ○Ｅ:作成した表計算及びデータベースのファイルを評価する。 評価の比率は受講態度15%、小テスト 35%、総合演習 50%とする。
テキスト	令和03年 イメージ＆クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室(技術評論社) ※情報処理論Aと同じテキストを使用する
参考書	令和03年 栢木先生のIT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル (技術評論社)
履修上の注意	ITパスポートの試験範囲に則った授業範囲となっている。 ITパスポート試験の合格を目指す学生には是非受講していただきたい。 前回の学習内容が翌週にはすぐに小テストで確認されるため、毎週の予習・復習が重要である。 また、資格取得を希望する/しないに関わらず、「情報処理論A」および2年次開講の「情報処理論B」と併せて履修することを強く推奨する。
アクティブ・ラーニング	一問一答テスト
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

講義科目名称： アルゴリズムとデータベース　　授業コード：2551　2552　2553

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	国専：選択必修
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：1年生E16B40	ナンバリング：2年生E16B39	A ZOOM中継型	実務家教員による授業
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	コンピュータは絶え間ない技術革新によって変化しながら、私たちの生活のいたるところに深く浸透している。このようなコンピュータを快適で安全に使いこなすために、コンピュータの仕組を理解し、この仕組を有効に活用するための論理的な考え方や、複雑で大量なデータを扱う標準的な方法について学習する。また、トピックスとして最新のICTの動向と、この動向をいち早く取り入れる社会の状況を概観する。 (授業目標) ◎Ｄ：コンピュータに共通な仕組みや構造について理解を深め、基本的なコンピュータ用語を使うコミュニケーションを円滑に行うことができる。 ○Ｅ：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現することができる。
授業計画	1　オリエンテーション（GoogleClassroomの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入） ・自己紹介と今後の進め方、注意事項、グループ（Gr）分けなど 2　社会に浸透するコンピュータ（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・コンピュータが社会や日常生活にどのように浸透しているか確認 3　コンピュータ共通の仕組１（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・すべてのコンピュータに共通な、情報処理の基本的な構造と仕組みを理解 4　コンピュータ共通の仕組2（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・データ活用と必要なスキル 5　コンピュータ共通の仕組3（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・基本的な仕組みから実用的な機能を引き出すための工夫（OSなど）について ・データの準備とデータのタイプ 6　論理的な処理の表現方法１（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・基本的な仕組みから複雑な機能を実現するために必要な手順（アルゴリズム）を直感的に表現する方法の理解 ・アンケートデータを要約 7　論理的な処理の表現方法２（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・質的変数の分析 8　論理的な処理の表現方法３（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・量的変数を代表値で要約 9　論理的な処理の表現方法4（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・量的変数をばらつきで要約 10　論理的な処理の表現方法5（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・平均と標準偏差を活用 11　コンピュータのデータ処理1（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・量的データを比較 12　コンピュータのデータ処理２（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・平均値の比較をアイデア評価に応用 13　コンピュータのデータ処理３（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・時系列データを分析 14　コンピュータのデータ処理４（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） ・データ分析を活用するために知っておきたいポイント 15　基本的なコンピュータ用語の補足（GoogleClassroomによる反転授業、クイズ型アクティブラーニング） ・アルゴリズムとデータベースの周辺でさらに知っておく必要のあるコンピュータ用語の理解
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：コンピュータに共通な仕組みや構造について概要を理解し、簡単なコンピュータ用語を理解できる。 ○Ｅ：データ処理を含むコンピュータの情報処理などの論理的な手順を表現する方法を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する資料をよく理解し、理解を確認するための穴埋め問題と調査・検討を要する問題を宿題として解く(60分程度)。 上記視聴覚資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答

	を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。
指導方法	事前学習資料による事前学習、配布資料（PowerPointなど）による講義、グループ討議、討議結果のグループ別発表、小テスト、論理的な手順の作成などを適宜行う。また、考察を要する問題についてグループの意見をまとめる練習を行う。 フィードバックの方法：グループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｄ：小テスト、論理的な手順を表現する課題回答などを評価。 ○Ｅ：質疑応答など、アクティブラーニングへの参加状況を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度　30%、小テスト、課題提出など　30%、期末テスト40%
テキスト	事前に提示する資料、小テスト、講義資料などをデジタル教材として提供する。
参考書	『学生のためのデータリテラシー～データの読み方から分析結果の伝え方まで～』FOM出版、『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』（創元社）他、必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form 等

講義科目名称： プログラミング演習Ａ　　授業コード： 2510

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E26C41	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	世の中のアプリケーションは、それぞれ適切なプログラミング言語で作成されている。例えば、Java言語によるスマホアプリやPC用のソフトウェア開発がその一例である。本授業ではロボットPepperの制御をテーマにプログラミングを学ぶ。ここではJavaなどの命令をキーボード入力していくタイプのプログラミング言語ではなく、グラフィカルなプログラミング言語Scratchをベースとしたロボット用プログラミング言語RoboBlocksを用いる。 (授業目標) ◎Ｅ：RoboBlocksを用いて、Pepperとの受け答えをスムーズに行うプログラミングを行うことができる。
授業計画	1　ガイダンス ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認 ・人間とロボットについて考える 2　プログラミング導入（１）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・Pepperにしゃべらせる ・Pepperを動かす ・しゃべらせると同時に動かす 3　プログラミング導入（２）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・タッチセンサーを使う ・音センサーで会話を行う 4　プログラミング導入（３）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・絵を表示させる ・グループ発表の準備 5　発表（１）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う 6　プログラミング実践（１）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・音を再生させる ・音の方向と人間の顔を追跡させる 7　プログラミング実践（２）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・目のLEDを制御する ・同じ動作を繰り返す 8　プログラミング実践（３）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・ランダムで動きを変える ・変数を使う 9　プログラミング実践（４）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・プログラムの効率化を行う 10　プログラミング実践（５）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・自然な会話を作る 11　発表（２）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・人間とロボット共同での発表を行う 12　プログラミング実践（６）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・ディスプレイのタッチ機能を使う ・センサーを用いてデータを収集する 13　プログラミング実践（７）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・アンケートを作り調査する 14　プログラミング実践（８）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）(Pepper:RoboBlocksによるプログラミング) ・グループ発表の準備 15　発表（３）（グループワーク：自由にプログラムを作成する）（プレゼンテーション：Pepperを使った発表） ・グループでPepperを用いた発表を行う
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｅ：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理をPepperに実行させることができる。
事前・事後学習	プログラミングに先立って、日々現れるAI関連のニュースについて扱うため、日ごろからニュースをよく見て、ノートにまとめておくこと。(30分)

	授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。また、自宅からでもプログラミングは可能なため、授業後にプログラム上の不備があれば、修正しておくこと。(30分)
指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。 質問は随時受け付ける。 フィードバックの方法：通常回では、各学生PC上のエミュレータでプログラムが正常に動作しているかを評価し、結果をその場で学生に伝える。発表の回では、全学生が聞いている中での評価とアドバイスを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｅ：Pepperの動作を各学生機のエミュレータ上で評価する。また個人あるいはグループの発表内容で評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題(発表)60パーセント の割合で成績評価を行う。
テキスト	独自の資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	自宅のPCでRobo Blocksが動作することが履修上の必須条件となるため、履修登録前に必ず自宅環境での動作を確認すること。 また毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, 人型ロボットPepper及びRobo Blocks

講義科目名称： プログラミング演習Ｂ　　授業コード： 2911

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E36C41	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	PCやスマートフォンで使用されるアプリケーションはプログラミング言語によって作成されている。この授業は最も普及しているプログラミング言語の一つであるJavaを用いてプログラミングを学ぶ演習である。基本的なプログラミング環境の確認から始まり、分岐や繰り返しといった制御方法を、サンプルプログラムを作成することで身につける。基礎を身につけた後に、簡単なゲームを作成する。 (授業目標) ◎Ｅ：既存のプログラムを参考に、分岐や繰り返し処理を行う新規プログラムを作成し実行できる。
授業計画	1　ガイダンス(dokojava:プログラミング) ・授業の方針、概要、レポート提出方法、成績評価方法を確認する。 ・環境確認 2　コンパイルと実行(dokojava:プログラミング) ・学生毎の開発環境の構築 ・コンパイル ・四則演算 3　制御構造と変数（１）(dokojava:プログラミング) ・if文の基礎 4　制御構造と変数（２）(dokojava:プログラミング) ・コマンド入力 ・乱数の発生 5　制御構造と変数（３）(dokojava:プログラミング) ・if文とコマンド入力による総合的なプログラミング 6　制御構造と変数（４）(dokojava:プログラミング) ・おみくじゲームの作成 7　繰り返し処理（１）(dokojava:プログラミング) ・for文の基礎 8　繰り返し処理（２）(dokojava:プログラミング) ・for文とwhile文 9　総合演習（１）(dokojava:プログラミング) ・数当てゲームの製作 10　配列（１）(dokojava:プログラミング) ・一次配列の演習 11　配列（２）(dokojava:プログラミング) ・サイコロマシーンの制作 12　配列（３）(dokojava:プログラミング) ・二次配列の演習 13　メソッド（１）(dokojava:プログラミング) ・基本的なメソッドの理解 14　メソッド（２）(dokojava:プログラミング) ・メソッドの作成と利用 15　総合演習（２）(dokojava:プログラミング) ・過去に作成したプログラムを複数メソッドに分けて実行するなど、ここまでに学んだ技術を用いて数本のプログラムを作成
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｅ：サンプルプログラムを参照しながら簡単な繰り返し処理や分岐処理を記述できる。
事前・事後学習	教科書の内容を授業内で解説する時間はないため、教科書は事前に通読する必要がある。特にシラバスの授業計画にある用語は事前に確認すること。(30分) 授業で作成したプログラムは、翌週以降にも流用可能なように作られている。授業後にプログラムコードへの適切なコメント入力をしておくこと。(30分)
指導方法	サンプルプログラムを使用した講義の後、類似問題および応用問題のプログラミング演習を行う。 プログラミングには教室での対面、在宅共にクラウド上のプログラミングサービス「dokojava」を使用する。 質問は随時受け付け、授業中に回答する。 原則、提出された課題(プログラム)へのコメントなどのフィードバックは次回授業内で回答例の公開と共に行う。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｅ：dokojavaで作成されたプログラムをGoogle Classroomで提出する。提出されたプログラムのコードを評価する。また正しく操作ができているかを、教員が情報教室の教育支援システム（Netウィッチ）およびZoomで確認し評価する。 授業態度20パーセント、課題20パーセント、最終課題60パーセント の割合で成績評価を行う。
テキスト	スッキリわかるJava入門 第3版（インプレス）
参考書	
履修上の注意	自宅のPCでJava開発環境の dokojava が動作することが履修上の必須条件となるため、履修登録前に必ず自宅環境での動作を確認すること。 また毎週連続した演習が続く。たとえば第3週で作成したプログラムを基に第4週のプログラムを作成する等の演習形態である。欠席した場合には、その回でどのような演習が行われたか、必ず確認し、自習して出席すること。
アクティブ・ラーニング	授業内で発生する学生個々のプログラミング上の問題点や提案を教室内の学生に随時共有しながら進行する演習
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Netウィッチ, dokojava

講義科目名称：　メディアコンテンツ演習Ａ　　授業コード：2411　2412

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
ナンバリング：E16C43	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 なお、メディアコンテンツ演習Aでは「Adobe Illustrator」を主とした演習を行い、「Adobe Photoshop」は補助的に使用する。 (授業目標) ○Ｄ:多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）をすることができる。 ◎Ｅ:IllustratorとPhotoshopでデザインができる。
授業計画	1　Illustrator 基本（1）（演習　イラストレータ修得） 文字入力、図形作成、配置、色についてを実践します。 2　Illustrator 基本（2）（演習　イラストレータ修得） 文字の行間、文字詰め、フォントの種類によるイメージ効果を学びます。 3　Illustrator 基本（3）（演習　イラストレータ修得） 写真画像の配置、袋文字の活用方法を実践します。 4　文字を活用したデザイン　(1) 就職活動等にも活用可能な名刺のデザインを行います。 5　文字を活用したデザイン　(2) 名刺デザインを画像と文字を使い構成します。 6　パスツール実戦 Illustrator のパスを扱えるよう実践します。 7　キャラクターデザイン（1） LINEスタンプに活用できるような「感情に訴える」キャラクターを考えます。 8　キャラクターデザイン（2） 考えたキャラクターをイラストレータでデザインします。 9　制作課題 キャラクターのデザインをイラストレータのパスの機能を活用し細かなところまで丁寧に作成します。 10　制作課題 キャラクターデザインを完成させ、提出し、キャラクターの表情や動きなどの魅力が出ているか講評を行います。 11　WEBデザインでのIllustratorの活用方法 イラストレータの特徴をふまえ、効率よくデザインする為のノウハウを学びます。 12　インターフェイスデザイン（1） WEBページ等にあるボタン等を考察し、傾向を見いだします。 13　インターフェイスデザイン（2） ボタン等をロールオーバー時も含めたデザインをします。 14　Photoshop　基本　(1)（演習　フォトショップ修得） 文字、図形、レイヤーの扱い方を実践します。 15　Photoshop　基本　(2)（演習　フォトショップ修得） 写真画像の加工の仕方を実践します。
学習成果・ 到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。多くの人々が利用しやすいようにデザイン（ユニバーサルデザイン）するといった「思いやりのあるデザイン」を出来るようにする。情報設計をしながら、より魅力的なものをデザイン出来るようにする。色彩感覚、構図・構成、文字の扱い方等の基礎力を身につける。 LINEスタンプのような感情に訴えるキャラクターデザインが出来るよう学ぶ。 ○Ｄ:見やすいデザインができる。 ◎Ｅ:IllustratorとPhotoshopの操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。（30分） 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティアップのための考察を行う。（30分）
指導方法	演習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。 課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。

アセスメント・成績評価の方法・基準	授業態度、演習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、演習結果・提出課題　70% ○Ｄ:課題で作成したデザインが見やすい、わかりやすいか評価する。 ◎Ｅ:IllustratorとPhotoshopの適切な操作をしてデザインがされているか評価する。
テキスト	資料を配布します。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	演習
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ソフトウエア　Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ 、インターネットを活用

講義科目名称：　メディアコンテンツ演習Ｂ　　授業コード：2431　2432

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
小山洋行			
ナンバリング：E26C44	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	デザイン分野で必須のソフトウェア「Adobe Illustrator」や「Adobe Photoshop」を用いて、総合的なデザインを学ぶ演習である。 基本的な技術から応用技術まで幅広い範囲を段階的に学習することで、状況に合わせたソフトウェアの活用方法を修得する。 メディアコンテンツ演習Ｂでは「Adobe Photoshop」を主とした演習を行い、「Adobe Illustrator」は補助的に使用する。 (授業目標) ◎Ｄ:マーケティングを考慮し、消費者の行動や価値観を分析したのちターゲットを決めて、それに合わせたデザインができる。 ○Ｅ:IllustratorとPhotoshopを連携させてデザインができる。
授業計画	1　ECサイトデザイン研究、リサーチ（演習　イラストレータ、フォトショップ修得） ECサイトデザインにおいて必要不可欠な物をリサーチしレポートにまとめます。 2　ECサイトブランド構築 ECサイト研究に基づき、オリジナルセレクトショップの構想をたてます。 3　Photoshop応用（1） 文字の扱い方や図形の作成、グループ化、整列方法など実践します。 4　Photoshop応用（2） ショートカット操作を覚え作業効率を良くして行きます。 5　色彩 色の活用の仕方を、デザインを行いながら研究します。 6　構図構成 枠の中にどのように配置すれば、意図した事を伝えられるか学びます。 7　ECサイトデザイン制作（1） リサーチした結果をふまえ、オリジナルセレクトショップのデザインを行います。 8　ECサイトデザイン制作（2） オリジナルセレクトショップのブランドイメージを意識してデザインします。 9　ロゴデザイン（1） Illustrator でオリジナルセレクトショップのWEBサイトに載せるロゴデザインをします。 10　ロゴデザイン（2） ロゴデザインを5種類デザインしその中から一番適切な物を採用し、WEBデザインの中に組み込みます。 11　Photoshop と Illustrator の連携 Photoshop と Illustrator の特徴を理解し、状況にあわせて使い分ける事を学びます。 12　ECサイトデザイン制作課題（3） ロゴデザインと調和するように調整して行きます。キャンペーンバナー等も加えてリアリティのあるデザインにします。 13　制作課題 ECサイトのクオリティを上げるための試行錯誤を行います。 14　ECサイトデザイン制作課題（発表、講評） 完成したデザインを発表し、講評も行います。 15　スマートフォンサイトデザイン（演習　スマートフォン応用） PC用にデザインしたECサイトをスマートフォン向けに調整し、レスポンシブデザインについて学びます。
学習成果・ 到達目標・基準	多様なウェブデザインスキルを求められる近年の状況に応える為の演習です。消費者の行動や価値観の多様化に伴い、しっかりとマーケティングを考慮しターゲットを明確にして論理的なデザインが出来るようにする。 情報設計をしながら、より分かりやすく見やすいデザインが出来るようにする。色の構成や文字の扱いの基礎力を身につける。 セレクトショップのWEBデザインが出来るように学ぶ。 ◎Ｄ:ターゲットの立場を考えた「思いやりのあるデザイン」ができる。 ○Ｅ:IllustratorとPhotoshop双方のデータのやりとりができる。
事前・事後学習	事前学習：普段の生活の中にあるデザインされたものをより意識して見て、本質を見抜き自分の表現の引き出し作りをする。（30分） 事後学習：自分のデザインしたものを客観的にとらえ、マーケット的にどの立ち位置にあるかを意識し、更なるクオリティーアップのための考察を行う。（30分）
指導方法	演習形式の授業です。幾つかの制作課題を与えながら指導する。

	課題作品の講評や質疑応答によるフィードバックを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	授業態度、演習結果、および提出課題で評価する。 授業態度 30%、演習結果・提出課題　70% ◎Ｄ:「思いやりのあるデザイン」「マーケティングを意識したデザイン」になっているかを評価する。 〇Ｅ:デザインする要素に応じてIllustratorとPhotoshopを効率よく活用できているかを評価する。
テキスト	資料を配布する。
参考書	
履修上の注意	「地味な事でもコツコツ積み上げて行くのが好き」「色の組み合わせを考えるのが好き」「人のためになるデザインが好き」「絵を描くのが好き」といった方に向いている実習である。
アクティブ・ラーニング	演習
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	ソフトウエア Adobe photoshop、 Adobe Illustrator、 ウェブブラウザ 、インターネットを活用

講義科目名称： マルチメディア演習Ａ　　授業コード： 2451

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
ナンバリング：E16C45	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	効果的で説得力のあるウェブページデザインを実現するために、色彩の基本知識、グラフィック画像の扱い方法について学びます。色彩によるコミュニケーション、色彩心理、色彩計画について学んだ後、ネットショップのバナーのデザインを実際に行っていきます。グラフィック系アプリケーションのIllustratorやPhotoshopを使い、具体的なグラフィック制作の手法も習得することができます。 ○Ｄ：色彩理論を理解し、WEB制作における適切な画像処理技術を習得する。 ◎Ｅ：webサイトの目的と消費者の心理を理解し、効果的なデザイン・表現ができる。
授業計画	1　ガイダンス 講師紹介/過去の学生の作品紹介 2　色彩の基礎知識 印刷用媒体（CMYK）とWEB媒体（RGB）の色の違いの学習/明度・彩度・色相の理解 3　色彩の効果 テーマカラー別に、実際のサイトをみながらその効果を検証する。 4　学生プレゼンテーション 各自がテーマとして与えられたカラーのサイトを探し、分析した内容を発表する。 5　色相・明度・彩度 グラフィックソフトを使って色相・明度・彩度の概念、およびRGBの数値に基づき、実際に色を作成する。 6　カラーデザイン 各自がテーマとした世界、雰囲気を、配色を考えながら表現する 7　HTMLの16進数カラーの理解 前回の授業で作成した色をhtmlで記述し、webページに表示する方法を学ぶ 8　解像度とトリミング 解像度の概念の理解、および数値を入力してのトリミング方法を習得。対面グループはPhotoshop画像を用います。 9　画像の圧縮 GIF、JPG、PNGの圧縮方法の違いの理解/圧縮方法ごとの書き出し結果の違いを検証。対面グループはPhotoshop画像を用いる。 10　ネットショップの企画１ 各自が好きなショップ・ブランドを選び、そのターゲットとなる消費者の気持ちに響く色、雰囲気、コピー（言葉）を考える。 11　ネットショップの企画２ ・キャッチコピー・写真・企画書の作成準備する。 12　バナーデザイン１ ショップを運営する会社のトップページバナー制作する。 13　バナーデザイン２ Yahoo!など外部サイトに掲載するバナー広告を制作する。 14　バナーデザイン３ Instagram、TwitterなどSNSに掲載するバナー画像を作成する 15　発表／講評（プレゼンテーション） 各自が制作したデザインを企画書にまとめプレゼンテーションを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：色の３原則、画像の圧縮方法について説明できる。 ◎Ｅ：グラフィックソフトを使って色の調整をしながらデザインができる。
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 対面グループはAdobe Photoshop、Illustratorのグラフィックソフトを使い、オンライングループはPowerPointを使ってデザインを行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させたグラフィックデータを提出する。 学生が考察した内容を発表し、自分の作品のプレゼンテーションも行う。 フィードバック方法：授業後、質疑に対して個別対応する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：色彩理論と画像処理の基本知識を理解できているかを評価する。 ◎Ｅ：習得した技術を応用し、見やすく質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物：３０％、レポート：２０％、最終自由作品：５０％
テキスト	授業で必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	画像の編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション，ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Googleクラスルーム,Adobe Photoshop, Adobe Illustrator

講義科目名称： マルチメディア演習Ｂ　　授業コード： 2461

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択
担当教員			
伊波祥代			
ナンバリング：E26C46	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	学生自らが作成したシナリオに基づき、撮影、編集、書き出しまでを行い、1本の動画作品として完成させます。ビデオ編集はAdobe Premiere Proを使用して制作を行い、最後には各自の作品の上映会を行います。 これまで閲覧する側だった動画も、自分で意図した通りに自由に編集、表現できるようになり、制作の醍醐味を楽しんでもらえる時間となるはずです。 ◎Ｄ:デジタルデータの特性を理解し、動画編集ソフトのエフェクト効果の適応、合成機能など高度な編集ができる。 ○Ｅ:技術を駆使し、見る側の感情に訴えかけるような表現ができる。
授業計画	1　ガイダンス 授業紹介、講師紹介，昨年の学生の作品紹介 2　デジタルビデオの基本知識 作業の流れの把握 解像度、圧縮形式などの学習+チュートリアル（体験） 3　プレミアの基本操作（１） チュートリアルレッスン（クリップの編集/各種ツールの使い方） 4　プレミアの基本操作（２） チュートリアルレッスン（タイトルの挿入/図形の描画/トランジション/マーカー） 5　プレミアの基本操作（３） チュートリアルレッスン（透明度/キーフレームアニメーション） 6　プレミアの基本操作（4） チュートリアルレッスン（エフェクト/合成） 7　動画ファイルの取り込み 自分のスマホの動画ファイルをパソコンに取り込み、Premiereで編集をする 8　作品計画の立案（プレゼンテーション） シナリオに基づき、撮影方法、出演者、サウンドの用意など、具体的な方法を発表 9　ビデオ編集（１） ビデオ撮影／編集 10　ビデオ編集（２） タイトル、キャプションの挿入 11　ビデオ編集（３） 写真やサウンドの挿入 12　ビデオ編集（４） 各自編集作業を続ける 13　ビデオ編集（５） 各自編集作業を続ける 14　ビデオ編集（６）　書き出し 完成した作品を、書き出す 15　作品発表会（プレゼンテーション：最終プレゼンテーション） 各自の作品を上映、プレゼンテーションを行う
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ:一動画編集作業の一連の流れ理解する。 ○Ｅ:動画編集ソフトの基本機能を使い、自分で撮影したビデオとBGMを素材に1本のビデオ作品を完成できる。
事前・事後学習	事前学習:次の授業で行う工程に合わせ、必要な素材を用意する(60分) 事後学習:授業内で出た課題を完了させる。(60分)
指導方法	課題に沿って講義を行い、その後一人1台ずつパソコンを使用して演習を行う。 毎回の授業で与えられた課題を制作し、完成させビデオデータを提出。後半の６回の授業では、自由作品として自分の立てたシナリオに沿って映像作品を完成させ、最後に鑑賞会・講評会を行う。 フィードバック方法：課題については、授業後個別対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｄ:チュートリアル課題において、基本知識、技法が身についているかで評価する。 ○Ｅ:後半６回の授業を通じて制作する自身の作品において、習得した技術を応用し、質の高い表現が実現できているかで評価する 授業毎の課題提出物:30%、レポート:20%、最終自由作品:50%

テキスト	授業で必要な資料は配布するので、テキストの購入の必要はありません。
参考書	
履修上の注意	編集技術など、授業内で説明した内容を聞き逃すと、自由作品制作時など後から支障がでてきます。授業中の私語は慎み、できるだけ欠席も控えるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	goolgeクラスルーム, Adobe Premiere Pro

講義科目名称： プロジェクト実習Ａ　　授業コード： 2521

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲、押切孝雄			
ナンバリング：E26B47	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。 またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。 (授業目標) ◎Ａ：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。 ○Ｅ：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。
授業計画	1　ガイダンス（別宮，押切） ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 2　グループテーマの設定（別宮） ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 ※以下、「芝公園周辺を海外の人たちにアピールする動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す 3　コンテンツの検討（別宮） ・芝公園の何をアピールするのか、どこに取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。 4　コンテの作成と取材の計画（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。 5　コンテの作成と翻訳（１）（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 6　コンテの作成と翻訳（２）（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 7　内部レビュー（別宮）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・ここまでの計画と成果物（ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。 8　取材（１）（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・インタビューや撮影を行う。初日。 9　取材（２）（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・インタビューや撮影を行う。二日目。 10　動画作成の準備（１）（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・海外向けにキャプションなどの英訳を行う。 11　動画作成の準備（２）（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 ・有識者の英訳のチェックが必要であれば、このタイミングで完了させると良い。 12　動画作成（１）（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。 13　動画作成（２）（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。 14　動画と発表台本の作成（押切）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用)

	・動画を完成させる。 ・最終成果発表用の台本を作成する。 15　最終成果発表（別宮，押切）（グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ａ：実現可能な計画を立てることができる。 ○Ｅ：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：授業冒頭に毎回行う進捗報告にコメントする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ａ：計画書と達成状況を評価する。 ○Ｅ：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション（成果発表）
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form, Adobe CC 等

講義科目名称： プロジェクト実習Ｂ　　授業コード： 2821

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E36C48	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。1年次にプロジェクト演習Ａを履修していた学生は、当時のテーマの発展テーマを扱うことを推奨する。またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。 (授業目標) ◎Ａ：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。グループ内での役割分担を行い、相互の情報共有に基づいた適切な進捗管理を行うことができる。進捗管理を行うことで問題の発生を事前に気づき、担当教員に相談することができる。 ○Ｅ：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。
授業計画	1　ガイダンス ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 2　グループテーマの設定 ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 ※以下、「３Ｄホログラムによる実在人物の立体動画の作成」をテーマとした場合の計画を示す 3　コンテンツの検討とスケジューリング ・なにを３Ｄホログラムで表現するのか、そのためには何が必要なのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。全15回のスケジュールを完成させる。 4　３Ｄホログラム用の静止画撮影(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・プロトタイプとして静止画でのホログラムを作成。 ・スマートフォンで静止画撮影。 ・スマートフォンによる試験投影。 5　動画撮影（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・撮影ブースで人物の動画を撮影する。 6　動画撮影（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・前回の動画の問題点を解決する。画質の悪さ、明るさ、人物の着用する衣服の色などを変更する。 7　動画撮影（３）／グラフィックのテスト作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・前回までの試作を参考に、より大きな動きでの動画を撮影する。 ・GIFによるグラフィックによるアニメーションを試作する。 8　動画撮影（４）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・引き続き、動画の撮影。 ・撮影された動画の背景処理を行う方法を学習する。 9　動画編集（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・撮影された動画の背景処理を行う。 10　動画撮影（５）／動画編集（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・前回の背景処理の結果を踏まえ、より処理のしやすい動画の撮影方法を考察し実施する。 ・撮影された動画の背景処理を行う。 11　動画編集（３）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・撮影された動画の背景処理を行う。 ・背景処理を行った動画をスマートフォン用に書き出す。 12　動画編集（３）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・Windows、Mac、Android、iPhone、それぞれの環境に適したファイル形式を研究する。 ・より高度な編集のため、アプリケーションの学習を行う。 13　動画編集（４）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・最終版の動画編集を行う。 14　動画編集（５）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗

	報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・引き続き最終版の動画編集を行う。 15　最終成果発表(プレゼンテーション:最終成果物を発表する) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ａ：実現可能な計画を立てることができる。グループ内で適切な分担を行い、助けあいながら目標を達成することができる。 ○Ｅ：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。進捗報告では前回の成果も明確にする必要がある。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動をしていただきたい。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：毎回授業の最初に学生はグループごとに進捗をプレゼンテーションする。その場でクラス全員が聞いている中でのアドバイスを行うことで教員からのフィードバックを行う。また授業時間中も随時質問への対応を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ａ：計画書と達成状況を評価する。 ○Ｅ：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	テーマ設定に自由度を考慮した科目である。制作内容は学生毎あるいはグループ毎に異なる事となる。受け身の授業ではなく、自主的に研究する科目と考え、積極的に作業し、成果をあげて欲しい。 ここでのテーマは、他のワークショップにも引き継ぐ事ができ、短大生としてのまとまった学習成果として就職活動など今後に役立てられるものである。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション（成果発表）
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form, Adobe CC 等

講義科目名称： プロジェクト実習Ｃ　　授業コード： 2831

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E36C49	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	社会人として必要な主体性、責任感、計画性を涵養する授業である。 本授業では、自ら15週の達成目標を設定し、それを実現するために活動することを求められる。 テーマはこれまでに学んだ授業の延長線上にある応用や発展テーマでも良いし、自分の関心の高い別分野を選んでも良い。 またテーマを複数用意し、授業の前半と後半で別テーマに取り組んでも構わない。 授業の流れは企画→制作→発表となる。授業計画に例を示すので参考にすること。 (授業目標) ◎Ａ：高い目標をテーマに掲げ、現実的な計画を立てることができる。 〇Ｅ：これまでに習得した技術を生かした成果をあげ、その成果をプレゼンテーションすることで聴衆の共感を得ることができる。
授業計画	1　ガイダンス ・授業の進め方の説明とグループ分けを行う。 2　グループテーマの設定 ・各グループごとに何を作成するか検討する。 ・役割分担と大まかなスケジュールを作成する。また必要な機材や費用を見積もる。 ※以下、「短大進学を検討している高校生へ戸板女子短期大学をアピールする動画制作」をテーマとした場合の計画を示す 3　コンテンツの検討 ・戸板女子短期大学の何をアピールするのか、どこに、誰に取材に行くのかを検討する。 ・前回より詳細なスケジュールを作成する。 4　コンテの作成と取材の計画(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・インタビューや撮影に許可の必要な場所へのアポイントメントもここで行う。 5　コンテの作成と翻訳（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 ・ナレーションやキャプションについても文字に起こして検討する。 6　コンテの作成と翻訳（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画全体の流れをグループメンバーで共用できるようコンテを作成する。 7　内部レビュー(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・ここまでの計画と成果物（ここではコンテ)をグループメンバーで確認し、修正が必要であれば行う。 8　取材（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・インタビューや撮影を行う。初日。 9　取材（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・インタビューや撮影を行う。二日目。 10　動画作成の準備（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 11　動画作成の準備（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・取材結果をまとめ、動画に必要な文章（台本やキャプション）にする。 12　動画作成（１）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画を作成する。 ・動画への素材の取り込み、全体の流れの確認を行う。 13　動画作成（２）(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画を作成する。 ・ブラッシュアップ。細かなタイミングの修正などを行う。 14　動画と発表台本の作成(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・動画を完成させる。

	・最終成果発表用の台本を作成する。 15　最終成果発表(グループワーク:グループでテーマに沿って活動)(Zoom, Google Classroom:進捗報告)(各グループのテーマによって各種ICTを活用) ・完成した動画を制作過程などを交えて発表する。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ａ：実現可能な計画を立てることができる。 ○Ｅ：自らの取り組みの成果をプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：次回およびそれ以降の活動計画を作成する。（20分） 事後学習：授業の最初に進捗報告を行うため、授業後発表準備を行うこと。（30分） また、制作計画を達成するため、必要に応じて時間外でも積極的な活動を行うことを推奨する。授業時間外の設備の利用などは担当教員に相談すること。
指導方法	学生それぞれが決めたテーマに沿ってガイドする。全体に向けての解説は短時間で、多くの時間は制作のために使用する。作業の進み具合で、個人個人へ技術やアイデアについてサポートする。 成果物の種類はPCを使用した制作、レポートの執筆など、テーマに併せて決めて良い。 フィードバックの方法：授業冒頭に毎回行う進捗報告にコメントする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ａ：計画書と達成状況を評価する。 ○Ｅ：最終成果の報告（最終日に実施する成果報告）を評価する。 学習態度および進捗報告30%、作品と成果発表70% 作品は、最終成果の発表と品質に対し、評価ポイントをもとに評価する。評価ポイントはガイダンス時に発表する。
テキスト	特定の教科書は使用しない。 授業の要点については、デジタル教材で説明する。
参考書	
履修上の注意	好奇心を持って、演習やグループ討議に積極的に参加してください。現在の情報社会に生きるための基本的知識を身につけるとともに、日常生活の物事を論理的に考える姿勢を養成する科目でもあり、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	プロジェクト型学習、プレゼンテーション（成果発表）
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form 等

講義科目名称： Business Conversation: Office　　授業コード：2201　2202　2203

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
松井恵美子、森田千草、Daniel Gill			
ナンバリング：E16B50	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is a basic introduction to English used in a variety of work and office situations. It follows a set pattern of exercises of classwork, pair work, listening, reading and writing. Students must be prepared to engage in role play activities. To attain an A or S grade students have to show a high level of participation, understanding and use of language in each lesson. Students will be able to choose appropriate words on a business situation. To attain an A/S grade, students must continually show a high level of participation and use of the language learned previously. Students must also attain a final test score in the top 10% of the class. (Goals) ◎Ｄ: Students will practice in using key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for details. 〇Ｅ: Students will be required to speak, listen, and write in English in business situations.
授業計画	1 Orientation and Introduction (Pair work and role play) It's nice to meet you. 2 Clarifying Meanings (Pair work and role play) What does 'FYI' mean? 3 Phone Conversation(1) (Pair work and role play) May I speak to Mr. Yoshioka? 4 Phone Conversation(2) (Pair work and role play. Review quiz) May I take a message? 5 Calling in Sick (Pair work and role play) I have a headache. 6 Appointments (Pair work and role play) I have another appointment at 9:30. 7 Making Offers (Pair work and role play) Would you like something to drink? 8 Invitation (Pair work and role play. Review quiz) Let's go out for a drink. 9 Small Talk (Pair work and role play) How was your weekend? 10 Location (Pair work and role play) The sales department is on the 3rd floor. 11 Directions (Pair work and role play) Turn right on Main Street. 12 Instructions (Pair work and role play. Review quiz) First, press the start button. 13 Checking in at a Hotel (Pair work and role play) I'd like to check in. 14 Eating out (Pair work and role play) What would you like to have? 15 Presentation (Final review quiz and all students demonstrate pair work presentation) Review and final presentation.
学習成果・ 到達目標・基準	The students will have to participate to the best of their abilities and show a basic understanding of the language and grammar use in each class. ◎Ｄ: Students will learn the vocabulary words and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. 〇Ｅ: Students will be able to use key expressions, questions and vocabulary words used in office environment.
事前・事後学習	Homework will be set to prepare for the next lesson.(30 mins) Students will be expected to keep a vocabulary notebook and review the vocabulary words.(60 mins)
指導方法	Each unit should take 90 minutes to complete. All classes will be taught in English. Students will work in pairs or groups each week.

	Continuous personal feedback will be made based on participation, assignments and comments from the students.
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｄ: Reading, writing and listening components of each unit to be tested with regular reviews ○Ｅ: Students will be evaluated by small tests and assignments. Participation 20% Small tests 20% Assignments 20% Final test 40%
テキスト	Tae Kudo, First Steps to Office English. Cengage, 2011.
参考書	
履修上の注意	Students will be expected to work in pairs and as a group. They will practice communicating in English each week. Every student is expected to keep a notebook for vocabulary words and homework assignments. Announcements will be made through Google Classroom. Be sure to check your messages.
アクティブ・ラーニング	Pair work. Role play. Presentation.
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称：　ビジネス概論　　授業コード：2571　2572

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択必修
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E17B51	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ビジネスとは何か、人々はビジネスとどう関わっているのか、ビジネスを実践する企業は何を求め、どのように活動しているのか、そうした企業を社会はどう評価するのか、ICTの社会への浸透によりビジネスはどう変わるのかなど、また、企業研究の方法や、社会生活や就職活動に必要となる知識を学習する。 (授業目標) ○Ｃ：収入と生活の関係やビジネスの仕組みの理解などをとおして、社会人として論理的に考えて判断することができる。 ◎Ｄ：社会とビジネスの基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを使ってコミュニケーションを円滑に行うことができる。
授業計画	1　オリエンテーション（GoogleClassroomの運用方法、反転授業の方法などICT環境の導入） ビジネスの定義、および、自己紹介と今後の進め方、グループ（Gr）分け 2　ビジネス活動の概要１（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 産業の種類と働き方について 3　ビジネス活動の概要２（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業活動の概要と関係する人々の役割 4　ビジネス活動の概要3（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の売れる仕組みづくりとマーケティング 5　ビジネス活動の概要4（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） デジタル技術を活用したマーケティング（デジタルマーケティング） 6　ビジネス活動の概要5（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の経営と組織、グループ別プレゼンテーションの準備 7　ビジネスとICT1（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） グループごとに着目したビジネス（企業）に関するグループ別プレゼンテーション 8　ビジネスとICT2（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の収益を支えるビジネスモデル１ 9　ビジネスとICT3（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業の収益を支えるビジネスモデル２ 10　就職に向けた基礎知識1（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 職種と労働条件について、および、最近の就職活動の状況とビジネスシミュレーション１（起業） 11　就職に向けた基礎知識2（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業から見た新卒への期待と人事評価、および、ビジネスシミュレーション２ 12　就職に向けた基礎知識3（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 社会から見た企業に対する客観的評価 13　就職に向けた基礎知識4（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 企業研究の目的と方法、および、企業研究の実践 14　就職に向けた基礎知識5（Gr討議と発表） 企業研究の実践と研究成果のグループ別プレゼンテーション 15　女性の労働環境（GoogleClassroomで反転授業/穴埋め問題/小テスト、Gr討議と発表） 国内の女性の労働環境の現状と改善の方向
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｃ：収入と生活の関係やビジネスの仕組みとおして社会人として論理的に考え、判断する方法を理解できる。 ◎Ｄ：社会の基本的な仕組みについて理解を深め、基本的なビジネス用語などを理解できる。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する資料をよく理解する(60分程度)。 上記資料にあるテーマについて、グループで積極的に討議できるよう準備する（45分程度）。 事後学習：用語や考え方の整理、用語間の関連性などの理解・確認を行い、演習などの課題のある場合は回答を作成して、指定の期限までに提出する（75分程度）。
指導方法	事前学習、配布資料（PowerPointなど）に基づく講義、グループ討議、討議結果のプレゼンテーション、小テストなどを適宜行う。また、調査・分析の必要な宿題や課題の実行をとおして、意見をまとめる練習を行う。 フィードバックの方法：プレゼンテーションとグループ討議にはその場でコメントし、小テストには正誤と正解を即座に提示する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｃ：企業研究などの調査結果や適宜行うプレゼンテーションの内容を評価。 ◎Ｄ：課題回答や小テストの結果を評価。 事前学習への取り組みや授業での発言などの受講態度　30%、プレゼンテーション、小テスト、課題提出　30%、期末テスト　40%
テキスト	事前に提示する資料、小テスト、講義資料をデジタル教材として提供する。
参考書	『ITエンジニアのための【業務知識】がわかる本 第5版』（翔泳社）、『就職四季報 女子版　2022』（東洋経済）、『デジタルマーケティング集中講義』（マイナビ出版）、その他、必要に応じて授業中に指示する。
履修上の注意	１年生の後期以降は就職活動が始まるが、この科目には進路に関わる内容が多く含まれる。自分の将来を考えながら演習やグループ討議に積極的に参加し、キャリアプランに活かしてください。 また、基本的な知識は相互に関連しているので、毎回必ず出席してください。重要な連絡は、5Fの掲示板や教員からのメールで知らせるので、掲示板やメールは毎日一度は見るようにしてください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form 等

講義科目名称：　ビジネスプレゼンテーション実践演習　　授業コード：2581　2582

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
中村敏			
ナンバリング：E27B52	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	本授業は、様々なビジネスシーンで必要となるプレゼンテーションスキルを自律的に学習できるように、対話形式の講義を行うとともに、ワークショップ形式で授業を進める。また、身近な題材を取り上げることにより、受講者が楽しみながら学べる授業を目指している。授業の成果発表として、全員が複数回のプレゼンテーション実習を行う。 以下に示した授業目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 (授業目標) ◎Ｂ：聞き手の立場とメリットを十分に理解し、聞き手に分かりやすく自分の考えを正確に伝え、行動させることができる。 ○Ｃ：聞き手の現状と目指すべきゴールとのギャップを的確に把握し、ゴールに導くアイデアを論理的に整理することができる。また、聞き手の理解度に合わせて説明する内容を替えることができる。
授業計画	1　ガイダンス、プレゼンテーションとは何か（ICT：スマホ、タブレット、PCを活用し自ら学習を行う全15回） キーメッセージ「資格では差がつかないが、伝え方では差がつく」 授業の進め方のオリエンテーションを行い、授業の全体像、心構え、内容、進め方について理解する。受講者の考えるプレゼンテーションとは何か、本授業を通して何を身に付けたいのかを自己紹介とともに話してもらう。受講者全員のプレゼンテーションに対する認識の整理と本授業のゴールを明確にする。（全員が必ず発表する） 2　プレゼンテーションの本質、聞き手志向とは キーメッセージ「何故､プレゼンテーションをするのか？」 前回の授業で整理したプレゼンテーションに対する認識から、プレゼンテーションの成功とは何なのか？　聞き手の立場から考える。この時、非常に重要な聞き手の特性として、抵抗の６階層について学ぶ。 3　創造的な作業、ブレインストーミング演習①（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「プレゼンテーションの最初の一歩はアイデアの創造」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。（グループワークを通じて代表者が発表する） 4　創造的な作業、ブレインストーミング演習②（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「ブレストはアイデアの相互作用、誘発を狙う場所」 本演習は、グループワークで行う。 テーマ：コンビニエンスストアの店長になった時、今よりも儲けるためにはどうすれば良いのか？ ブレインストーミングによる、アイデア出し、アイデアの誘発・拡散を行い、その結果から採用するアイデアの整理、絞り込みを行う。アイデアを実現するために、誰に、どのようなプレゼンテーションをすれば良いのかを整理する。（グループワークを通じて代表者が発表する） 5　プレゼンテーションの効果的な構成（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「発表者は聞き手のナビゲーター（論理的な流れ）」 プレゼンテーションを行う時、最もやってはいけないことは、聞き手に漂流させてしまうことである。話があちこちに行ってしまったり、聞き手を置いてきぼりにしたりすると、聞き手は何も聞かなくなる。これを防ぐためには、プレゼンテーションのシナリオ、世界地図が必要になる。ここでは、シナリオの作り方を学ぶ。 6　課題　プレゼンテーション実習①（グループワーク、プレゼンテーション：ブレインストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。（全員が発表する） 7　課題　プレゼンテーション実習②（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「聞き手に向けて地図を書く（聞き手を見ながら）」 ブレインストーミング演習の結果から、各自がプレゼンテーションの資料を作成する。グループ毎に各自がプレゼンテーションを行い、最もよかった発表者を選出する。各グループの代表者がプレゼンテーションを行い、受講者が評価し、コメントする。（全員が発表する） ここまでが、プレゼンテーションの本質であり、基礎にあたる。（聞き手志向、アイデア創出、シナリオ作成） 8　プレゼンテーションの効果的なスタート方法（グループワーク、プレゼンテーション：ブレーンストーミングからグループのまとめを発表） キーメッセージ「導入の言葉は自然に聞き手を引き込むような短い表現」

	ここからは、プレゼンテーションスキルを高める応用について学習する。 聞き手は、ほとんどの場合、プレゼンテーションを聞く準備ができていない。これを発表者に注意を向けさせ、短時間でプレゼンテーションの内容に興味を持たせることがスムーズにプレゼンテーションを行う上で重要になる。ここでは効果的なスタート方法について学習する。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 9　スライドの役割とは キーメッセージ「主役は「発表者」スライドは「脇役」（名脇役＝Less is More）」 プレゼンテーションの主役は、聞き手と発表者である。本来、スライドはプレゼンテーションを効果的に補助するためのものであるが、多くのプレゼンテーションではスライドが主役になっている。具体的には、発表者の話を聞かずに、スライドを読んでいる状態をさす。本来のスライドの役割を理解し、効果的なスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 10　プレゼンテーションデザイン①　文字に語らせる キーメッセージ「文字に語らせる」 効果的に聞き手の記憶にメッセージを残すためには、「聞くこと」と「見ること」を同時に行う必要がある。この時、「見ること」であって「読むこと」ではない。（読み始めると、発表者の話を聞かない）自然と文字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 11　プレゼンテーションデザイン②　数字に語らせる キーメッセージ「数字に語らせる」 数字は大きな力を秘めている。「多い」よりも「９０％以上」の方が、より明確にメッセージが伝わる。逆に数字の羅列は真実を隠す場合もある。文字と同様に、自然と数字が語るスライドの作成について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 12　画像の優位性効果 キーメッセージ「百聞は一見に如かず」 「見ること」によって効果的にメッセージを伝えるものとして、写真がある。（動画もあるが、プレゼンテーションが中断されるので注意が必要）１枚の写真で多くのメッセージを伝えることができるが、選定が難しい。有効な写真の使い方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 13　聴衆と心を通い合わせる キーメッセージ「聞き手と心を通わせる」 最後に話し方である。流暢に話すことが良いとは限らない。朴訥でも聞き手の琴線に触れ、心を通い合わせることが重要である。その為には聞き手の立場に立って話す必要がある。聞き手と心を通い合わせる話し方について学ぶ。（理解度を測定するワークを行い代表者が発表する） 14　最終課題　プレゼンテーション実習① 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。 自分の好きなこと、興味のあることを１つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか）なるほど分かった」「よし、私もやってみたい」と思うかどうか。（全員が発表する） 各自、発表者と他のプレゼンテーションの審査員を担当する。 15　最終課題　プレゼンテーション実習② 今まで学習してきたことをもとに、最終課題としてのプレゼンテーション実習を行う。 自分の好きなこと、興味のあることを１つ選び、受講者の前でプレゼンテーションを行う。成功基準は、受講者が、「（なぜ好きなのか、なぜ興味があるのか）なるほど分かった」「よし、私もやってみたい」と思うかどうか。（全員が発表する） 各自、発表者と他のプレゼンテーションの審査員を担当する。
学習成果・ 到達目標・基準	以下に示した到達目標は、発表者と聞き手の関係の中で設定している。 ◎Ｂ：聞き手の立場に立って、自分の考えを伝えることができる。 ○Ｃ：聞き手を導くゴールに向けてアイデアを論理的に整理して説明することができる。
事前・事後学習	【事前学習】PowerPointでの資料作成は事前に学習しておくこと（テンプレートの使い方、図の作成方法、画像やグラフの挿入方法）。（30分～1時間程度） 事前に、GoogleClassroomに登録された講義資料（PDF）をダウンロードし、必要に応じプリントアウトの上、スライドに説明されている内容を確認しておくこと。 【事後学習】講義内容は十分に復習すること。具体的には、GoogleClassroomに登録された復習用資料（PDF）をダウンロードし、ノートに書かれた説明を熟読すること。（30分～1時間程度） 指示された課題に関しては、GoogleClassroomの課題に提出すること。（30分～1時間程度） プレゼンテーション実習で使用するスライド作成は、授業時間外で十分に時間を確保して行うこと。（数時間程度）
指導方法	授業形態は、Zoom中継型で実施する。対面、オンラインともに、対話形式の講義を行うことにより、疑問点の早期収束と人前で話すことに対する不安の解消を行う。ワークショップにおいては自主的に取り組むようにファシリテートする。プレゼンテーション実習では、講師だけでなく受講生もコメントを発表することにより、話し手、聞き手の両方からプレゼンテーションの本質を理解するように指導する。 後半のカリキュラムからは、より実践的に学習するために、優れたプレゼンテーション事例を取り上げケーススタディを行う。 フィードバックの方法：①ワークの実施　②スライド作成については個々にメールによる指導　③授業後の質疑応答
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｂ：ワークショップにおけるチーム活動の取り組み状況と、聞き手を意識したプレゼンテーションの到達度で評価する。 ○Ｃ：各講義の課題に対する取り組み状況と、プレゼンテーションのシナリオの論理性で評価する。 評価は、授業への参加態度２０％、課題の取組み状況３０％、プレゼンテーション実習５０％の比率で行う。
テキスト	購入テキストなし。講義資料を毎回配布する。
参考書	パワー・プレゼンテーション　ジェリー・ワイズマン 著（ダイヤモンド社） シンプルプレゼン　ガー・レイノルズ 著（日経ＢＰ社） マッキンゼー流プレゼンテーションの技術　ジーン・ゼラズニー 著（東洋経済新報社）
履修上の注意	プレゼンテーション実習は必ず出席すること（対面、オンラインで実施）。また、ワークショップの構成上、遅刻は避けること。各自設定したテーマのプレゼンテーションの作成は授業内容を踏まえ授業時間外での自習時間を当てること。グループワークは集団行動の基本を順守し、グループの和を乱すような態度や言動を慎むこと。

アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	スマホ、タブレット／PC TED（Technology Entertainment Design）でのプレゼンテーションを教材として活用

講義科目名称： ネットコミュニケーション論　　授業コード：2471　2472

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
関亜紀子			
ナンバリング：E27C53	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	今日、メールやWeb、SNSなどネットワークを利用した新たなメディアが登場しており、これらを活用した多様なコミュニケーション形態が登場しています。本講義では、これらのメディアの特徴の違いを学ぶと共に、演習を通してそれぞれの活用方法と作法を理解することを目的としています。講義の前半の回では、一般個人がコミュニケーションに用いるネットワークメディアについて学習し、後半はグループや組織、ビジネスでの情報およびノウハウの共有や協働作業などを支援するためのコミュニケーションメディアの活用方法について学習します。 (授業目標) ◎Ｄ：各種メディアを使ったネットコミュニケーションの特性の違いを理解し、それぞれの留意点を考慮した活用方法を説明できる ○Ｅ：ネットコミュニケーションツールを効果的に活用することができる。
授業計画	1　ガイダンス 講義計画、講義の進め方、成績評価に関する説明 ネットコミュニケーションの導入 2　コミュニケーションツールの分類１ ネットコミュニケーションに用いられているメディアの特徴の調査と分類 （実習　GoogleClassroom：調査結果の整理） 3　コミュニケーションツールの分類２ ネットコミュニケーションに用いられているメディアの特徴を分類のまとめ （実習　GoogleClassroom：調査結果の整理と考察） 4　身近なコミュニケーションツール１ 個人間のコミュニケーションに用いられている電子メールの基本ルールと作法を学ぶ （実習：メールによる日程調整）（実習　Gmail：メールの作成） 5　身近なコミュニケーションツール２ グループ内のコミュニケーションのためのメールの活用手法を学ぶ （実習：メールを使ったグループのコミュニケーション）（実習　Gmail：メールの送受信） 6　身近なコミュニケーションツール３ 個対多のコミュニケーションに用いられているWeb上のメディアの活用方法と作法を学ぶ （実習：添付ファイルの送受信）（実習　Gmail：ファイルの暗号化と送受信） 7　公共におけるコミュニケーションツールの活用事例 日常生活や災害時などの情報発信としてのコミュニケーションツールの活用事例の調査 （実習　GoogleClassroom：調査結果の整理） 8　ネット時代のトラブル ネットコミュニケーションに関連するトラブルと情報モラルについて学ぶ 9　業務を支援するコミュニケーションツール 営業活動などのノウハウを共有し、業務効率を向上させるためのコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ 10　遠隔地間の会議を支援するコミュニケーションツール 遠隔地間の会議を支援するネットワークメディアの活用方法を学ぶ （実習　グループワーク：遠隔会議の体験）（実習　GoogleClassroom：遠隔会議の実施） 11　協働作業のためのネットコミュニケーション１ グループの協働作業を支援するコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ１ （実習　グループワーク：遠隔会議の実践）（実習　ZOOM：Web会議の実施） 12　協働作業のためのネットコミュニケーション２ グループの協働作業を支援するコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ２ （実習　グループワーク：遠隔での協働作業体験）（実習　GoogleClassroom：ファイルの共同編集） 13　協働作業のためのネットコミュニケーション３ グループの協働作業を支援するコミュニケーションツールの活用方法を学ぶ３ ファイルの相互チェックとコメントの共有による最終調整 成果のプレゼンテーション （グループワーク：グループごとに成果を発表する）（実習　GoogleClassroom：発表内容を相互評価する） 14　協働作業のためのネットコミュニケーション４ 成果のプレゼンテーションとまとめ 写真共有と活用時の注意点についてまなぶ （グループワーク：グループごとに成果を発表する）（実習　GoogleClassroom：発表内容を相互評価する） 15　ネットコミュニケーションツールの活用時の留意事項 ネットコミュニケーションにおける個人やプライバシー情報の取り扱いについて学ぶ （実習　GoogleClassroom：個々の意見の共有）

学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：各種メディアを特性の違いを考慮した効果的な活用方法を説明できる ○Ｅ：各種メディアを活用してネットコミュニケーションをすることができる
事前・事後学習	事前学習： 次回の講義で扱うネットワークメディアについて調査し，概要をまとめる。（80分程度） 事後学習： 講義時間内に指示した課題を完成させる。（60分程度） 講義で扱ったメディアの特徴を整理し，ポイントをまとめる。（40分程度）
指導方法	講義だけでなく、Googleのツールを活用したネットコミュニケーションの演習を取り入れる。 なお、講義時間内の演習課題は事後学習を通して完成させることを前提に進める。 授業課題のフィードバック方法： ①授業内課題の実施、②クラス内での共有または採点（評価）返却、③授業後におけるコメントへの質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｄ：授業課題および定期試験を評価する。 ○Ｅ：授業課題の活用履歴で評価する。 筆記試験 45%、　演習課題提出物（時間内および時間外）40%、　授業態度・貢献度 15%
テキスト	例題80でしっかり学ぶ メディアリテラシー標準テキスト 定平誠，技術評論社，2020年初版発行 ISBN 978-4-297-11325-4
参考書	ゼロからはじめる情報リテラシー， 高橋尚子，技術評論社，2015年初版発行 ISBN978-4-7741-7059-6
履修上の注意	ほとんどの講義は、理解を深めるためにパソコンを使って課題を実施する。その際、文書作成やプレゼンテーション資料作成、各種情報の調査に必要な、基本的なコンピュータリテラシを備えていることを想定して実施する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	PC，GoogleClassroom，Gmail，ZOOM

講義科目名称： コンテンツビジネス論　　授業コード：2861　2862

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E37C54	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	Webコンテンツ、映像コンテンツ、書籍といったコンテンツ・情報を制作し流通させるビジネスをコンテンツビジネスという。 コンテンツビジネスは日本が世界と競争できる分野であるとされるが、競争に勝つためには現在の強みと弱み、グローバル化のために何が必要かを知る必要がある。 本授業では政府資料と最新のニュース、その他様々なメディアを流れる情報や思想を読み取ることで、国内外のコンテンツビジネスの現在と今後を考える。これまでに身に着けてきた異文化理解力とICT知識の総合的な力を必要とする授業である。 (授業目標) ◎D：日本文化が世界に与えている影響を市場別に説明することができる。ICTの進歩による今後のビジネスの構造の変化を考察できる。
授業計画	1　ガイダンス ・授業の目標と進め方 ・最終課題のテーマ発表 2　コンテンツ産業（Google Classroom:ノート作成） ・コンテンツとは何か ・コンテンツ業界の市場構造 ・コンテンツ業界の市場規模 ・デジタルコンテンツの市場規模 3　日本コンテンツの海外進出（Google Classroom:ノート作成） ・クールジャパン政策 ・ローカライズ ・ジャパンブランドとコラボレーション 4　音楽業界（Google Classroom:ノート作成）（Google Form：アンケートと集計・分析のフィードバック） ・音楽業界の市場構造 ・パッケージ型と配信型 ・環境変化の中におけるレコード会社の戦略 ・音楽出版社とは ・音楽コンサート市場 5　放送業界（Google Classroom:ノート作成）　（Google Form：アンケートと集計・分析のフィードバック） ・放送業界の市場構造 ・民間放送局のビジネスモデル ・国営放送局のビジネスモデル ・テレビ視聴者の変化 ・動画配信サービス 6　映画業界（Google Classroom:ノート作成）（Google Form：アンケートと集計・分析のフィードバック） ・映画業界の市場構造 ・映画の興行収入 ・マルチウインドウ戦略 ・映画製作委員会の一般化 ・ビデオソフト業界の変化 7　キャラクタービジネス（Google Classroom:ノート作成） ・キャラクタービジネスと他のコンテンツビジネスの関係 ・コンテンツと地域振興（ゆるキャラ） 8　ゲーム業界（１）（Google Classroom:ノート作成）（Google Form：アンケートと集計・分析のフィードバック） ・ゲーム業界の市場構造 ・拡大するオンラインゲーム市場 ・スマホゲームと家庭用ゲーム ・ゲーム内課金とコンプガチャ問題 9　ゲーム業界（２）（Google Classroom:ノート作成） ・ゲームの歴史と文化 ・大手ゲームメーカーの現状 ・Eスポーツ 10　アニメーション業界（１）（Google Classroom:ノート作成）（Google Form：アンケートと集計・分析のフィードバック） ・アニメーション業界の市場規模 ・拡大する日本アニメの海外市場 11　アニメーション業界（２）（Google Classroom:ノート作成） ・アニメーションの歴史 ・初期のビジネスモデルと現在のビジネスモデル

	・クールジャパンと地域貢献 12　アニメーション業界（３）／コミック(漫画)業界（Google Classroom:ノート作成） ・紙の漫画市場 ・いまだ人気作品を生み続ける漫画雑誌 ・漫画アプリ ・アニメ配信ビジネス 13　ウェブ・コンテンツ業界（Google Classroom:ノート作成） ・ウェブ・コンテンツ業界の市場構造 ・ウェブ・コンテンツ業界の代表的なビジネスモデル ・電子書籍サービスの動き ・インターネット広告 14　モバイル・コンテンツ業界（Google Classroom:ノート作成） ・モバイルコンテンツ市場の現状 ・SNS毎に異なる利用者のタイプ ・ビッグデータと行動ターゲティング広告 15　コンテンツと著作権（Google Classroom:ノート作成） ・コンテンツ産業と著作権ビジネス ・財産権としての著作権
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：様々なビジネスの構造を理解することで、社会人として必要な基本的なビジネス知識を身につけ、それらについて説明できる。
事前・事後学習	事前学習：コンテンツビジネスに関するニュースを日々調べる。(60分) 事後学習：毎週の講義を振り返り、口頭での質問にも対応できるように自分の言葉で整理し、まとめる。(120分)
指導方法	講義形式の授業である。 講義形式の授業だが、授業内で受講者対象のアンケートをGoogle Formで実施し、市場一般の統計情報と比較するなど、PCを使用する機会が多いため情報教室で授業を行う。またPCによるキーボードタイピングでのノート作成を推奨する。 フィードバックの方法：課題へのコメントの他、アンケートの集計結果の公開などもGoogle Classroomで行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	筆記試験とレポートで評価する。レポートは単元ごとに提出する。 ◎Ｄ：提出されたレポートと筆記試験でコンテンツビジネスの理解度を評価する。 授業態度20%、課題30%、定期試験50%
テキスト	最新コンテンツ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第3版]（秀和システム）
参考書	コンテンツ産業の現状と今後の発展の方向性(経済産業省) 最新アニメ業界の動向とカラクリがよくわかる本[第2版](秀和システム)
履修上の注意	日常的な情報収集が必要な授業である。 特に自分が好きなコンテンツについては自信を持って説明ができるよう常に準備をし、積極的に授業に参加することを期待する。
アクティブ・ラーニング	Google Formによるアンケートと、集計結果を用いた講義
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Google Form

講義科目名称：　秘書実務論Ａ　　授業コード：2591　2592

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
藤井直子			
ナンバリング：E17C55	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	【授業内容】秘書検定3級合格を目指す。 秘書の役割と資質、一般知識と基本的技能について理解し、実社会で必要な知識や能力について主体的に取り組みながら習得していく。 自己能力を高め、それらを発揮出来る職業選択の幅と可能性を広げていく。 【授業目標】秘書の役割、資質、一般知識、接遇技能について知識を習得し、実社会で生かせる実践力を養う。 ◎Ｄ：秘書の資質、技能を理解するとともに、社会人として必要な資質と能力を習得していくことが出来る。 ○Ｅ：学習した秘書に必要な知識・能力を、社会での諸活動で臨機応変に発揮出来る。
授業計画	1　オリエンテーション/社会人としての自覚と心構え 授業概要説明（到達目標の確認、授業での心構え、評価方法） 秘書検定3級試験に関する説明（秘書検定審査基準、受験の際の注意点） 社会人・秘書の心構えを習得する。 2　秘書の資質・役割/秘書の職務知識 秘書に求められる役割・必要な資質について理解する。 秘書に求められる基本能力について理解する。 定型業務と非定型業務における秘書の仕事・効率的な仕事の進め方を学ぶ。 ３　企業の基礎知識 企業の組織と社会での役割について理解する。 経営管理についての基礎知識を学ぶ。 経営管理に関する初歩的な用語を学ぶ。 4　社会常識について 社会常識、経済に関する基本用語を学ぶ。 5　マナー・接遇１ 社会での円滑な人間関係についての重要性について理解する。 秘書として接遇の心構え、マナー、敬語、接遇用語を理解し身に付ける。 6　マナー・接遇２ 話し方の応用（対面；ロールプレイングで実践） 指示の受け方、報告・説明をする際の心がけとポイントを理解する。 コミュニケーションを円滑する聴き方を理解する。 7　電話応対 電話のマナーと応対の仕方を学ぶ。（全員がグループワークを通して、実践力を身に付ける） 8　マナー・接遇３　来客応対 来客応対の基本マナーを学ぶ。（対面；グループワークを通して、実践力を身に付ける） ICT活用：理解力・実践力を深めるため、6月実施の秘書技能検定試験対策として、授業終了後にGoogle Classroomで公開する秘書検定試験用練習問題を各自で実践する。 9　交際の業務について 慶事・弔事のマナーについて学ぶ。 慶事・弔事での秘書の対応について学ぶ。 贈答のしきたりとマナーを習得する。 10　会議と秘書の役割について 会議の目的と予備知識を理解する。 秘書が行う会議の主な準備、会議中の主な仕事、事後処理について学ぶ。 11　ビジネス文書の作成 社内文書、社外文書の種類と形式を理解する。 ビジネス文書の慣用表現と敬語を習得する。 メモの種類と効果的な取り方を学ぶ。 折れ線グラフ、棒グラフの書き方を学ぶ。 12　文書管理 ビジネス文書の受信・発信方法を理解する。 「秘」扱い文書の取り扱いについて学ぶ。 郵便の基礎知識を知る。 13　資料管理・スケジュール管理 資料の整理、保管、簡単な社内外の情報収集、整理、保管方法を学ぶ。 上司のスケジュール管理について学ぶ。 快適な職場環境をつくるための基礎知識を習得する。 14　問題演習と解説１ これまでに学習した内容についての確認と理解を深める。 実技チェック(対面授業)・秘書検定3級問題演習と解答・解説

	15　　問題演習と解説２ 秘書検定3級問題演習と解答・解説
学習成果・ 到達目標・基準	秘書検定3級に合格出来る実力を身に付ける。 ◎Ｄ：秘書の役割を果たすために必要なことを学び、秘書としての基本的な知識・資質を習得する。 ○Ｅ：学習した秘書の資質、知識、技能を日常生活から実践することが出来る。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に関するテキストの該当章と事前配布資料を読んでおくこと。（約60分） 事後学習：毎回の授業で学習した内容、理解度チェックを必ず復習すること。(約60分) Google classroomで提示した課題に取り組み、必要事項に解答し、期限内に提出すること。(約60分)
指導方法	講義は基本的にテキスト・配布資料・パワーポイントを使用し進める。 一方的な講義ではなく、思考力を有する演習問題、理解度チェック、グループワーク、ロールプレイング等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：理解度チェックテスト、実問題演習に関しては、実践後、質疑応答を行い解説する。 課題提出にGoogle classroomを活用する。：①課題を提示、②課題提出(学生）、③採点し返却する。必要に応じ適宜要点をフィードバックし公開する。 学生の学習状況把握のため、Google classroomを活用し課題の取り組み・提出状況をチェックする。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	Ｄ：定期試験・課題テスト・授業態度を評価する。 Ｅ：授業態度・授業中の発言力・課題テスト・定期試験を評価する。 事前学習10%、事後課題テスト30%、定期試験40%、授業態度・貢献度20%
テキスト	『秘書検定3級クイックマスター』改訂新版　実務技能検定協会　早稲田教育出版　（2020年1月10日　第10刷発行）
参考書	『秘書検定集中講義3級』実務技能検定協会　早稲田教育出版 『秘書検定3級実問題集』実務技能検定協会
履修上の注意	知識を習得するだけではなく、それらを実際に活かせる力にすることが大切である。その為には、自己管理・身だしなみ・言葉遣い・マナー・知識を深めるなどを日頃から実践し日々の生活や授業で習慣化することが、自己能力と社会人としての自覚を高め、就職内定と将来の可能性の向上にも大きく繋がることを自覚してほしい。 学習したことを自分の日常生活や今後のインターンシップなどでの体験で落とし込み自主的に考え行動するなど、学習内容を深く習得していく能動的な態度が必要となる。 毎回の授業の積み重ねが大切であるため、欠席、遅刻をしないこと。 課題提出は必ず提出期限を厳守すること。 尚、受講者の理解度、参加意識などに応じて、授業内容を一部変更する場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイング
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom　授業内外での理解力・実践力を深めるため６月実施予定の秘書検定試験対策として、classroomで8回目授業日に公開する秘書検定試験用練習問題に取り組む。

講義科目名称： 秘書実務論Ｂ　　授業コード：2601　2602

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
松岡友子			
ナンバリング：E27C56	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	授業内容とそのねらい ・秘書技能検定2級合格に必要な知識と技能を習得する。 ・問題演習を行いながら、テキストを用いて確認し、知識を深める。 授業目標 ◎Ｄ：秘書検定2級に合格する。さらにはビジネス文書検定・サービス接遇検定や上位級にも対応する幅広い知識を理解する。 ○Ｅ：単なる検定対策として知識を理解するだけでなく、社会人に必要とされる技能として身につけ、実践することができる。
授業計画	1　オリエンテーション／秘書検定とは／秘書の心構え（グループワーク） 自己紹介・講義の到達目標の確認・授業の共通ルールの徹底 秘書検定の受け方・審査基準説明 秘書に必要とされる資質・心構えを理解する （グループワーク：グループでまとめ、全員が必ず発表する） 2　企業と経営・企業の活動 資本と経営について理解する 企業の組織形態について理解する 経営管理について理解する 生産管理、マーケティングについて理解する 会社をめぐる法律について理解する 各種用語について理解を深め、覚える 3　秘書に必要な条件／秘書の役割と機能／秘書の職務 秘書に求められる6つの能力について理解する 職務知識として秘書の役割と機能を理解する 定型業務・非定型業務・効率的な仕事の進め方を理解する 4　グラフの書き方／会議と秘書 グラフの書き方を理解する 会議の知識・会議中の秘書の仕事を理解する 5　交際の業務について パーティー・会食の知識を理解する 慶事の応対を理解する 弔事への対応・心得とマナーを理解する 贈答のしきたりとマナーを理解する 6　問題演習（1） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 7　問題演習（2） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 8　問題演習（３） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 9　問題演習（４） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 １０　問題演習（５） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 １１　問題演習（６） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 １２　問題演習（７） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。

	１３　問題演習（８） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 １４　問題演習（９） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。 １５　問題演習（１０） 秘書検定2級過去問演習と解答解説 記述問題と実技問題を中心に解答解説を行う。 テキストを用いて該当箇所を確認する。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：2021年度後半に予定されている秘書検定2級の試験内容を理解する。 〇Ｅ：社会人として求められる、ビジネスマナー・電話応対・来客応対・ビジネス文書作成などの基礎を理解し、身につける。
事前・事後学習	事前学習：課題が与えられている場合には取り組む。（80分） 次回講義内容に該当するテキストを読み込む。（60分） 事後学習：テキストの問題に取り組むなどして、知識の定着をはかる。（60分）
指導方法	・基本的にはテキストと配布プリントを用いて講義を進める。 ・検定対策として、問題演習を行う。 ・課題として答案を提出する場合は、教員からのアドバイスとともに自身の検定への取り組みに役立てる。 ・課題によっては、Google Classroomを活用して提出や発表を行う。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｄ：秘書検定・ビジネス文書検定・サービス接遇検定など、各種ビジネス系検定の合格を目指して努力する姿勢を評価する。 〇Ｅ：学んだ知識や技能を理解しようとしているか、内容を身につけようとしているか、身につけて実践しようとしているかを評価する。 授業態度・貢献度30％ 課題提出20％ 課題発表10％ 定期試験40％
テキスト	秘書検定2級クイックマスター　実務技能検定協会編　早稲田教育出版
参考書	『秘書検定実問題集2級』　実務技能検定協会編　早稲田教育出 『秘書検定集中講義2級』　実務技能検定協会編　早稲田教育出版 『誰とでも仲良くなれる敬語の使い方』松岡 友子　明日香出版社
履修上の注意	秘書検定の出題範囲は、社会人として必要な基礎知識をほぼすべて網羅している。また検定の社会的認知度も高く、2級取得者は、社会人としての基礎知識の習得ができていると評価される。 勉強内容は多岐にわたり、決してやさしい検定ではないが、2級受検者の多くを学生が占めている。丁寧に学習を積み重ねれば学生でも合格は十分可能である。 ぜひ、秘書検定以外にも、サービス接遇検定やビジネス文書検定等の取得も目指してほしい。 なお、検定実施日や資格取得状況、受講者の参加意識などにより、授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom, Google Forms

講義科目名称： Business Conversation：Sales　　授業コード：2191　2192　2193

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：選択必修
担当教員			
高橋大樹、玉川明日美、Daniel Gill			
ナンバリング：E17B57	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course is for students who need to communicate confidently in everyday business situations and understand global business cultures. It is also useful for learners who need to develop their basic English ability. Goals for grade A/S are a high understanding and use of the language and engagement in the activities, plus a score in tests in the top 10% of the class. The students will be able to choose appropriate words on a business situation. (Goals) ◎Ｄ: Students will practice in using key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for detail. 〇Ｅ: Students will be required to speak, listen, and write in English in situations dealing with business.
授業計画	1　Introduction to the text and course, classroom language, behavior and expectations Activities to get to know each other, Name cards 2　First meetings (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Meeting a client, talking about yourself, interviews 3　You and your company (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) introducing your company, company activities, departments and daily activities 4　Visiting a client (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Arriving for an appointment, at reception, Meeting people, finding the right room 5　Business activities (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Describing routines, talking about company activities 6　Fixing an appointment (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Arranging to meet, Speaking to reception, Fixing an appointment, telephoning 7　Requests and offers (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Placing an order, requests and offers, checking information (email and website addresses) 8　Company and personal history (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Company history, a family business 9　Making plans (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Announcing company plans, talking about company objectives, a business trip 10　Opinions and preferences (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Choosing the best candidate, making comparisons, agreeing and disagreeing 11　Directions and invitations (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Finding your way, asking for and giving directions, apologies and invitations 12　Entertaining (All students must take part in pair work, role play and listen and repeat activities) Offering food and drink, at a barbecue, at a restaurant 13　Saying goodbye (All students must take part in pair work role play and listen and repeat activities) Saying goodbye, keeping in touch, talking about the future 14　Workbook exercises Part 1. Peer marking and editing 1-4 Units Small Quizzes 15　Workbook exercises Part 2. Peer marking and editing 5-8 Units Small Quizzes and notebook checking

学習成果・ 到達目標・基準	The students will be expected to participate in all exercises to the best of their ability and achieve a score of at least 60% in the final test. ◎D: Students will learn the vocabulary and grammar to communicate with each other in pairs and in groups. ○E: Students will be able to use key expressions, questions and business vocabulary.
事前・事後学習	Some modules from each unit will be set for homework to do before class.(30 mins) Students will be expected to keep a vocabulary notebook after class.(60 mins)
指導方法	Each lesson will introduce everyday business situations around a theme. Students will practice listening and speaking skills alone, in pairs and in small groups. There is a limited reading and writing element in each lesson. There will be continuous personal feedback regarding participation in class. Students will peer mark quiz and review tests which will be scored and graded in class.
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎D: Students will be evaluated by how they participate in the class. ○E: Students will be evaluated by the quizzes given in the class and the final test given at the end of the semester. Participation - 30% Unit Quizzes - 20% Final test - 50%
テキスト	Barnard, Roger, et al. Business Venture 1. Oxford UP. 2009.
参考書	An English-Japanese dictionary
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and to work in pairs.
アクティブ・ラーニング	Pair work, role play
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： メディカルクラークＡ　　授業コード： 2621

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
ナンバリング：E18C58	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医療事務の仕事の中でも医療費計算業務は、医療機関の経営に係わる重要な業務です。演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○Ｄ：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎Ｅ：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、基本的な診察料・医学管理料・投薬料・注射料・処置料の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1　ガイダンス（医療事務とは） 授業内容、授業の進め方、資格試験について、評価方法に関する説明 医療事務の仕事の内容について学ぶ 2　投薬①（薬剤料） 薬価表に記載されている金額（円）を点数に換算する方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3　投薬②（調剤料、処方料、調剤技術基本料） 薬剤を処方する際の技術料やレセプト記載方法を学ぶ 4　投薬③（処方せん料） 医師が交付する処方箋にかかる技術料やレセプト記載方法を学ぶ 5　注射①（皮内・皮下及び筋肉内注射、静脈内注射） 注射薬の容器の種類と薬剤料の算定方法、注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 6　注射②（点滴注射、その他） 薬剤料の算定方法と注入方法の種類及びレセプト記載方法を学ぶ 7　初診料 初診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 8　再診料 再診料の算定方法（年齢、緊急受付時間等の加算等）及びレセプト記載方法を学ぶ 9　医学管理等①（特定疾患療養管理料、治療管理料） 病気に対する医師の指導管理等及びレセプト記載方法を学ぶ 10　医学管理等②（その他医学管理等） 紹介状等の文書に係る費用及びレセプト記載方法を学ぶ 11　在宅医療①（在宅患者診療・指導料） 医師が患者の自宅等に赴いて診療を行った場合の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 12　在宅医療②（在宅療養指導管理料） 自宅等で患者（家族）が行う注射や酸素療法等の費用及びレセプト記載方法を学ぶ 13　処置①（通則・一般処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14　処置②（その他の処置） 処置料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15　外来カルテ演習 レセプトを作成する
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｄ：初・再診、医学管理、投薬、注射、処置の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎Ｅ：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（30分程度） 事後学習：授業内容を復習し、カルテ例題の課題に取り組む。Google Classroomの小テスト付き課題は期日までに行い理解を深める。（150分程度）
指導方法	・テキストを中心に、プロジェクター、PowerPoint及び配布資料を用いた授業形式で進める。 ・医療費計算を行うため、電卓の使い方も指導する。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、事後学習としてレセプト及び算定についての学科問題は課題提出とする。 ＊課題のフィードバック方法：Google Classroomでの採点、返却。授業内外で質疑応答。

アセスメント・成績評価の方法・基準	○Ｄ：定期試験・課題を評価する。 ◎Ｅ：定期試験・課題を評価する。 定期試験50％、課題40％、授業態度・貢献度10％
テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2021年出版）、『ﾃｷｽﾄ2　算定とレセプト（上）』『ﾃｷｽﾄ3　算定とレセプト（下）』『ﾃｷｽﾄ4　トレーニングブック』『ﾃｷｽﾄ5　サポートブック』『薬価表』『レセプト用紙（診療報酬明細書）』（ソラスト・2021年出版） 検定対策として『2021年度版　医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』（2021年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、テキスト2～5、薬価表、レセプト用紙、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称：　メディカルクラークＢ　　授業コード：2631

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
ナンバリング：E18C59	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	医療秘書に必要な基礎的知識及び技能として、医療機関の受付業務や電話応対などの実務、医療に関する各制度・法規の内容を理解し、医療機関の事業目的及び組織・運営について学ぶ。「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 医療秘書、医療事務の業務や実務、医療機関の役割、医療に関する法規を理解する。 ◎Ｄ：医療保険制度、各種健康保険法、守秘義務、医療関連用語、医療機関の事業目的を理解する。 ○Ｅ：医療機関の受付や電話応対、患者や医療機関で働く人々との接し方、話し方を習得する。
授業計画	1　ガイダンス（医療事務と法規） 医療秘書技能検定、授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 医療事務に必要な法律の種類について 2　医療秘書の仕事① 医療秘書の役割、医療秘書の実務（基本編） 3　病院・診療所・調剤薬局での事務の仕事、医療秘書の仕事② 医療秘書の実務（実務編） 4　医療機関の組織・運営① 日本の病院の特徴と機能、保健・医療・福祉の施設 5　医療機関の組織・運営② 管理の原則、病院の組織、病院事務部門の業務、病院の管理者、関連用語 6　医療機関の概要・医療保険のしくみ① 医療機関と薬局、医療機関の施設基準（医療法） 7　医療機関の概要・医療保険のしくみ② 医療機関の施設基準（医療法）、医療保障制度 8　医療機関の概要・医療保険のしくみ③ 医療保険の種類、給付の範囲と種類（健康保険法） 9　医療機関の概要・医療保険のしくみ④ 高額療養費、保険外併用療養費（健康保険法） 10　診療報酬に関する法規①（診療報酬請求） 請求事務、診療報酬請求のしくみについて 11　その他の関連制度①（公費負担医療） 国や自治体が公費で診療費を負担する制度について 12　その他の関連制度②（労災保険、介護保険） 仕事中のけがや、介護保険法について 13　その他の関連制度③（療養担当規則） 保険医療機関や保険医が守らなければならない規則について 14　その他の関連制度④（医療従事者に関する法律） 医師、薬剤師、看護師等の資格や業務に関する法律について 15　その他の関連制度⑤（医療従事者に関する法律） 検査技師、放射線技師等の資格や業務に関する法律について
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：医療保険のしくみ、各種健康保険の種類、保険給付の範囲と種類、医療関連用語を説明できる。 ○Ｅ：医療機関の受付業務、電話応対ができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（60分程度） 事後学習：授業内容を復習し、Google Classroomの小テスト付き課題は期日までに行い理解を深める。（120分程度）
指導方法	テキスト、配布資料を中心に講義を進めながら、医療秘書技能検定の過去の学科問題を解いていく。 接遇、各種保険制度についての課題（テスト付き）を実施し理解度を確認する。 ＊課題のフィードバック方法：Google Classroomでの採点、返却。授業内外で質疑応答。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ｄ：定期試験、課題テストにより評価する。 ○Ｅ：定期試験、課題テストにより評価する。 定期試験50%、課題テスト40%、授業態度10%
テキスト	『ﾃｷｽﾄ1　医療保障制度』『ﾃｷｽﾄ2　算定とレセプト（上）』『ﾃｷｽﾄ3　算定とレセプト（下』（ソラスト・2021年出版）

参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークA（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 テキスト、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識して、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： メディカルクラークＣ　　授業コード： 2641

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
水澤伸夫			
ナンバリング：E18C60			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	病院、診療所、介護、在宅支援施設等の医療・福祉系分野における仕事とその援助。医療・福祉系の職場のコーディネイトや総合事務職の役割を担える基本的医療専門知識を身につける事を目指す。 また、その為に専門職業人同士や、医療・福祉系施設の利用者とその家族など周囲の人々とのコミュニケーションをはかる為の知識と技術を習得する。 (授業目標) ○Ａ：身体構造と機能、疾患の係わりに関心を持ち、チーム医療に触れる医療人の基本が身につけられるようにする。 ◎Ｄ：医学用語を知り、専門書、レセプトの記述が理解できるようにする。
授業計画	1　ガイダンス、医療系の学問の学習法、学習計画。 解剖・生理学概論、骨学、形態学についての概論。 基礎医学と臨床医学の結びつき。医療機関におけるメディカルスタッフの役割の説明。 医療秘書検定の傾向と対策について。 新しい知識の修得であり、事後学習を優先し、次回までに前回の内容の理解と暗記に努力する為の具体例の説明。 2　筋・神経について。 学生が、基礎的人体構造と機能につて学ぶ為に、骨の名称と人体における臓器の位置関係を骨を基本として学習できるようにする。 骨の名称、その名称に由来する筋、血管、神経の名称について学べるようにする。　運動学、リハビリテーション学、整形外科学について。 3　病理学の基礎、用語と疾患の理解。 正常組織・器官と疾患の変化について。病理学用語の意味について。 正常と病的状態の細胞、組織の違い。病理診断の意義と病気の診断について理解する。 正常機能の理解のもとに疾患などの異常状態の把握、検査で用いられる医学英語の略語を知る。 病理学上用いられる専門用語とその使用法を理解する。 4　骨・筋・神経の関連のまとめと運動学について。 運動学、リハビリテーション学、整形外科学に関連する骨・筋・神経の働きと疾患について。 骨の名称と部分の名称。成長及び病的状態の骨疾患。 骨を動かす筋と関節の役割、筋の運動を支配する神経概論。 運動器疾患の医学用語を理解する。 5　体液・血液と免疫について。 人体機能維持に重要な体液の機能について学び、臨床検査の役割を理解する。 血液の正常と異常について、疾患との関わりを学ぶ。 体液・血液における検査数値の正常値幅と異常値の意味を理解する。 体液・血液、特に細胞成分や血漿成分と疾患との関わりを理解する。 6　血液疾患と検査について。 血液検査データの指標と意味。疾患との関係について、具体的に学ぶ。 血液の細胞成分の役割と、血漿成分、流出酵素の正常値と異常の意義。 血液検査数値の具体的役割と疾患における症状、経過に現れる意味について。 貧血、白血病等、代表的血液疾患の理解。 7　循環器と循環器疾患、検査、治療について。 循環器の構造と機能、心臓と出入りする血管。脳に行く血管、腹部を支配する血管の構造、機能、関連する疾患について学ぶ。 心臓の構造と機能、それに関わる検査項目の意味について理解する。 検査、特に心電図（EKG)と心筋細胞異常における異常波形を知る。 8　呼吸器と呼吸器疾患、検査、治療について。 呼吸器の構造と機能、鼻腔から肺胞までの気道について、構造と機能を学ぶ。 呼吸器検査の種類と治療について理解する。 呼吸器の疾患と病態生理の関連を考える。 主な呼吸器疾患、肺がんや小児の気管支喘息などの理解をする。 9　内分泌（ホルモン）と、内分泌疾患、検査、治療について。 内分泌器官の内分泌細胞の位置、分泌物質について学ぶ。ホルモンの名称と働きについて学ぶ。 内分泌腺の病理・疾患、内分泌物質の不足、過剰が引き起こす内分泌疾患について学ぶ。 特に日常多く見る、糖尿病、グレーブス病（バセドー病）、クッシング症候群などについて理解を深める。 ホルモン様物質、特殊な状況時に分泌するホルモン分泌器官を知る。 １０　腎・泌尿器と腎・泌尿器系疾患、検査、治療について。 血液の浄化に関わる腎の構造と機能について学ぶ。腎を構成する部分の名称、記憶すべき数値について。 腎の血液ろ過と再吸収の生理学。腎機能に関わる生理活性物質の役割。 小児の急性糸球体腎炎、成人の慢性糸球体腎炎について、尿路感染症、結石についてその発生を

	理解する。 人工腎臓と透析について、その適応、検査、透析器（ダイアライザー）の理論と構造を知る。 １１　消化器と消化器疾患、検査、治療について。 消化器の構造の部位ごとの役割と、機能について学ぶ。 消化器とその構造と機能（含、肝臓・胆嚢・膵臓）消化管と肝臓や膵臓の機能と疾患の関連について学ぶ。 消化器の疾患と、生活習慣の関連を理解する。 主な消化器疾患について、食道、胃、大腸疾患についてと肝炎、膵疾患について学ぶ。 １２　公衆衛生学の基礎、感染症、病原性微生物について。 疾患全体と公衆衛生の関わりについて学ぶ。高齢社会と疾患の関わり。地球温暖化と感染症の関わり。 細菌、ウイルス、各種寄生虫疾患の感染経路、治療について理解する。 医学の進歩によって生じる、疾患、医原病の公衆衛生との関わりを学ぶ。 各種消毒法、滅菌について疾患との関わりを知る。 １３　小児の成長と発達、小児疾患につて。 小児の正常な成長発達と、小児に多い疾患、または小児疾患の特徴について。 小児の正常反射と異常反射を区別し、疾患と結びつけて理解出来るようにする。 小児と成人との血液成分、内臓機能の違いと免疫力について理解する。 小児感染症、特にウイルス感染における免疫反応を知る。 １４　先天性疾患と外科系疾患について。 染色体の数、形の異常と疾患について学ぶ。染色体の中にある遺伝子の異常と疾患について理解する。 遺伝子と代謝疾患の関わりについて学ぶ。 胎児・胎芽病、染色体異常、遺伝子疾患の分類や定義について理解する。 先天性心疾患や先天性消化器疾患を理解する。小児外科概論について学ぶ。 １５　救命救急と薬品について。 救命救急と検査、処置等について。 救命救急のA(Airway)気道確保、B(Breathing)人工呼吸、C(Circulation) 心マッサージの基本と、二次救命の流れを知る。 救急薬品について学ぶ。
学習成果・ 到達目標・基準	○Ａ：人体の生命現象や構造と機能、各器官系の働きや、それらの持つ意味について医療福祉の概念が持てる。 ◎Ｄ：専門知識に基づく病態生理の説明や人体解剖の図示が出来る。
事前・事後学習	事前学習は、指定テキストの講義範囲の指定をするので、指示の箇所の暗記、自己学習による理解を行う。 不明な箇所がある場合は授業前後に個別な質疑応答で対応する。（90分） 事後学習は、授業内で暗記しきれない部分の自己学習。復習中心の反復練習をする事と、問題演習による見直しを行う。 特に授業内小テストを行った場合は正解の根拠、誤答の場合はさらに間違えに至ったプロセスを振り返る事を行う。 暗記不足の項目は、何度も反復練習を行い、必要に応じ自己学習時間の配分を考え、結果を出すこととする。 新しい知識に関しては、特に事後学習を徹底する。（90分）
指導方法	フィードバック方法として、講義に伴う復習の小テストを実施し、学習進度を検討する。確実な暗記を必要とする項目は目標達成まで反復する必要があるので、同様問題の反復練習を行うなど、シラバスの進行が変わる可能性がある。 小テスト返却の際に誤答に対するコメントを記載する。授業後において、個別のコメントに対する質疑応答に対応する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○Ａ：講義中のメモと復習・確認テストの結果。 ◎Ｄ：講義と配布プリント、問題演習の結果、医療秘書技能検定試験3級の結果。 医療秘書技能検定試験3級の結果　５０％ 授業内小テスト　１０％ 定期試験　40％
テキスト	『医療秘書技能検定試験問題集3級』　医療秘書教育全国協議会試験委員会　つちや書店　2021年度版 『医療事務スペシャリストになる本』水澤伸夫著　すばる舎
参考書	医療秘書技能検定実問題集３級１　医療秘書教育全国協議会試験委員会編　つちや書店　2021年度版
履修上の注意	自主的に授業に参加、復習をするという学習意欲が必要。人体に関わる事は身近な事であり、興味を持つ事が必要。 専門知識は自己流の暗記では無く、系統だった学習で知識を積み上げることが必要であることに留意すること。 医療系国家試験、民間の医療系資格試験の基礎的問題を解く理解度の学習成果を期待する。 この科目を履修する学生は、「メディカルクラークA」「メディカルクラークB」「メディカルクラークD」も履修する必要がある。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	必要に応じ、人体解剖学・生理学に関するDVDを用いて、視覚的な授業を展開する。

講義科目名称： メディカルクラークD　　授業コード： 2651

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	国専：選択
担当教員			
山﨑美和			
ナンバリング：E18C61	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	前期「メディカルクラークA」の授業に引き続き、演習問題やカルテ例題で医療費算定のルールを学び、正しい診療報酬明細書（レセプト）を作成する技術を身に付け、「医療秘書技能検定3級」取得を目指します。 (授業目標) 被保険者証及び診療録の見方、医療費算定の知識を理解し、医療事務に必要な基礎知識及び技術を身に付ける。 ○D：被保険者証及び診療録の見方、算定のルールを学び、メディカルクラークAで学んだ内容を基に、基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な医療費を計算する知識を身に付ける。 ◎E：医療費計算方法と共にレセプト記載方法を学び、メディカルクラークAで学んだ内容を基に、基本的な手術料・麻酔料・検査料・画像診断の正確な診療報酬明細書記載に関する知識を身に付ける。
授業計画	1　手術① 手術料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 2　手術・輸血② 手術料、輸血料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 3　麻酔 麻酔料の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 4　検査①（検体検査：尿・糞便等、血液学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 5　検査②（検体検査：生化学的（Ⅰ）、（Ⅱ）） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 6　検査③（検体検査：免疫学的、微生物学的） 検体検査の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 7　検査④（生体検査：呼吸循環機能～耳鼻咽喉科） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 8　検査⑤（生体検査：眼科～内視鏡） 生体検査の種類と実施料、判断料、低減検査の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 9　病理診断 病理診断の種類と実施料、判断料、採取料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 10　画像診断①（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 11　画像診断②（エックス線診断料） エックス線撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 12　画像診断③（コンピューター断層撮影診断料） コンピューター断層撮影料と診断料、フィルム料の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 13　リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療 リハビリテーション、精神科専門療法、放射線治療の種類と算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 14　入院料（入院基本料・食事療養） 入院基本料と施設基準加算の種類、食事代の算定方法及びレセプト記載方法を学ぶ 15　外来カルテ演習 レセプトを作成する
学習成果・到達目標・基準	○D：手術、麻酔、検査、画像診断の各項目の基本的な計算や加算ができる。 ◎E：基本的な外来診療例（初・再診、医学管理等、投薬、注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断）のカルテから、診療報酬明細書を作成することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容に関する項目についてテキストの該当箇所を読んでおく。（30分程度） 事後学習：授業内容を復習し、カルテ例題の課題に取り組む。Google Classroomの小テスト付き課題は期日までに行い理解を深める。（150分程度）
指導方法	・テキストを中心に、プロジェクター、パワーポイント及び配布資料を用いた授業形式で進める。 ・授業では、主に医療費算定のルールと計算方法を解説するため、事後学習としてレセプト及び算定についての学科問題は課題提出とする。 ＊課題のフィードバック方法：Google Classroomでの採点、返却。授業内外で質疑応答。
アセスメント・成績評価の方法・基準	○D：定期試験・課題を評価する。 ◎E：定期試験・課題を評価する。 定期試験50%、課題40%、授業態度・貢献度10%

テキスト	『診療点数早見表』（医学通信社・2021年出版）、『ﾃｷｽﾄ2　算定とレセプト（上）』『ﾃｷｽﾄ3　算定とレセプト（下）』『ﾃｷｽﾄ4　トレーニングブック』『ﾃｷｽﾄ5　サポートブック』『薬価表』『レセプト用紙（診療報酬明細書）』（ソラスト・2021年出版） 検定対策として『2021年度版　医療秘書技能検定実問題集3級②（つちや書店）』（2021年出版）
参考書	
履修上の注意	「医療秘書技能検定3級」取得を目標に行われるため、「メディカルクラークB（前期）」、「メディカルクラークC、D（後期）」も履修すること。 診療点数早見表、テキスト2～5、薬価表、レセプト用紙、電卓（携帯電話、スマートフォンの使用は禁止）、配布資料は必ず持参すること。 課題は期日までに必ず提出すること。やむを得ず期日までに提出できない場合は提出できる日を報告すること。 毎回の授業が大切なため、遅刻や欠席をせず医療機関に従事することを意識し、資格取得を目標に履修して欲しい。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： Business Conversation: Hospital　　授業コード：2221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択必修
担当教員			
松井恵美子			
ナンバリング：E18B62	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	This course will introduce students to vocabulary words and language they may encounter in a medical setting and to help students feel competent in situations where they must listen and speak to foreign patients. To attain an A/S grade students must continually show a high level of participation and use of the language learned previously. Students must also attain a final test score in the top 10% of the class. (Goals) ◎Ｄ: Students will practice using key expressions, asking and answering questions, reading comprehension, and listening for details in medical settings. ○Ｅ: Students will be required to speak, listen, and write in English in medical settings.
授業計画	1 Introduction to the course and textbook Classroom language, behavior and expectations. Getting to know each other (activities and name cards) 2 What`s the matter ? (Pair work and role play) Parts of the body 3 You need to see a Dermatologist. (Pair work and role play) Departments 4 Let me direct you to Radiology. (Pair work and role play) Directions 5 Let`s check your height and weight. (Pair work and role play. Review test Units 1 through 5 peer marked in class) Measurements 6 I need to ask you some questions. (Pair work and role play) Illness and disease 7 Can you describe the pain? (Pair work and role play) Pain and injuries 8 Rest your arm on the armrest. (Pair work and role play) Instructions 9 Please make a follow up appointment. (Pair work and role play) Time and schedules 10 Take this medicine after meals. (Pair work and role play.) Medicine 11 Your operation will be this afternoon. (Pair work and role play) Operations 12 Visiting a hospital (Pair work and role play) Initial questions, registration 13 Are you feeling more comfortable now ? (Pair work and role play) Hospital rooms 14 This is an emergency. (Pair work and role play) Communication strategy 15 Tests show you have high sugar levels. (Pair work and role play) Internal organs
学習成果・ 到達目標・基準	Students are required to participate in all activities to the best of their ability and achieve the final test score of 60% plus. ◎Ｄ: Students will learn the vocabulary words they will be using in medical settings and grammar to communicate with each other in pairs. ○Ｅ: Students will be able to use key expressions, questions and vocabulary words in medical settings.
事前・事後学習	Homework will be set every week including new medical vocabulary words. (90 mins)
指導方法	The lessons will be taught primarily in English and students will role play in pairs. Each lesson will cover a different topic and also key vocabulary words will be introduced in the class. All students will receive continuous feedback about participation in class. Some of the written tasks will be checked and graded by the teacher.

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D: Will be evaluated based on their participation and performance in class. ○E: Will be evaluated based on tests and writing tasks given in class. Speaking, reading and listening skills demonstrated in each class 20% Assignments 25% Quizzes 20% Test35%
テキスト	English for Nurses. Revised Edition.Margaret Yamanaka. Asahi Press. 2020.
参考書	
履修上の注意	Students are expected to participate in all activities and to work in pair and role play. All the announcements are made through Google Classroom.
アクティブ・ラーニング	Pair work, Role play, Group work
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Powerpoint, Google Classroom等

講義科目名称：　インターンシップ１（国際コミュニケーション学科）　授業コード：2691

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E29C63	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	インターンシップ１は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 （授業目標） インターンシップ１は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎Ａ：実社会で主体性・チームワーク・責任感ををもって行動することができる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署と連携することができる。
授業計画	1　説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明 2　事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。 3　業界別事前研修　業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ①　ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ②　ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③　事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定） 4　インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。 5　インターンシップ研修　（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前学習、事後学習時間を含む）とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。 6　事後研修　課外時間にて実施予定　（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。 7　担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。
学習成果・ 到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。また、インターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ１の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。

アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎Ａ：実社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 〇Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署との連携の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 具体的には、インターンシップ１の事前・事後研修の評価　25%、企業からの評価　50%、教員との面談　25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ１は、授業時間外に説明会、事前学習、実習、事後学習、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期インターンシップは、1年後期、春期インターンシップは2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ１、２の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。１と２との違いは総研修日数(時間)の違いである。１は5日間以上(40時間相当)、２は6日間以上(45時間相当)、１，２ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 ＊新型コロナウィルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称：　インターンシップ２（国際コミュニケーション学科）　授業コード：2692

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	国専：選択
担当教員			
押切孝雄			
ナンバリング：E29C64	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	インターンシップ2は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。 （授業目標） インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎Ａ：実社会で主体性・チームワーク・責任感ををもって行動することができる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署と連携することができる。
授業計画	1　説明会（課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明 2　事前研修（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。 3　業界別事前研修　業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ①　ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ②　ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③　事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定） 4　インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。 5　インターンシップ研修　（実習：受け入れ先企業内研修） 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む）とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。 6　事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。 7　担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。
学習成果・ 到達目標・基準	自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりＡ・Ｂの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎Ａ：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。
事前・事後学習	事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい（60分）。 事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る（60分）。
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。 フィードバックの方法：インターンシップ2の事後学習における振り返り、企業からの評価などに基づく教員との面談を行って、今後の就活についての理解を深める。

アセスメント・成績評価の方法・基準	事前、事後研修、実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 ◎Ａ：実社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 ○Ｂ：スタッフ間、お客様、上下関係のある従業員、他部署との連携の必要性をどれだけ認識できたかを評価。 具体的には、インターンシップ２の事前・事後学習の評価　25%、企業からの評価　50%、教員との面談　25%。
テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。 従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。 自ら探したインターンシップ先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。 インターンシップ１、２の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。１と２との違いは総研修日数(時間)の違いである。１は5日間以上(40時間相当)、２は6日間以上(45時間相当)、１，２ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。 事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。 ＊新型コロナウィルス感染症拡大に伴い、授業時間以外に行う説明会等はZOOMやオンデマンドになることもある。また、インターンシップ先の受け入れも感染状況に応じた対応に変更または中止される場合がある。
アクティブ・ラーニング	
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称：　キャリアゼミ：エアラインゼミ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
木内伸樹、佐藤美保			
ナンバリング：E110A65			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	エアライン業界についての理解を深めるため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） 　Ｃ:グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力養う。 ◎Ｄ:エントリーシートの記入方法を学び、エアライン業界に関する知識や理解を深める。 ○Ｅ:各業界に沿った資格等を取得する。
授業計画	1　オリエンテーション・自己紹介（木内） 授業概略説明、自己PRを踏まえて自己紹介（1人1分） 2　エアライン業界について（木内） ・エアライン業界の仕事内容、業務について学ぶ ・グループに分かれて、業界に関するディスカッション 3　エアライン業界内定者（2年生）による体験談（木内） エアライン業界で活躍する方々の体験談を聞き、就職活動に備える 4　エアライン業界研究１（ゲスト・スピーカー） エアライン業界に特化したSPI対策講座 5　エアラインキャリア講座（キャリアセンター・木内） キャリアセンターによるエアライン業界講座 6　エアライン業界研究２（ゲスト・スピーカー） 業界分析、履歴書の書き方① 7　エアライン業界研究3（木内） 業界分析、履歴書の書き方② 8　キャリア講座（キャリアセンター） 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策 9　グループディスカッション１（ゲスト・スピーカー） ・グループ面接の役割分担等を学ぶ ・グループに分かれて、業界に関するディスカッション 10　エアライン業界研究4（木内） ES作成、就職に役立つ時事問題対策 11　グループディスカッション2（ゲスト・スピーカー） ・グループ面接の役割分担等を学ぶ ・グループに分かれて、業界に関するディスカッション 12　英語資格試験講座（佐藤） 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 13　キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説 14　メイクアップ講座（ゲスト・スピーカー） 就職のためのメイクアップ講座 15　グループディスカッション3（木内） ・２グループに分かれ、グループ面接で役立つポイントを学ぶ ・各グループごとに模擬面接を行う
学習成果・ 到達目標・基準	Ｃ:グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎Ｄ:就職活動に必要なエアライン業界の知識をエントリーシートに反映できる。 ○Ｅ:就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約40分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応

アセスメント・成績評価の方法・基準	Ｃ:グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎Ｄ:課題で評価する。 ○Ｅ:資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）40% 課題　50% 資格取得　10%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	双方型授業に活用。 授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： キャリアゼミ：ホテル・ツーリズムゼミ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E110A65			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ホテル・ツーリズム業界についての理解を深めるため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に沿ってゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） 　Ｃ:グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、適切に判断し行動することができる。 ◎Ｄ:エントリーシート(ES)の記入方法を学び、希望業界についてより深く理解する。 ○Ｅ:ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格等を取得する。
授業計画	1　オリエンテーション・自己紹介（プレゼンテーション: 1分間自己紹介） 授業概略説明、自己PRを踏まえて自己紹介を行う。 2　ホテル・ツーリズム業界研究 1（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界の仕事内容について学ぶ。 3　ホテル見学1(ゲスト・スピーカー) 日系ホテル見学を通して業界研究を行う。 4　ホテル見学2(ゲスト・スピーカー) 外資系ホテル見学を通して業界研究を行う。 5　キャリア講座（キャリアセンター） 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。 6　ホテル・ツーリズム業界研究 2（グループワーク、プレゼンテーション: グループごとにまとめ全員発表） ホテル見学の振り返りを行う。また、ホテル・ツーリズム業界研究の方法を学ぶ。 7　キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説 8　ホテル・ツーリズム業界研究 3（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界で働いている方の話を聞き、就職活動に備える。 9　ホテル・ツーリズム業界志望学生のためのアクションプラン・ES指導 1（ゲスト・スピーカー） ホテルを例として取り上げ、ホテルにおけるクオリフィケーションを考察し、実現のための具体的なアクションプランを作成する。 10　ホテル・ツーリズム業界研究 4 （グループワーク、プレゼンテーション: グループごとにまとめ全員発表） ホテル・ツーリズム業界の研究・分析を行う。 11　英語資格試験講座 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 12　就職活動カウンセリング 1 ホテル・ツーリズム業界就職のための履歴書、ES、自己PRの書き方を学ぶ。 13　就職活動カウンセリング 2 ホテル・ツーリズム業界就職のための履歴書、ES、自己PRを作成する。 14　ホテル・ツーリズム業界志望の学生のためのアクションプラン・ES指導 2（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界就職のための発表やディスカッションの方法を学び、ESを作成する。 15　就職活動カウンセリング 3 ホテル・ツーリズム業界就職のための履歴書、ES、自己PRの作成・推敲を行う。
学習成果・ 到達目標・基準	Ｃ:グループディスカッションに役割があることを認識して参加することができる。 ◎Ｄ:就職活動に必要な知識を修得方法を理解する。 ○Ｅ:就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業時に出された指示に従い行うこと。業界研究やエントリーシートの準備をすること。（約40分） 事後学習：授業内で学んだ知識をまとめ、今後の就職活動に役立てる準備をすること。（約40分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応

アセスメント・成績評価の方法・基準	Ｃ:グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎Ｄ:課題で評価する。 ○Ｅ:資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）40% 課題　50% 資格取得　10%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称：　キャリアゼミ：金融・広告・ICTゼミ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E110A65	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ICTを活用したオフィスワークを希望する学生のためのゼミである。目標とする進路としては金融業界やIT業界など様々な業界、企業が挙げられる。 進路目標を設定するための業界研究と併行して、エントリーシートや面接に必要な自分自身のエピソードを分析・整理する。またSPI対策も行う。 (授業目標) ◎Ｄ：希望業界に関する知識や理解を深め、エントリーシート上に表現できる。 ○Ｅ：自己分析によって掘り下げた自分の価値を他者にアピールできる。
授業計画	1　キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。 2　目標設定 ・現時点での自分の進路目標を整理する。 3　自己PR：エントリーシートとは ・エントリーシートとは何かを理解し、必要な自己PRについて学ぶ。 4　進路面談：就活ノート作成(Google Classroom：自己分析ノートを記述) ・個別面談による進路相談を行う。また就活ノートを作成する。 5　自己分析と業界研究(Google Classroom：自己分析ノートを記述) ・自分の特性と希望業界の確認と研究をする。 6　SPI対策（１） ・SPIおよびCAB対策の学習方法を学ぶ。 7　キャリア講座（キャリアセンター） ・金融・広告・IT業界の概要を学ぶ。 8　SPI対策（２） ・過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題演習を行う。 9　進路面談：就活ノートレビュー(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・就活ノートを参考に面談を受ける。 10　グループディスカッション（１）（Zoom：グループディスカッション） ・就職活動で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 11　内定者交流会(キャリアセンター) ・VTRや経験談から集団面接の実態を学ぶ。 ・内定者の体験談から個別面接での対応や、就活全体の心構えを学ぶ。 12　英語資格試験講座 ・過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う。 13　グループディスカッション（２）（Zoom：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 14　進路面談（１）(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。 15　進路面談（２）(Google Classroom：自己分析ノートへのフィードバック) ・個別で進路面談を行う。 ・この回で面談を行わない学生はエントリーシート対策と業界研究を行う。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：希望業界の特徴を説明することができる。 ○Ｅ：自己分析を行い、文章化できる。
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。（25分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（25分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはクラウド上の就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバック方法：就活ノートはクラウド上でコメントする。グループディスカッションは授業内で全員にわかるようにアドバイスを行う。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｄ：課題で評価する。 ○Ｅ：課題で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）30% 課題（グループディスカッション、自己分析シート、業界研究）30% 最終課題（教員が提出された課題を参照しつつ面談を実施）40%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室も変わる場合があるため注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Netウィッチ

講義科目名称： キャリアゼミ：ビジネス・レセプション・販売 授業コード：
ゼミ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
松井恵美子、押切孝雄			
ナンバリング：E110A65	実務家教員による授業		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	一般企業の受付・営業支援・事務・秘書・販売などを目指して社会に出るために必要となる基本的な知識を学習する。この知識には、社会や企業の仕組み、働き方のヒントが含まれる。また、企業研究、エントリーシートの書き方、面接の方法など、実践的な就職活動対策を行う。ショールームの案内や販売・接客などの業務を行い、戸板の学生を採用の対象とする企業の講演や会社訪問も適宜行うので、各自の就職活動の具体的な糸口を作ることができる。 (授業目標) ◎Ｄ：希望業界に関する知識や、エントリーシートの記入方法などのスキルを活用した就職活動を行うことができる。 ○Ｅ：各業界に沿った資格等の取得に必要な知識を身に着け、活用することができる。
授業計画	1 オリエンテーション（松井、キャリアセンター） キャリアセンターによる講義を含め就職活動についての方法と今後の進め方を考える。 2 自己分析（別宮、松井）、TOITA Fesへの取り組みの検討（学生部） 前半は、自己分析の導入。後半は、学年全体でTOITA Fesに関する説明を聞き、どのように参加するか検討する。 3 企業研究の方法（キャリア教育専門講師）（グループワーク） どのような業界があり、どのような働き方があるかを把握する。 4 業界説明会（キャリアセンター） 接客・事務系企業による説明会 5 面談・企業訪問（１）（松井） 個別面談・大手企業のショールームなど接客関連の企業訪問 6 SPI対策（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） SPI受験の心構えと問題演習。 7 キャリア講座（キャリアセンター） SPI取り組みの予行演習。 8 面談・企業訪問（２）（松井） 個別面談・接客関連の企業訪問。 9 企業研究（松井） 企業研究の方法と実践。 10 内定者交流会（キャリアセンター） 内定者の面接経験発表を中心に模擬面接を実施。 11 英語資格試験（松井） TOEIC IP取り組みの予行演習。 12 就職活動実践講座（１）（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方の演習。 個別面談 13 就職活動実践講座（２）（キャリア教育専門講師）（グループワーク） グループ面談練習。 14 就職活動実践講座（３）（キャリア教育専門講師）（グループワーク） 面接練習。 15 企業研究と今後の就活について（キャリアセンター、松井）（グループワーク） 就活の具体的方法の説明と今後の方針アンケート。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ｄ：希望業界に関する知識や、エントリーシートの記入方法などのスキルを理解することができる。 ○Ｅ：各業界に沿った資格等の取得に必要な知識を理解することができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備する（30分程度）。 事後学習：授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む（15分程度）。
指導方法	キャリアセンターと連携した、キャリア教育専門講師による授業のほか、接客に関わる一般企業への訪問などを状況に応じて実施する。また、学生の積極的な参加を必要とする授業中の質疑応答や、対話・討議・課題発表の機会を多く設ける。 フィードバックの方法：アンケート結果などに基づき、個別面談により就活への理解を深める。

アセスメント・成績評価の方法・基準	◎Ｄ：課題で評価する。 ○Ｅ：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30%　プレゼンテーション:30%　課題：40%
テキスト	授業の要点を資料として配布する。
参考書	授業中に適宜指示する。
履修上の注意	すべての連絡はGoogle Classroom で行うので必ず確認をしてください。(実習などはコロナ禍変更の可能性あり) また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、企業訪問
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称：　キャリアゼミ：医療事務・医療秘書ゼミ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E110A65			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	病院、クリニック、薬局等で働きたい学生に向けて、グループディスカッションなどを通して医療関連業界のための知識や技術を身につける授業である。専任教員またはゲスト講師がゼミ形式で授業を進める。医療関連検定試験の知識を確実にするために、資格試験対策を実施し、合格を目指す。 (授業目標) C：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養うことができる。 ◎D：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深めることができる。 ○E：医療業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション（高橋大） 15回の授業についての説明、自己紹介等 2　医療秘書検定対策講座①（医療関連授業担当教員） 2年間での資格取得についての説明を行う 3　医療秘書検定対策講座②（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 4　医療秘書検定対策講座③（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 5　医療秘書検定対策講座④（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 6　医療秘書検定対策講座⑤（医療関連授業担当教員） 11月に実施される医療秘書技能検定のための対策講座 7　グループディスカッション①（キャリアセンター） グループディスカッションを実施し、就職活動の参考にする 8　グループディスカッション②（キャリアセンター） グループディスカッションを実施し、就職活動の参考にする 9　キャリア講座（キャリアセンター） 医療業界だけではなく就職活動に関する一連の流れや今年度の傾向を聞き、就職活動の参考にする 10　内定者体験談（キャリアセンター） 内定者の体験を聞き、就職活動の参考にする 11　進路に関する面談① 進路に関する面談を行い、今後の活動方針を決定する 12　時事問題①（高橋大）（グループディスカッション：時事問題についてを行う） ある特定の時事問題について、グループで検討し、発表する 13　時事問題②（高橋大）（グループディスカッション：時事問題についてを行う） ある特定の時事問題について、グループで検討し、発表する 14　時事問題③（高橋大）（グループディスカッション：時事問題について意見交換を行う） ある特定の時事問題について、グループで検討し、発表する 15　進路に関する面談②（高橋大） 進路に関する面談を行い、今後の活動方針を決定する
学習成果・ 到達目標・基準	C：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎D：就職活動に必要な医療知識の修得方法を身につけることができる。 ○E：就職活動に必要な医療資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：前半においては検定対策のための準備を行い、その後は業界研究やエントリーシートの準備などを行う。（60分） 事後学習：エントリーシートの仕上げおよび業界研究の発表の準備を行う。（45分）
指導方法	グループワークを通じて、他者の考えを理解したうえで、自らの主張を行えるように指導する。フィードバックの方法：授業内で指示した課題やコメントシートに教員コメントを記載の上、返却する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：授業への貢献度で評価する。 ◎D：課題または資格試験の結果で評価する。 ○E：授業内の提出物で評価する。 授業への貢献度 30%

	提出物　　30% 課題　　30% 資格取得　　10%
テキスト	適宜プリント配布。
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	試験対策に伴い、教室が変更になる場合があるので注意すること。医療関連授業とリンクしているので、双方の授業に出席し、資格取得を目指してほしい。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称：　キャリアゼミ：編入学・留学ゼミ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	国専：必修
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E110A65			
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	大学への編入学及び留学を志す学生のためのゼミです。多様な学生を受け入れますが、そこに一貫する「論理性」と「文章力」を養成するための学習活動を行います。毎回の計画に従って、ゼミ形式あるいは講義形式で、基礎的な英語力、文章力、および想像力を養うための学習活動を行います。 (授業目標) 　Ｃ：グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力ができる。 ◎Ｄ：エントリーシートの記入方法を学び、希望業界に関する知識や理解を深める。 ○Ｅ：各業界に沿った資格等の取得を目指す。
授業計画	1　オリエンテーション 英語力確認テスト 学習計画書の作成 2　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究① 各自の研究している編入先・留学先についてのグループディスカッション 3　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究② 4　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究③ 各自の研究している編入先・留学先についてのグループディスカッション 5　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学先の学校研究④ 6　英語／小論文 編入・留学先の学校研究⑤ 各自の研究している編入先・留学先についてのグループディスカッション 7　英語／小論文 SPI模擬試験（英語）直前対策 小論文問題の特徴と基本的な解法を学ぶ 8　キャリア講座 過去の傾向などを踏まえSPI試験対策として問題を行う 9　英語／小論文 英会話表現①（基本表現） 小論文の展開方法①（Yes/Noを論じる） 10　英語／小論文 英会話表現②（空港・機内） 小論文の展開方法②（問題提起をする） 11　英語／小論文 英会話表現③（交通機関） 小論文の展開方法③（意見を提示する） 12　英語資格試験講座 過去の傾向などを踏まえTOEIC対策として全パートの問題演習を行う 13　キャリア講座（キャリアセンター） SPI模擬試験の解説 14　英語／小論文 英会話表現④（ホテル） 小論文の展開方法④（アイデアの広げ方） 15　英語／小論文 英語習熟度確認 小論文の展開方法⑤（一貫性のある論理的文章）
学習成果・ 到達目標・基準	Ｃ：グループディスカッションに役割があることを意識して参加することができる。 ◎Ｄ：就職活動に必要な知識の修得方法を身につける。 ○Ｅ：就職活動に必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習：学校研究を進める。（約60分） 事後学習：評論を読み直す。授業時に出された指示に従い行う。（約50分）
指導方法	編入及び留学に必要な英語力、文章表現力及び論理的思考力を養うような授業を展開します。 フィードバックの仕方：各自から提出された小論文および課題を添削し、コメントと共に返却します。

アセスメント・成績評価の方法・基準	Ｃ：グループディスカッションでの行動を評価する。 ◎Ｄ：課題で評価する。 ○Ｅ：資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 平常点（授業への貢献度・積極性）50% 課題　50%
テキスト	なし
参考書	授業時に紹介します。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大前提です。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・グループディスカッション等。
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用。 Zoom、Google Classroom等。

講義科目名称： エアラインゼミ　　授業コード： 2711

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
木内伸樹			
ナンバリング：E210C66	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	一年後期に引き続き、エアライン業界についての知識を深めると同時に、自己PR力を養うため、専任教員またはゲスト講師が、毎回の計画に則り、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） Ｃ:グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、思考力や判断力を養う。 ◎Ｄ:就職活動に必要な書類の記入方法を学び、エアライン業界に関する知識や理解をさらに深める。 ○Ｅ:エアライン業界に求められる資格等を取得する。
授業計画	1　オリエンテーション・現状報告（木内）　（プレゼンテーション） ２グループに分かれて、就活状況の報告をする。 2　グループワーク演習、エアライン業界研究と応募書類の作成（木内） グループディスカッション エアライン業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。 3　エントリー用紙指導、エアライン業界へのエントリー用紙作成指導（木内） 履歴書、ES、自己PRの書き方 エアライン業界就職のためのエントリーシートの作成方法を学ぶ。 4　エントリー用紙指導、エアライン業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策（木内）　（グループワーク） 履歴書、ES、自己PRの書き方 エアライン業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。 5　エントリー用紙指導、ホテル業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策（木内）　（グループワーク） エアライン業界分析、履歴書、ES、自己PRの書き方 エアライン業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。 6　面接指導、エントリー指導、エアライン業界志望者のための自己分析・自己PR指導（木内） ＣＡ・ＧＳによる個別指導 エアライン業界就職のための自己分析と自己PRの書き方を学ぶ。 7　面接指導、エアライン業界研究と応募書類の作成（木内、ゲストスピーカー） グループディスカッション エアライン業界研究と応募書類の作成方法を学ぶ。 8　ES指導、エアライン業界研究・就職カウンセリング（木内） 志望動機の書き方指導 エアライン業界研究と就職のための個別指導を行う。 9　エアライン業界スタディ、就職活動カウンセリング、エアライン業界志望者のための面接指導（木内） 業界研究・個別指導 エアライン業界就職に向けてグループ面接・グループディスカッション・個別面接対策を行う。 10　面接指導、エアライン業界研究・就職カウンセリング（木内） エアライン業界就職のためのグループ面接を行う。 エアライン業界研究と就職のための個別指導を行う。 11　エントリーシート・業界研究（木内） ＣＡ・ＧＳグループに分かれて、エントリーシート・エアライン業界研究、個別指導を行う。 12　ＥＳ・面接・ＧＤ（木内）、エアライン業界スタディ・就職カウンセリング 各学生の状況に応じて、エントリーシート、面接対策、GDに分かれて授業を行う。 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 13　エントリーシート・業界研究（木内） ＣＡ・ＧＳのグループに分かれて、エントリーシート・業界研究、個別指導を行う。 14　プレゼンテーション準備（木内） グループに分かれて、情報収集を行う。 15　プレゼンテーション　（木内）　（プレゼンテーション） グループごとに一人5分程度のプレゼンを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	Ｃ:グループディスカッションでの全体像を把握しつつ、自分の役割を意識して参加することができる。 ◎Ｄ:エアライン業界の企業ごとの会社理念やポリシーを説明できる。 ○Ｅ:エアライン業界で必要な資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）

指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	Ｃ:グループディスカッションでの役割を理解し、その場に応じて行動しているかどうかを評価する。 ◎Ｄ:業界研究ノートで評価する。 ○Ｅ:資格試験の結果や授業内の提出物で評価する。 授業への貢献度: 30% 課題・資格取得: 40% プレゼンテーション: 30%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	双方型授業に活用。 授業内で学生の解答、アンケートなど双方向でのやりとりをおこなうためGoogleフォームを活用する。

講義科目名称： ホテル・ツーリズムゼミ　　授業コード： 2721

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
森田千草			
ナンバリング：E210C67	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	一年後期に引き続き、ホテル・ツーリズム業界についての知識を深める。また、自己PR力を養うため、専任教員またはゲスト講師がゼミ形式あるいは講義形式で授業を進める。 （授業目標） Ｃ:グループディスカッションや自己分析、自己PRの積み重ねを経て、適切に判断して行動することができる。 ◎Ｄ:就職活動に必要な書類の記入方法を学び、ホテル・ツーリズム業界についてより深く理解する。 ○Ｅ:ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格等を取得する。
授業計画	1　オリエンテーション・現状報告（プレゼンテーション） グループに分かれて就活状況を報告する。 2　ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成 1 （ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。 3　ホテル・ツーリズム業界研究と応募書類の作成 2（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界研究を行い、応募書類の作成方法を学ぶ。 4　ホテル・ツーリズム業界へのエントリー用紙作成指導（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界就職のためのエントリーシートの作成方法を学ぶ。 5　ホテル・ツーリズム業界志望者のための自己分析・自己PR指導（ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界就職のための自己分析と自己PRの書き方を学ぶ。 6　ホテル・ツーリズム業界志望者のための面接指導 （グループワーク） ホテル・ツーリズム業界就職に向けてグループ面接・グループディスカッション・個別面接対策を行う。 7　ホテル・ツーリズム業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策 1（グループワーク） ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。 8　ホテル・ツーリズム業界志望者のグループ面接・グループディスカッション対策 2（グループワーク） ホテル・ツーリズム業界就職のためのグループ面接・グループディスカッションの方法を学ぶ。 9　ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング 1 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 10　ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング 2 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 11　ホテル・ツーリズム業界スタディ・就職カウンセリング 3 ホテル・ツーリズム業界研究と就職のための個別指導を行う。 12　ホテル・ツーリズム業界研究 1 （ゲスト・スピーカー） ホテル・ツーリズム業界で働くために身につけておくべき知識を学ぶ。 13　ホテル・ツーリズム業界研究 2 （グループワーク） グループに分かれて業界研究を行う。 14　ホテル・ツーリズム業界研究 3 （グループワーク） グループに分かれて業界研究を行う。 15　プレゼンテーション（プレゼンテーション） グループに分かれて、一人5分程度のプレゼンを行う。
学習成果・ 到達目標・基準	Ｃ:グループディスカッションでの全体像を把握しつつ、自分の役割を意識して参加することができる。 ◎Ｄ:ホテル・ツーリズム業界の企業研究を適切に行うことができる。 ○Ｅ:ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格の対策を講じることができる。
事前・事後学習	事前学習として業界研究やエントリーシートの準備をする。（40分） 事後学習として、宿題として出された調査やプレゼンテーションの準備をする。（45分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう指導する。 フィードバックの方法: ①エントリーシート・履歴書にコメントをつけて返却、②コメントに関する質疑対応
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	Ｃ:グループディスカッションでの役割を理解し、その場に応じて行動しているかどうかを評価する。 ◎Ｄ:業界研究ノートで評価する。 ○Ｅ:ホテル・ツーリズム業界で必要とされる資格試験の結果で評価する。

	授業への貢献度: 30% 課題・資格取得: 40% プレゼンテーション: 30%
テキスト	なし
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎回必ず出席することが大切である。教室が変わることがあるので注意すること。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： 金融・広告・ＩＣＴゼミ　　授業コード： 2771

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
別宮玲			
ナンバリング：E210C68	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	ICTを活用した一般企業でのオフィスワークを志望進路とする学生のためのゼミである。 一年後期に引き続き、志望進路に向けた準備を行う。1年次に行った自己分析結果を基にした書類の作成、業界研究、企業研究、自己分析結果と企業研究結果のマッチング、進路面談などのカウンセリングを実施する。 (授業目標) ◎Ａ：希望進路に向けての就活を実施し、終了することができる。
授業計画	1　キックオフ ・ゼミの進め方と特徴の確認。 2　進路面談、就職活動カウンセリング（１）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。 3　進路面談、就職活動カウンセリング（２）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・事前に学生各自がクラウドサービス上に登録したエントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は情報教室でPCによる企業研究を進める。 4　提出書類対策（１）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 5　提出書類対策（２）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 6　提出書類対策（３）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 7　提出書類対策（４）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書の記述とレビュー) ・エントリーシートや履歴書を実際の希望業界や企業に併せて作成する。企業研究と併せてクラウド上に情報をまとめ、随時レビューを行う。 8　進路面談、就職活動カウンセリング（３）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 9　進路面談、就職活動カウンセリング（４）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 10　グループディスカッション（１）（Zoom：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 11　グループディスカッション（２）（Zoom：グループディスカッション） ・就活で良く扱われるテーマを用いてグループディスカッションを行う。 12　進路面談、就職活動カウンセリング（５）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 13　進路面談、就職活動カウンセリング（６）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー) ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 14　進路面談、就職活動カウンセリング（７）(Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレ

	ビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。 15　進路面談、就職活動カウンセリング（８）（Google Classroom：エントリーシート、履歴書のレビュー） ・個別で進路面談を行う。 ・エントリーシートと履歴書のレビューを行う。 ・この回で面談を行わない学生は企業研究を進める。
学習成果・ 到達目標・基準	◎Ａ：希望進路に向けて、いつまでになにを準備すべきか計画し実行できる。
事前・事後学習	事前学習：自分が希望する企業や職種、関連するニュースについて調べ、質問などあればまとめておく。まとめた内容はクラウド上に保存し、いつでもスマートフォンやPCで参照できるようにする。（25分） 事後学習：就職活動に役立つ業界ニュースや自分の経験などを集めた就活ノートを毎授業後に更新する。（25分）
指導方法	企業研究の方法について指導し、自分が希望する就職先について理解できるよう指導する。 自己分析や業界研究についてはGoogle Classroom上に就活ノートとして保存し、教員も共有することで随時添削を行える環境を構築する。 また、グループディスカッションを通して、コミュニケーション力を高められるよう、指導する。 フィードバック方法：面談の際に個別に指導を行う。メールによる個別のフィードバックも併用する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	◎Ａ：個別面談、就活ノート、グループディスカッションで評価する 平常点（授業への貢献度・積極性）30% 課題（就活ノート、グループディスカッション）30% 最終課題（面談。教員が就活ノートを参照しつつ実施）40%
テキスト	授業内で指示する。購入の必要はない。
参考書	
履修上の注意	ITビジネスはパソコンだけを相手にすれば良い業種ではなく、人とのコミュニケーションも非常に重視される。本ゼミにおいても積極的な発言を期待する。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Zoom, Google Classroom, Netウィッチ

講義科目名称：　ビジネス・レセプション・販売ゼミ　　授業コード：2731

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
松井恵美子、押切孝雄			
ナンバリング：E210C69	A ZOOM中継型	実務家教員による授業	
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	一般企業の受付・営業支援・事務・秘書・販売などを目指す就職活動に必須の、履歴書・エントリーシートの作成法、自分のアピールポイントの掘り起し方、面接の対処法、業界・企業の調査法、などを学習する。また、それらの方法を実践した結果をグループで討議し、コミュニケーション能力など就職活動に必要な能力を養成する。 (授業目標) ○Ｃ：自分のアピールポイントの発見や企業研究などをとおして、自分の将来の展望について納得のゆく結論を出すことができる。 ◎Ｅ：就職活動に必要な書類などをわかりやすく整理して作成することができ、面接にも冷静に対処できる。
授業計画	１　オリエンテーション（松井、キャリアセンター）（アンケート調査） 授業の進め方に関するオリエンテーションと今後の就職活動の注意点など、および、就活状況アンケート ２　就活スキルアップ1（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方１：自分のアピールポイントの見つけ方と表現方法 ３　就活スキルアップ2（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） エントリーシートの書き方２：効果的なエントリーシートの書き方 ４　就活スキルアップ3（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 面接練習１：面接の注意点と練習 ５　就活スキルアップ4（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 面接練習２：本番に向けた面接練習 ６　就活スキルアップ5（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） SPIテスト対策 ７　企業研究と個別面談1（松井） 企業研究の方法説明と実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施 ８　企業研究と個別面談2（松井） 企業研究の実践、並行して、適宜担当教員による個別面談、インターンシップ面談を実施 ９　企業説明会（参加企業人事担当者、キャリアセンター、キャリア教育専門講師、松井） 企業の人事担当者のを招いて教室で企業説明会を体験、その前後にキャリア教育専門講師により企業説明聴講と聴講後の心構えを説明 １０　仕事に就いて1（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 自分の就きたい仕事を見つける方法について １１　仕事に就いて2（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 女性のキャリアプラン １２　仕事に就いて3（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 仕事の優先順位の決め方について １３　仕事に就いて4（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 調査・分析の方法（KJ法） １４　仕事に就いて5（キャリア教育専門講師、松井）（グループワーク） 会社に入ってから役に立つ社会人の心構え １５　夏休み以降の就職活動について（キャリアセンター、松井）（アンケート調査） 夏休み中の就職活動の注意事項と対策について、および、振り返りアンケート
学習成果・ 到達目標・基準	○Ｃ：自分のアピールポイントの発見や企業研究などを実践することができる。 ◎Ｅ：就職活動に必要な書類などを作成する方法を理解でき、面接の要領も理解できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の授業で取り上げる、就職活動の取り組み方について何を知っているか、何を知る必要があるか整理し、授業中の質疑応答やグループワークに積極的に参加できるよう準備（30分程度）。 事後学習：授業で提示された外部のリクルート関連会社の支援を積極的に活用して、就職活動に取り組む（30分程度）。
指導方法	キャリアセンターやキャリア教育専門講師による授業などを状況に応じて実施する。また、就職に関する個別面談、質疑応答、グループ討議の機会を設けるので、積極的に参加してください。 フィードバックの方法：個別面談により、就活への理解を深める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	○Ｃ：企業研究や自己分析などによる、各自の将来展望への取り組みを評価。 ◎Ｅ：履歴書・エントリーシートなどの課題への取り組み、および、学習内容の就職活動への反映を評価。 平常点（授業への貢献度・積極性）：30%　プレゼンテーション:30%　課題：40%

テキスト	授業の要点を資料として配布する。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意	すべての連絡はGoogleClassroomで行うので必ず確認をするようにしてください。 本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意してください。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	Google Classroom

講義科目名称： 医療事務・医療秘書ゼミ　　授業コード： 2751

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
高橋大樹			
ナンバリング：E210C70	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	一年後期に引き続き、病院、クリニック、薬局等で働きたい学生に向けて、グループワークや時事問題についての考察を通して社会人としての知識や技術を身につける授業である。専任教員が毎回の計画に則り、ゼミ形式で授業を進める。 (授業目標) 　Ａ：グループワークや個人での調査を通じて、医療人となるための責任感を持つことができる。 ◎Ｄ：グループワークを通じて、社会人にふさわしい、または医療の現場に適した知識を身につけることができる。 ○Ｅ：グループワークを通じて、社会人にふさわしい、または医療の現場で必要な技能を身につけることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 就職活動の現状報告をする 2　就職活動カウンセリング１・スピーチ練習① 今後の就職活動についてのカウンセリングを行う。またスピーチ練習を行う。 3　就職活動カウンセリング２・スピーチ練習② 今後の就職活動についてのカウンセリングを行う。またスピーチ練習を行う。 4　エントリーシート指導・時事問題演習①（グループディスカッション：時事問題について） エントリーシートの添削を行い、時事問題についてグループディスカッションを行う 5　エントリーシート指導・時事問題演習②（グループディスカッション：時事問題について） エントリーシートの添削を行い、時事問題についてグループディスカッションを行う 6　エントリーシート指導① 志望する企業へのエントリーシートや提出書類のアップデートを行う 7　エントリーシート指導② 志望する企業へのエントリーシートや提出書類のアップデートを行う 8　エントリーシート指導③ 志望する企業へのエントリーシートや提出書類のアップデートを行う 9　就職活動カウンセリング① 就職活動の現状についての報告を行う 10　就職活動カウンセリング② 就職活動の現状についての報告を行う 11　時事問題演習③（グループディスカッション：時事問題について） 時事問題についてグループディスカッションを行う。 12　時事問題演習④・スピーチ練習③（グループディスカッション：時事問題について） 時事問題についてグループディスカッションを行う。またスピーチ練習も実施する。 13　時事問題演習⑤・スピーチ練習④（グループディスカッション：時事問題について） 時事問題についてグループディスカッションを行う。またスピーチ練習も実施する。 14　進路面談① 進路に関する面談を行い、状況を確認したり今後の活動方針を決定する 15　進路面談② 進路に関する面談を行い、状況を確認したり今後の活動方針を決定する
学習成果・ 到達目標・基準	Ａ：社会人になるための責任感を実感し、社会に出る準備を主体的に行うことができる。 ◎Ｄ：職場で使用される用語や指示（とくに医療現場での用語）について説明することができる。 ○Ｅ：職場で使用される医療現場における技能や技術について説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業前半においては検定対策のための準備を行い、その後は業界研究やエントリーシートの準備などを行う。（45分） 事後学習：エントリーシートの仕上げおよび業界研究の発表の準備を行う。（45分）
指導方法	グループワークなどの他者と連携することを通じて、他者の考えを理解し、さらに自らの主張を展開できるような指導を行う。フィードバックの方法：授業内で提出したコメントシートに教員コメントを記載の上、返却する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	Ａ：グループワークや協働作業の中で主体的に行動できているかを評価する。 ◎Ｄ：授業中の提出物に書かれた文章で評価する。 ○Ｅ：授業中の提出物に書かれた文章で評価する。 授業への貢献度・積極性３０％

	授業中の課題・提出物３０％ 最終課題４０％
テキスト	プリント適宜配布
参考書	授業内で指示する
履修上の注意	ゼミで使用する教室が変わることがある。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	

講義科目名称： 編入学・留学ゼミ　　授業コード： 2791

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	国専：選択
担当教員			
Ivan Botev			
ナンバリング：E210C71	A ZOOM中継型		
添付ファイル			

授業内容 授業目標 Ａ：主体性・チームワーク・責任感 Ｂ：コミュニケーション能力 Ｃ：思考力・判断力 Ｄ：知識・理解 Ｅ：技能・表現	大学への編入学及び留学を志す学生のためのゼミです。留学を希望する学生は、基礎的な英語力や留学に必要なノウハウを身に付け、留学を希望する国の文化や習慣について学びます。編入学を希望する学生は、編入学入試に必要な小論文や面接の練習の他に過去問題の研究を行います。留学や編入学をするのに必要な試験の対策は授業以外でも進めることが必要です。授業においてより具体的な学習計画を立て、実践することを目指します。また、このゼミを履修する学生は、留学先や編入学における専攻が異なることが予測されるため、面談を定期的に行い、一人一人に合わせた学習計画を立てます。 (授業目標) Ｃ：知識や情報を多角的に収集・分析・整理し、目標にむかって計画を立てることができる。 ◎Ｄ：異文化理解を深め、様々な思想や文化的差異を説明することができる。 ○Ｅ：自らの主張を論理的に伝えることができる。
授業計画	1　オリエンテーション 英語力確認 学習計画書の作成 2　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学についての個別面談 英会話表現①（食事①） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 3　進学・留学準備カウンセリング 編入・留学についての個別面談 英会話表現②（買い物） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 4　英語／小論文 英会話表現③（娯楽） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 5　英語／小論文 英会話表現④（観光・ツアー） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 6　英語／小論文 英会話表現⑤（トラブル対策） 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 7　英語／小論文 TOEFL対策① 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 8　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)①（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 9　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)②（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の試験問題対策 10　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)③（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 11　英語／小論文 TOEFL対策(Reading)④（アカデミックな長文読解問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 12　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑤（講義形式の問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 13　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑥（講義形式の問題） 希望編入学先大学の過去問の小論文実践演習 14　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑦（会話形式の問題） 希望編入学先大学の面接対策 15　英語／小論文 TOEFL対策(Listening)⑧（会話形式の問題） 希望編入学先大学の面接対策
学習成果・ 到達目標・基準	Ｃ：目標を達成するために、必要な情報を収集し分析し、計画を立てることができる。 ◎Ｄ：異文化について、自分の興味のある話題について説明することができる。

	○Ｅ：自らの主張の概要を伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：学校研究を進める。（約60分） 事後学習：評論を読み直す。授業時に出された指示に従い行う。（約60分）
指導方法	編入及び留学に必要な英語力、文章表現力及び論理的思考力を養うための授業を展開します。 フィードバックの仕方：各自から提出された小論文および課題を添削し、コメントと共に返却します。
アセスメント・成績評価の方法・基準	Ｃ：学校研究および個別面談で評価する。 ◎Ｄ：評論文読解および個別面談で評価する。 ○Ｅ：レポート、小論文作成、面接の準備で評価する。 授業への貢献度・積極性 30% レポート・小論文・課題 70%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布します。 辞書を持参してください。
参考書	授業時に指示します。
履修上の注意	毎回必ず出席することが前提です。 必要に応じてシラバスの順番が入れ替わることもありますが、事前にお知らせいたします。 重要な伝達や情報があるので、学校からのメール、ActivePortal、Google Classroomの情報を毎日確認すること。来校時には学内の掲示板を確認すること。 また本授業は7,8時限開講だが、9, 10時限まで延長して行うこともあることを留意する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク・グループディスカッション等。
ＩＣＴ・オープンエデュケーションの活用	インターネットでの情報取得、動画の活用。 Zoom、Google Classroom等。